



木 4

55





門木如4  
號55  
卷

東方學社

賦法寓象  
以助語之  
義之條達  
結神之  
淡若皆不  
錄之故為  
明也  
新聯并  
卷冥極  
錯綜

月大日  
卷五  
氏寄贈



之勢志在死以助洪孫孫之  
也危以夫不富助洪之法  
与厚文章謂墳籍者廢  
猶駭抗之而亦不若猶者  
之及踪必無不遺詩于後

者老狂活富之亦乃狂  
虐氏者一喝也洪孫而隆  
跟振求若有意其十家弱  
之多猶言也亦已採援亦  
戒如病先生淳之誨小子



其所以演說此字用法在  
象密象出精入微吾等  
受而為子轉之名曰助結實  
象遂以上梓布之也言形小  
冊子實大川之一枵大風三

吸何之者帳中之秘乎然  
讀若精思密思在善  
用之以極度化一滴之水與  
猶強之者易之功昌可  
河也哉



文他丙子孫月

門人奧妙弘奇騎員三上博  
流後于安安客舍



助語審象卷之上目次

總論 切

矣也哉來焉旃居諸十三耳爾已那夫耶邪乎同與

二十止只軼尺里思忌且二十而其猗兮些員斯胥二十

盖夫彼渠詎伊侯維惟九粵越同曰聿通繫言猷爰

時二十云噬烝逝此是譏斯茲二十於于乎都案安寔

且之二十厥其戎乃爾若汝附者以用式庸三足可宜儀

當合須同胥應容六攸所見被遭遇受逢觀蒙獲得取附

助語審象 卷之十一 目 喬園歲反



振道緣因由繇自從附依幸 故肆為雖俞爾然而附如幸

親躬自居坐尋行追隨附從旋八幸 敢肯猥濫妄附叨聊

頗向垂九幸 彌愈益增加倍況滋附添卒

明治卅一年二月三日買得古抄喜

助語審象卷之上

明治 年 月 日

氏家

橘園三宅先生口授

宮永寅

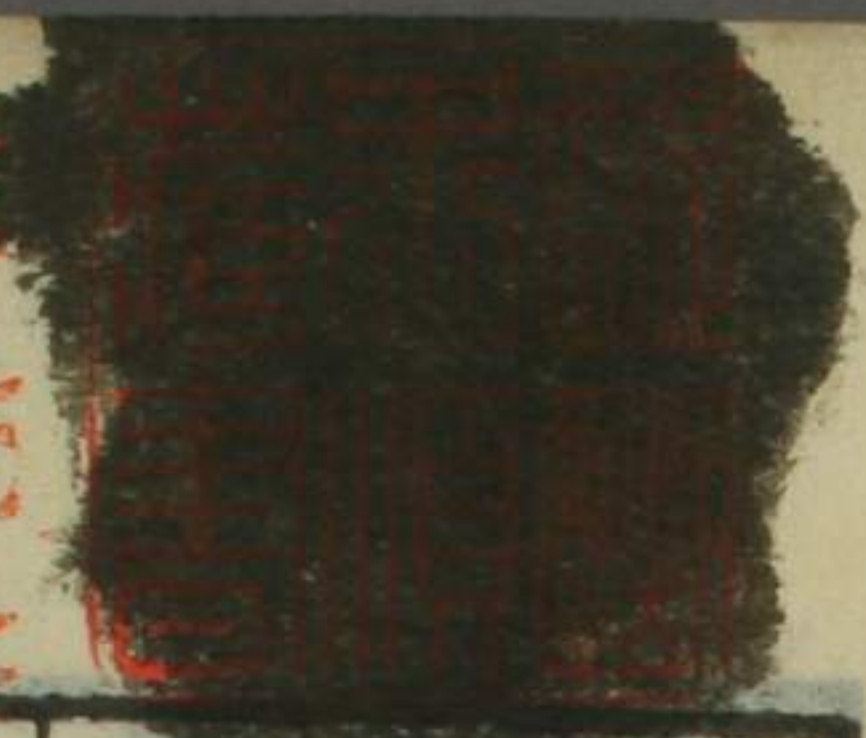
凡文章ヲカクニ助字ヲ用ユテハ何ノ為ソナレハ文章ハ助字

ヲ用ユテ 意象ニク處ヲカタドリ助字ノハタラキニテ其事實ノ

緩急顔色声音ノ有サマニテ今目ニ見ル如クカキトリ論説ノ

條理意象ノ細密ナラ毫ヲ折キ繇ヲ分ツテ詳ラカニコレヲ

橘園



0.30



知ラシムルコナリコノ故ニ先ツ其字義ト用法トヲクワシク吟味シ  
 テ逐一ニ明ラカニコシテ 辨別シ百字ハ百字ナガラ晰然トシテ  
 胸中ニ條理ヲ紊サズ並ヘオキテ然シテ後筆ヲ下スニ非ハ  
 意象ヲ細密ニ書キウツスト成リ難シ漢土ノ人ハ生レテヨリ  
 シテ字音ニ熟シタルコトハ大抵ハ條理ノ違フモノケレバ意象  
 粗暴ナル人ハナラ謬リシキアリト見ヘテ柳宗元モコレヲ辨ル  
 コアリマシテ本邦ニテハ言語モ違ヒ字音ニテザルコトナク  
 日漢ノ思フテコレヲ辨ズハ函弁ニナリヤスキナリ凡助字ヲ

用ルヤスカラサルコトハ本邦ノ天尔於波ニシト云字ヲジト濁ルハ  
 反語トナル如ク助字モ焉字ヲ下ニ用ル地位ヲスルコトナリ上  
 ニ用ル反語トナル敢不ト不敢亦無ト無亦ノ語意相反スル  
 ニテモ用字ノ大切ナルコトヲ知ベシ謂之上之謂欲以下以欲有  
 嘗ト嘗有ノ類上下ニ易ヘ用ルハ大ナル差別アルコトナリ粗率  
 ニ心得ハ條理ノ紛ルコト多カルベシ  
 助字ヲ用ルニ先ツ其字義ヲ細密ニ分子テ其上ニ古人ノ用  
 法ヲ徴シ合セテ精覈シ然シテ後コレヲ用ユベシ字義ヲイマダ



審ニセズシテ徒ニ古人ノ用元例ノミニ倣ハ、タトハ其面ヲ識リ  
テ其心ヲ知ラサル如クナレハ必思ヒテ外ナク錯謬アルベシ今テハ  
多ク字義ヲヨソニテシオキテ只例ノミニ據リテ用元人アリシ  
ハ大ニ危キコナリ特ニ左國莊孟子オドノ文ハ至極手々シ  
妙筆ナクハ變化ニカセテ絶妙ノ用ヒ様多シ今徒ニ其跡  
ニ擬セバタトハ勝敗ノ勢ヲ明ニセズシテ古人ノ奇兵ノミ子ヲ  
スルガ如シ韓信ガ背水ノ陣ハ兵法ニシムキテ一時ノ應變ニ  
詳タルナリ今事勢ヲ詳ニセズシテ背水ノ陣ヲ布カバ誰カ

敗ニザル者アラシヤ用字モ亦妙手ノ迹ヲマ子ヲ覆亡ニ似タル  
コ多カルベケレド文字ノコハ誰モ答ムル者ナキ故ニツレナリニ  
ナシ置キテ自カラ足レリトスルコト愧ヅベキコナリ  
字義ヲ詳ニスルコトハ音紀ニ據テ義ヲ明カスニ非レバ精微ヲ盡  
シガタシ凡字義ニ体用動靜彼我ノ分アリ又遠近淺深ノ  
別アリ又來往アリ内外開合ノ異ヨリテ字義ニ意識ヲ既  
往ニ注ルアリ將來ニ注ルアリ又神象器法ノ分チアリ平声ノ  
字ハ神用活動ノ處ニテ名ケタルナリ上声ハ象ヲ立テ其モ



ヨウヲ想ヒヤリテ名クル者ナリ去声ノ字ハ形ニ屬シテ物ニ言  
フ意アリ入声ハ神用ノ跡ヲ模擬シテ稱スル者ナリ此等ノ  
フハ迂遠ニ似テ實ハ字義ヲ知ル捷徑ナリサレモ意象ノ  
精シキ人ニ非レハ共ニ語リカタシ

凡助字ヲ用ルニ勿論スベテ文章ヲカクニ先ツ明幽両界ヲ  
明ニ辨スベシ凡ソ日ノ光ノアタル處ハ明ナリ日ノ光ノ及ハサル  
所ハ幽ナリ人ノ身ニトリテハ當面ニ目ノ及フ所ハ明ナリ目  
ノ及ハサル所ヲ心識ニ想スル所ハ幽ナリ凡眼前明界ノ下

カ記スニ語辭ノ用ナシ幽界ノ下ヲ心識ニ想カタトリテ書ク  
ニ助字ヲ用ヒテ其條理ヲ分ツコナリ譬ハ當面ニテハ鷺白  
鳥脛短ト書クコナラハ心識ニカ、リテハ白矣白也短矣短  
也ト、書クコナリナラソレノ字ノ下ニ委々注セリ凡助字  
ノ有ル見元處ニ略シテ助字ナキハ皆明界ナレハ是故ニ  
叙事ノ文ニハオツカラ助字少ク議論ノ文ニハオツカラ助字  
多シ此レ自然ノ道理ナリコヲ以テ文章ニ助字ヲ用ユベキ  
處ニハイカホド重疊シテモ苦シカラス用ユマシキ處ニハ一向ニ



ナクテモ佳ナリ何モ多少ニ拘ラヌナリ又叙事中ノ議論アリ  
 議論中ノ叙事アリ此幽中ノ明明中ノ幽ナレ故ニ助字ノ  
 用ヒ様少シツ、カワレリ莊子孟子本ニアヤシキ助字ノ用ヒ  
 方アルハ皆ヨク故ナリソモ、明界ニ助字ヲ用ザルハ何故ゾレ  
 ハ凡助字ハ意象ヲカタドリテ人ニ云聞ス辞ナルニ一字モ幽  
 界心識ニカ、ラザルハナレ故ニ當面ノ、ヲ記スハ決シテ用  
 ナレ古ハモ當面無語トイヘリ予ガ恒ニ言フ明界無助字  
 ト云フ誠ニ助字ノ一大關要ト知ルベシ

古ノ文字ノ用ヒカタ色クニ變化ノツカヒ様ズレ字義ハ一致ニ  
 ナラズレテ叶ハヌコナリモレ音轉スレバ義モ亦轉スレテ同字ニ  
 音ニテハ何レノ書ニテモ其義一定ナルベキコナルニ漢以來ノ註解  
 ハ爾雅ニオラフテ轉注ヲ專トセルヨリ各其所クニ臆ニ任セテ  
 注スル故ニ毫釐千里ノ差ヲナセリ蓋字ヲ發語之辞トモ謙  
 辞トモ疑辞トモ注スル類笑フベキコナリ一字ニテカク數義ヲ  
 兼ルナラハ古人何ノ故ニ數萬ノ文字ヲ造ルヘキヤ學者轉  
 注ニ拘ラズ字ノ本義ヲ較明スベキコナリ



夫蓋ナドノ字ヲ發語ト云フ昔ヨリ言フコトハ一向ニキコナリ  
何ノワケモナキ時ニ發端ナレバトテ助字ヲ置キ理ナレ古人  
ノ文ニ最初ニ夫蓋若夫夫以ナド、書キ出シタルハ其論ノ  
主タルコトヲ姑ク隠シオキ客タルコトヲ先ツ言出シテサテ奥ニ  
主タルコトヲ出シシト照應スルコトアリテ助字ヲ置タルナリ奥  
ニ應スル所ナケレハ初ニ助字ヲ置コナレ又主トスルコトヲ初ヨリ  
言出シタルハ決シテ發端ニ助字アルコトナレ後世ノ文章ニ  
ハ突出冒頭ノ二法ヲ立タルヨリ此惑起レリ冒頭ニカキ

タル語ハ多ク客ニナル故夫字ナドヲ置ケリ然レモト冒頭ト  
云フハ古文ニキコナリ此コトハ別ニ論スベシ今此ニ贅セズ又  
倒裝法ト云フコレ亦故ナクシテ倒裝スルコトサレ無シ其與有  
幾ト云句ヲ倒語法ト注シタルハ笑フベキノ至ナリ古人ノ  
文字ヲ相錯シテ用タルハ皆其意味ノ差別アルコトナリ能  
ク心ヲ注テ考フベキナリ

於越ノ於阿蒙ノ阿ハ發声ナリ發語ニ非ス語ト声トノ別知  
ラズレバアルベカラス庾公之斯ノ之モ助声ナリ此等ハ意義



ナキニ似タレ凡阿於ハ本喉音ニテ神氣ニ物ヲ象ル全体  
スワリク声ナリ之ハ細齒音ニテ神氣ノ彼ニ從フテウツリ行  
ク声象ナリ

史遷班固が同一事ヲ記シテ助字ノカワリテ有ルヲ見テ  
語辭ニハ意義ナシテト、言フ者アリ愚ノ至トイフベシ史遷  
ノ文ハ變化ヲ主トシテ列傳モ一篇ノ體ヲカヘ文字ノ用  
様モ奇詭ヲ專トセリ班固ハ整齊ヲ主トシ前後始終  
一定ニシテ班固が大ニ心ヲ用テ書換ヘタルヲナルヲ猶畧ニ

見ル遺憾ナルヲ深ク玩味シテ其差別ヲ察スヘキナリ  
歌辭騷賦等ノ韻文ニテ用テ散文ニ用ヒサル助字アリ  
コレハ詩經ヲ祖トセル者ナリサレ凡今此ヲトシテ字ヲ散文  
ニ偶用ルコトアレハ容易ナラサルコトナリ又古書ニハ助語ニ用  
タル字ニテ後世ニハ用ヒズシテ韻文ニテ偶用ル字アリ古  
ニハ助字ニ用ヒズシテ魏晉已後用ル字アリ又後世ノ五  
七言ノ詩及ヒ四六ノ文ニハ助字ヲ略スルコト多シ此モ源ヲ  
詩經ニ取タルモノナレ凡是皆浮虛華飾ヲ主トスル故ニ心



ノ真象ヲクニ、寫スニ及ハザル故ナリ

文字ヲ用ルニ古今雅俗ノ別アルコトアリトカク文章ハ西漢

已上ヲ宗トスヘキコナル故ニ今テ徵引スルところ左國史漢ヲ

主トシ旁ヲ諸ノ古書ヲ採ル左國史漢ハ一々書々コトヲ採キズ  
隠元某傳ナド、書ス

其古書ニ用例ナク已ムコトヲ得ズ魏晉以後ノ書ニ及フ

者ハ是後世ニナリテ用元語ナリト知ルヘシ但後世ノ人ハ

心ヲ用ルコト精ナラス故ニ文字ノ吟味モ粗ナルコト多シ法ト

スルニ足ラス因テ今唐宋已後ノ文ハ例ニ奉用ヒズ又近

躰ノ詩ノ語辭ハ多クハ俗語ナリ因テ俗語ノ助字ヲ

別ツテコレヲ末ニ出ス初學ノ輩雅文ニ混入セシコト恐ル

故ニ其科ヲ別ニスルナリ

助字掲上ノ法アリ隔承ノ法アリ掲上ト下ノ語ヲ上ヘ引

上ケ語勢ヲ急ニシテ緊切ニ聞カシムルナリ惡乎成名其

與幾何ノ類ナリ其語句凡ニ掲上セルアリ美哉山河之固

ノ類ナリ隔承トハ或ハ字ヲ隔或ハ句ヲ隔テ下ヘ越サセ

タル法ナリコレハ下ノ句ヲ主ニシテ云タル處ナリ葬故衆而



後ノ類ナリ數句ヲ隔承セル法モアリ委々ハソレノ字  
ノ下ニ注セリ

助字複用ノ法アリ疊用ノ法アリ疊用ノ法アリ複用  
ニ句頭句尾句腰ノ別アリ句頭ノ複用ハ若乃蓋夫ノ類  
ナリ此ハ上ノ一字ヲ全体ノ文ヘカケ下ノ一字ヲ其下ノ一語ニ  
ツケテ其義ヲ見ルコトナリ句尾ノ複用ハ焉矣也夫ノ類  
ナリコレ上ノ一字ヲ句末ノ一語ニツケ下ノ一字ヲ全体ノ文  
ニ係ケテ見ルコトナリ三字四字複用シタルモ此例ニテ推スヘシ

句腰ノ複用ハ既已亦復且猶ノ類ナリコレハ相錯シテ上ノ  
一字ヲ下ノ文ヘ係ケテ下ノ一字ヲ上ノ文ヘカケテ見ルコ  
トナリ所以於是雖則ナドハ上下ノ繋キノ語ナレハ句頭ニ  
アリテモヤハリ句腰複用ノ例ニシテミルヘシ疊用トハ同字ヲ多  
ク用ヒタル于周于京美矣至矣ノ類幾字モ疊用スルコトアリ  
句ヲ隔テ句頭ニ疊用セルモアリ句尾ニ猶サラツ子ク用ル  
コトナリ疊用トハ稍稍故故ノ類ナリコレハ唯オモク言タルニ  
ニ非ス其事ノ續キタル意ノ所ニ用ユルナリ此等ノ數法ヲ



能密察シテ其位置ヲ檢究スヘシ

助字標目歌

矣也哉來	焉旃居諸	耳爾已那	夫耶乎歟
止只軼咫	里思忌且	而其猗兮	些員斯胥
盖夫彼渠	伊侯維惟	粵曰聿繫	言猷爰時
云噬烝逝	此是斯茲	於于乎都	安寔且之
厥其戎者	以用式庸	足可宜當	台須應容
攸所見被	遭遇受逢	振道緣因	由繇自從

故肆為雖	俞爾然而	親自居坐	尋行追隨
敢肯猥濫	聊頗向垂	彌愈益增	加倍況滋
嘗曾惜經	既已業訖	無亡罔莫	蔑靡毋勿
少末微否	曼未不弗	非匪叵難	幾殆危片
乃迺載便	還輒卽則	就登遲動	宛轉見仄
唯徒但亶	啻只徑直	第地立乍	崑尤獨特
甚太奇絕	孔痛酷苦	極至殊異	驟數亟屢
原本主舊	雅素職固	翻還却倒	反般覆顧



身言寶錄 卷之十一  
旋渡漸徐 稍差較良 遄趣頓溘 豫欲且將  
適屬祗多 端鼎正方 偏一誕大 奄丕駿荒  
必會定計 要期斷決 悉備畫單 詳具畢屑  
皆咸僉舉 裁才僅劣 代狎間拾 交互遞迭  
俱偕共併 與及之暨 相胥兩耦 竝竊遲比  
適迄了已 終竟卒遂 連頻仍旋 薦荐恣累  
如若似均 仍故猶尚 幸賴熟倩 信允情諒  
實寔展匱 真洵誠亮 能善克巧 好喜矧况

更改起兼 還復亦又 始初肇甫 造昉在有  
任耐勝堪 慙強咋近 長每恒常 值會耽偶  
抑或果苟 卽儻設試 審就如若 縱借假譬  
嚮匹使令 遣教俾致 拜仵作爲 庶幾上冀  
許頃所可 空虛姑薄 凡最率槩 抵歸類約  
慮諸統合 總切粗畧 幾豈巨寧 孰疇誰各  
詎疾那奈 奚曷何胡 盍闔遐庸 焉安惡烏  
嗟噫嘻戲 唉歎嗚呼 叱啞寒羌 嘯咨都呀



馨麼地阿 頭邊許價 恁儘做慣 忤色上下

等底怎甚 那他這箇 可該是也 解險然些

任放浪謾 不休沒莫 來去除只 說道得着

負取率斗 打赤了却 恰纔剛的 殺生樣脚

向和枉賸 番回子兒 靠交消廝 哩呢咄咦

古今語辭 槩具于斯 精之覈之 勿錯毫釐

右助字ノ目ヲ押韻シタルハ初學ノ輩ヲシテ記得シヤスカラシ  
メンガ為ナリ其複出セルモノハ或ハ同字ニテ語頭語尾ノ用

例異ナルアリ或ハ訓ニツニツアリテ用例異ナルアリ其類々

ニ從ツテ複出ス又標目ニヒレタル字ハ其類々ノ字ノ下ニ附

出セリ搜索シテ見ルベシ又コノ中ニ語辭ニハアラヌ字モ有リ

ケメド類ニ觸レテコレヲ書キツラ子初學ノ人ニ使リスルナリ

字注ニ某者云云之辭トアルハ真ノ語辭ナリ云云日某トアルハ  
助辭虛字相兼ルナリ云云之稱トアルハ助字ニ非ルモノナリ

矣也哉來ヨリ嘆咨都吁マデ四百八十字ハ古文ニ用ヒ

來リタル字ナリ馨麼地阿ヨリ哩呢咄咦マデ八十字ハ

小説俗語ノ助字ナリ其ウチ那是可然ナドノ字ハ前



ニ出タレモ俗語ノ用ヒ法ヲ別ニ知ラシメガ為ニ俗語ノ部ニ  
モ重テコレヲ出セルナリ

○矣也哉來 焉旃居諸

矣 カフツタ 矣者心知其然而直處之之辭 カフツタ

矣ハ幽界ノ心識ニテカヤウナルヘシト定メテ云出ス辭ナリ何

ゴトニテモ當面ニナキトニ我心ニテカク成テスミテアルト定メオ

キテ言フナリ既往カ將來カニ係ケテ語ル助字ナリカフツ

タカフアラフナト言ヒ流シテ辭ノ尾ヲ下ヘ引テ人ニ聞カシムル

意モチアリ 焉字ト相反ス焉 凡他ノ助字ハ明幽兩界ニ涉ル

字モ尋ケレモ矣字ニ限リテハ明界ニハ少シモ係ラス見在



六シヨハ用ヒ又字ナリト知ヘシ矣字ハ幽界ハカリノ字ナリ故ニ昔ヨリ置字ニシテ和訓ナキコトナリ

リ天朝古人ノ始テ和訓ヲ附ラシ人々意象精密ニシテ西キノ字ノ文理ニ審カナルコト分毫モ多クハ又慮コレニテモ觀ルニトカク今人

ハ書ヲヨムコト粗ナルコトニ神識モ其至ル所ヲ盡サハルナリ

論使子路反見之至則行矣今サリタルニ非ス既ニサリテアリタルナリ

左宣二年寢門闕矣トクニヒラケテアツタナリ今眼前五日門已閉矣哀ナ

也則忠其自謀リテハ過ニシテシテオキテ先君ノタメニ謀リシコト當面ノ主ニシテ言ル故ニ忠字ナラ助字ナ

五成申叔時老矣在申前ニ老シテアリタルナリ今老シタルニアラス

已上皆既往ヘ係ル矣ナリカフツタト誤ス

左隱六鄭不來矣不來ニテナリ叔孫我通稱不忘矣不忘ニシテアル

孟子死矣盆成括死ルデ死矣出ルデアラ

全崩曰天王崩復曰天王復矣崩ハ明界見在コトナル故助字ナシ復矣ハカヘリ玉ヘト將來ヲ言スナリ

已上將來ヘカハル矣ナリカフツタト誤スサレ凡矣字ハ徃ニ屬スル

字ナレハ其事既ニシレバキハツ定マリテアルコトニシテイフク

元隱子封曰可矣厚將得衆コレ方今ナレハ心ニカヤウナルヘト定メテ云タルコトニ矣字ヲ置タリ

法用章吾又執之以信齊沮吾不既過矣乎矣字ヲ過字ニ附ケ乎字ヲ



上ノ全文ニカケテ見ルナリ凡句尾  
勅字連用スル者ニテコノ例ナリ  
昭深思而淺謀適身而遠

志家臣而君圖有人矣哉  
哉字全文ニカハル

劇孟吾知其無能為己矣  
也矣焉矣耳矣矣夫

法子至矣盡矣美矣大矣  
鄭王師若在其救之亦必

然矣王心怒矣魏公從矣凡周存亡不二稔矣君若

欲避其難速規所矣  
己ハ句ヲ隔テ、累用セル法ナリ

揭上鮮矣有仁  
鮮有仁矣トアレハ語勢緩ナリ語ヲ緊切ニ

封禪三代邈絕遠矣難存  
遠クカテアルテ難存テコノナリ遠難存

ト書トキハ彼ニ遠タリテ

也  
也者析其條理而示之之辞

也ハコレハカフ云コト、辨別ヲ入レテスチヲワケルナリ説文ニ

也女陰也トアリコレハ同シ人ナレ男ト形ノカワリテ女タ

ルノ理ノ別ル處ナラ以名付タルナリ助字ノ時モコノ

理ジヤト云テコノ理テナイト云モヲ相手ニ持テイフ辞ナリ

也ト矣ノ別ハ矣ハ往ニ属シテ心ニオシスエテ定メ置テ云フ辞ナリ

也ハ來ニ属シテ今引キ別ヲ入テ云辞ナリ譬ハ鷺白鳥脛短ナ  
ド當面ニテ書ク時ハ助字ヲ用ヒズ心識ヘカケテ云トキハ助字アルニ  
鷺ハ白キモノデアツタ白キハツギキナト、云フハ矣字ナリ鷺ハ黒キモノ



身言多  
外

デハナイ白キモノジヤト云ハ也字ナリ  
息脛ハ短クナリテアツク短キモノ  
ノデアラフ上云ハ矣字ナリ  
息脛ハ長キモノデハナイ短キモノ  
ト云ハ也字ナリ

可也 不可也ト云モノヲカタク  
不可也ト云モノヲ心ヲカタク  
可也ト云モノヲ心ヲカタク  
立テ置テスナラ分ルナリ  
也ハ准知  
スヘシ

留侯 穀城山下黄石即我矣  
即我ニテアルト定  
即我ニテアルト定  
即我也 我ニテアルト定  
オイトスデ

ヲ分テ云ヒ  
キカスナリ  
即我 助字ナキハ當面ノツ  
マラ写シタルニナリ

凡ステ假名ニナリテ讀ミテ也字カ矣字  
凡キ様ニ見ユル所ニ助字ナ  
キハ語勢急シテ幽界ノ心慮ヲ語ル  
ニ及ス只當面ノツマラ写シ  
タルニナリ  
ワ字ヲ省キタルニ非ズ  
凡テ助字ヲ畧シテ法此ヲ准知スヘシ

也字句腹ニ用テヤト訓スル時モ先ツ  
辨別ヲ立テ置テ其

事ヲ説キ出スナリ  
句尾ニ用ルモ同

論 回也  
凡人ノ引ワケテ云フナリ  
參乎ハ只呼カケタルニナリ  
凡人名ノ下ニ也字ヲ付タルハミナ  
コノ例ニテ知ルヘシ

論 回也  
凡人ノ引ワケテ云フナリ  
參乎ハ只呼カケタルニナリ  
凡人名ノ下ニ也字ヲ付タルハミナ  
コノ例ニテ知ルヘシ

其舍人臨者晋人也  
逐出之秦人六百石以上奪爵  
遷 秦人ハ也字ナシ晋人ハ六カ  
也字アリ主客ノ多カヒナリ  
淮南 吳興兵是邪非也

宣所謂素封者邪非也  
コレカト訓スレトモ也字ニ疑意  
モアルニテ上ノ語勢ニ牽レテ疑問ノ  
語トナリ  
何也 何字ニ疑問ノ意ヲ持テ也字ヲ  
加ヘタルハソノ語勢ニ問コニナル

何也  
何字ニ疑問ノ意ヲ持テ也字ヲ  
加ヘタルハソノ語勢ニ問コニナル

覆 成汶辰之間而楚克其三都無備也  
夫也字無備ニカ  
夫字全文ニカ  
也焉也矣也乎也與也邪也哉  
上ノ例ニ准知スヘシ

也焉也矣也乎也與也邪也哉  
上ノ例ニ准知スヘシ

也焉也矣也乎也與也邪也哉  
上ノ例ニ准知スヘシ

也焉也矣也乎也與也邪也哉  
上ノ例ニ准知スヘシ

也焉也矣也乎也與也邪也哉  
上ノ例ニ准知スヘシ

也焉也矣也乎也與也邪也哉  
上ノ例ニ准知スヘシ

也焉也矣也乎也與也邪也哉  
上ノ例ニ准知スヘシ

也焉也矣也乎也與也邪也哉  
上ノ例ニ准知スヘシ



累昭十 楚子聞蠻氏之乱也與蠻子之無信也

也字句尾ニ累用スルツ子ノ多キナレハ例ヲ舉ルニ及ハス易ノ象傳ハレウ也字句尾テリ又物ヲ歴ク數元語ニ其不可一也其不可一矣ナド用ルコトアリ留侯世家ニ六國ノ後ヲ立ルヲ議シテ其不可ヲイフニ三ツヨリマハ也字ヲ用四ツヨリ己後ニハ矣字ヲ用

哉 カナ 哉者自我裁之以確斷之辞

哉ハジスト訓ジテコレカラ切分ケテ今ツハジノトスル意ナリ哉生明ノ類ナリ助字ニ用元時モ大哉トイハ外ハ小ナク者ヲオシケレシマフテコレヲ大ナク首トシテコレハクサテモト嘆

異スル意ナリ句尾ニアル時モ推切テドコニテモコノ通リト其上ノ語ヲ推カエシテ云程ノ意持ナリ

矣ト哉トノ差別ハ矣ハ我心ニテカフアルヘシト定メテ外ヘ云出スナリ哉ハ明界ノ物カ事カヲ見テ誠ニカフアルゾト我心ノ幽界ニ引入テ嘆異スルナリ我ヨリ彼ヘスルハ矣ナリ彼ヨリ我ヘスルハ哉ナリ哉ト乎トノ別ハ哉ハ一段意ヲ加ヘテ嗟嘆スルナリ乎ハ唯ソノヲ云カケ

テ人ノ心ヲ引出スルミナリ

仁哉 仁ニナツ 仁矣 仁ニナツ 仁也 仁ニナツ 仁焉

仁夫 仁ニナツ

堯往欽哉 欽メヨト云フヲ念ヲ入テツヨク云フテ哉字ヲ加ヘタルナリ 魯其懼哉 十一



耳言審象

傳十 君其悔是哉

哀十 公曰諾哉 諾ヲタシカニ云タルナリ

司馬相 朕獨不得與此人同時哉 歎ニテ言タルナリ

復家 終為諸侯十餘世宜乎哉 乎字ヲ宜字バカリニツケ哉字ヲ全文ヘカケテ見ルナリ下例此

昭十 為人子不可不慎也哉 檀尚行夫子之志乎哉

論語 子游為武城宰子曰女得人焉耳乎哉 焉ハ為武城宰トコロニナリ耳ハ人

ヲ得タルニスルナリ乎ハソレヲ云カケタルナリ哉ハ推返ニテツヨクイヒタルナリ凡三字四字複用スルモノ皆此例ニ准知ヘシ

累臯陶 臣哉鄰哉鄰哉臣哉

搗榘噲 觀故蕭曹樊噲滕公之家及其素異哉所聞

始皇 善哉乎賈生推言之也 賈生推言之也善哉乎ト云語ヲ勢ヲ緊切ニキカセタヘニ上ニ引上タル者ナル

故句尾複用ノ例ニテ哉字ヲ善字バカリニツケ乎字ヲ賈生推言之也善ト云全文ニカケテ見ルナリ

吳起 美哉乎山河之固 檀仁哉夫公子重耳

哉字句尾ニテリテヤト訓スレ尺哉ニ反意モ疑意モアル

ナレ上ニ豈何ナドノ字アルバ語意既ニ反語ニナリタルヲ哉

字ヲ加テツヨク聞セタルナリ上ニ豈何ナドナキニモ語勢ニテ既ニ

反語モシクハ疑問ノ語トナリタルヲ哉字ヲ加テツヨク云タル

哉字疑意アルヤトニ心得ルハ大謬ナリ

助語審象 卷之上

十八



荀夫又誰為恭矣哉 又誰為恭ニテ恭ヲ為一ハセヌト云語意ナルヲ為恭ト云一ヲ定ルタメニ矣字ヲオキ全体ノ語

ヲツヨク云タメニ哉 何征而不服乎哉 豈字何字ナド反語ノ字上ニアル下ノ乎哉等ノ

字ヲ置タルナリ 或曰齊衰不以弔曾子曰我弔也與哉 字ヲハナシテ語意ヲ見ヘシ何征而不服ニテ征スル処皆服スト云一ニテルニ其服スト云一ヲ人ニ云カケタルニテ乎字ヲ置キ其全文ノ意ヲ重クスルタメニ哉字ヲ

オクナリ 我弔也與ニテ我弔スルニテアルヤ弔スルニテナキゾ ト云語意ナリソレヲツヨク云タメニ哉字ヲオキタルク

獨吾君也乎哉 獨吾君也乎ニテ獨吾君ノコノ君ナルヤサスハナイト云語意ナリソレヲツヨク云タメニ哉字ヲオキタルナリ

來者誘而啓之之辭 サアト訊ス 來者誘而啓之之辭

來入ヲ呼テイガナヒ出ス辭ナリ 哉字ヲ彼ヘコサセテイフキミナリ

孟嘗君傳 長鋏歸乎來食無魚 孟盍歸乎來

嗟來桑戶乎 全嘗以語我來

焉 サアト訊ス焉者提覆之以帖之其地位之辭

焉 本鳥ノ名ニテ鳥ノ類ナリ鳥飛戻天ト云テ空へ上ル性

アリ助字ニ用ル時モソレトコロニナト云意ニテ上ノ文ノ事カ物カ

ノ其地位へモドリテ下ノ文段ヲ其處へ持越シテソコニスハリテ

カフテアルト云意ナリ古人モ焉字意揚ト注セリ 焉ヲコレト訓スルトキ

モ同意ナリ之ト焉トノ別ハ之字ノ下ニ詳ナリ

幼吾嘗長 夫之



矣ト焉ノ別ハ焉ハ焉字ニテ文意ヲ留テ跡ヘ引カヘス意持ナリ  
矣ハ語ノ尾ヲ引テ下言ヒ流スナリ前後ノ別全ク相反スルナリ

宣公卿宣淫民無效焉 子孟雖褐寬博吾不憚焉  
上句ノ

語勢ヲ焉字ニテ受テハ子返ス故ニ反語トナリ莫大焉 孰大焉  
ナドモ同シ語氣ナリ無效矣トアレハ效ヲナキト云フナリ不憚矣ト  
アレハオソレハセヌト云フニナルナリ  
コレヲテ矣ト焉ト差別ヲ推知シ

曹相國 世家 參於是避正堂舍蓋公焉  
焉字避正堂ノ  
處ヘモトルナリ

拒反行飲至舍爵策勲焉禮也  
焉字行飲至ヘモトルニ焉字ナケ  
ハ舍爵策勲ト飲至ト別トニナル

襄 凡書取言易也用大師焉曰滅  
焉字上ノ取  
字ニ係ルナリ

文十 凡勝國曰滅之獲大城焉曰入之  
焉字勝國ノ處ヘモドリテ  
勝トレ元ニテ取ル意ヲコメテ

成 以兩之一卒適吳舍偏兩之一焉與其射御  
焉字兩之  
一本ヲサス

小 執之維之以永今朝所謂伊人於焉逍遙  
焉字ハ上ノ文  
段ヲ認取ニテ

地位ヲスル字意ナユヘ永今朝ガ主ニナルナリ於此於茲ナドナハ伊人ガ主ニ  
ナル於焉ノ字句首句腰ニ用ユレ尾ニ用ユナレ此茲等ノ字ノ下ニ詳ナリ

莊 兩涘渚崖之間不辨牛馬於是焉河伯欣然自喜於

是焉ハハハリ小雅ノ於焉逍遙ノ於焉ト同シ義  
ニシテ見ルヘシ事ノカワリ目ナレ故ニ是字ヲ加ヘタルナリ

覽焉始乘舟 讎焉乃遊以徘徊  
コノ二法ハハハリ於焉ノ意  
ニテ上句ノ意ヲ受テコノ二

置タルナリ奇法ニテ  
類ニ倣ヒガタシ

復昏所以重責婦順焉也 風衛亦已焉哉



掲隠 我周之東遷晉鄭焉依 依晉鄭焉ト云コナラフ晋鄭ノ字ヲ主ニシテハタラカセタル故ニ上ヘ引上タル之

昭三 遲速衰序於是焉在 コレハ人ニ云カケタル語ナルユヘニ急ニシテ焉字ヲ引上タルナリ 於是是焉ノ意ナリ

莊有數存焉於其間 存於其間焉 陳誰侮予美心焉 心切切焉

切 心切切焉 群帝焉取藥 取藥焉

襄三 安定國家必大焉先 先焉

旃者之焉之合也

旃ハ之焉ノ二字ヲ合セタル意ナリ 文ニ重ク体用ヲ具ヘテ

書ク時ハ之焉二字ヲ連用ス輕ク用ハカリヲ云時ハ旃字ヲ用ク

桓初虞叔有玉虞公求旃 法舉茲以旃

居 音姫 居者度其所處以呼道之之辭

居ハ其バシヘスエテ言テミル意ナリ

邨日居月諸胡迭而微 莊侍立乎前曰何居乎

成誰居後之人必有任是夫 誰居其孟椒乎

諸 音コ 諸者之於之合也

諸ハ之於二字ヲ合セタル意ナリ 之于之乎ハシヨモ儼リ

用ニ体用ヲ具ス時ハ之於之于之乎ト二字連用ス輕ク



用ノミヲ云トキハ諸字ヲ用ユ

成ノ會于戚討曹成公也執而歸諸京師ノ諸ハ之于

十八執衛侯歸之于京師寘諸深室上六重ク之ヲトキ  
下八輕ク諸字ヲ用ユ

檀望反諸幽ノ諸ハ之於ノ意ナリ  
論山川其舍諸ノ諸ハ之乎ノ意ナリ

祭勿勿諸欲其饗之也カク如ク貌ノ形容  
用ル時モ同意ナリ

郊特於彼乎於此乎或諸遠人乎

復ニ享待諸乎之ヲ於ニ  
シ乎ナリ

上揭論其諸異乎人之求之與公其諸為其雙雙而俱至也

○耳爾已那 夫耶乎歟

耳而止之切也 耳者而止之合也

耳ハ高カコレレヤト一ナクリニ言ヒコチレテレニナリ

論前言戲之耳戲レヤ 荀天子恭己而止矣而止二字連  
用法ナリ

復子荀雜識志順詩書而已耳則末世窮年不免為陋儒而已

爾如是切 爾者紀此其如是之辭語尾  
之爾

字彙耳爾也如此切トス誤ナリ  
耳ハ内開ナリ爾ハ内開合ノ同ジカラス

爾ハコソトヲリデアルト云意ナリ  
耳ハ徃ニ属ス已ハ來ニ属ス  
爾ハ徃ヨリ來ニナルナリ



禮祭祀之禮主人自盡焉爾重ク云タル全斯盡其道焉耳

輕ク云タル  
故耳ナリ

已音異去声 已者示無復有其他之辞語尾

已ハモフソレギリテスミテアルト埒ヲ付テ云辞ナリ

元後雖悔之不可食已

而已アトデモフニ而字ヲ加レハ一段  
コレテサテアトデソレギリナリ 而已矣ソノスエガモフソレ  
ギリニ定ツテアル

連傳梁王安得晏然而已乎

問尊子何必小功而已ト云タル 豈大功耳前ニ小功而已ト云タル  
凡故ニヨミテハ言ナグリタル

復傳ニ  
用十八莫余毒也已也字毒ニ係ル  
巳字全文ニカル

已矣 已夫 已耳 耳矣 也耳 乎爾 也爾

也已矣 焉耳矣 而已爾 而止耳複用スルニ多キ故ニ  
一々例ヲ卷ルニ及ハズ

那去声収収切 那者諮彼之失所之辞

那ハイカント訓シテナレデアノト問フ意ナリ

後漢韓  
康傳公是韓伯休那舊說ニ那ヲ語餘聲トシ梅賾作モコレヲ引  
タレ死此那字下ノ句ハ屬シテヨム説アリ按ルニ

那字語声ニ用タル  
他書ニ見エス  
旧說非ナルベシ今此例ニテラフベカラス

夫カ  
カナ 夫者認此以屬彼之辞語尾  
之夫



夫ハアノコト、外ニ言フ辞ナリ句尾ニアル時ハ上ノ文意

直チニ斥レ言ハスレテヨソガラナラハテ云フ意持之夫ヲ疑辞ト注スルハ誤

可無憂夫可無憂矣可無憂也ナド、同ク憂ルヲナキト云意ニ九ナリ此ニテ夫ノ疑辞ニ非ルヲ知ヌベシ可無憂焉

可無憂乎可無憂與可無憂邪可無憂哉ナドハ皆反語ナリ哉ハ疑辞ニ非レハレツヨクコヂツケテ云フ字ナルニハ語勢ニテ反語トナリ也ハタダスチワケナラ故ニ豈可無憂也何可無憂也ナド

カケバ反語ナリ矣字夫字ナレバ上ニ豈何ナド字ヲ置クハナシ

昭二 十八 女遂不言不笑夫 援莊 用子 古人之糟魄已夫

揭韓 於戲悲夫夫計之生熟成敗於人也深矣コレハ悲夫ノ終ノニアルベキヲ上へ引上テ語勢ヲ切ニシタルナリ悲夫ハ悲シキカナアノコト、云キニナリ明界コリ幽界ヘユキテ云フナリ

耶カ以速切 又作邪 トモヲ表ト契耶者半信半疑之辞

邪ハテアルカテアル、イカト下返シツ、ウララ返シテ言フ

辞ナリコト入テ深ク推ラ、ワレテ云フ氣味ナリ

昭二 十六 不知天之弃魯邪 我此其以賤為本邪非乎

項羽 舜目盖重瞳子又聞項羽亦重瞳子羽豈其苗裔邪

貨殖 傳 豈非道之所符而自然之驗邪コトニ條一ハ豈ノ下ニ非字アリハ非字ナレ語意相反スル

ニ似テ相反セス紛ラハシキ処ナリ豈ハ反語ナラ故ニ豈其苗裔ノ四字ニテ豈其苗裔ナラヤト云語ナラ耶ノ疑辞ヲ加ヘタル故ニ

カエツテモシモ苗裔同デアル、イモノデモナイト云フニカエル、非字アルハ又ソレヲ下カハ返シテ深ク論シタルナリ



累子莊人大喜邪毗於陽人大怒邪毗於陰

荀將以為智耶則愚莫大焉將以為利耶則害莫大焉

神人尚肯耶不耶肯不二字ニモ聞ヘテアレトモ疑ラ

乎又作辱乎者呼道之以達情於彼之辞

乎呼ノ義ノ深キニ人ニ云ヒカケル辞ニテ別ニ意味アルニ非

ス呼カケテ向ス意ヲ注キテ聞者心ヲ引出ス之疑意ニモ

決意ニモ拘ラス上ノ云カクタル文勢ニテ疑ニモ決ニモ用ルナリ

論不亦說乎ハタ悦ハシキ 卒曰天乎仲為不道殺適立

庶天ハ呼カケ也乎 矣乎 哉乎 已乎

乎哉 諸乎ミナ句尾複

累昭已乎已乎非吾黨之士乎

揭李廣曰惜乎子不遇時語ヲ切ニ聞レタル為ニ先最初ニ惜ヒシヤ

論惡乎成名惡成名乎トイハハ緩ナリ 子道惡乎在

孟辭尊居卑惡乎宜乎コレハ下ノ乎字マダ言

歟又作與歟者教彼聞而裁其然之辞

與ハ我心ニ大槩カフアララカトキワメテ向フノ心ヲ推尋ル辞



ナリ我カ思フヲ云ヒ聞セテ向フニテ然否ヲ判断セセル

意ナリ與字ヲ用ユル語氣柔ニナリテ向フニ遠慮スル

様ニナル故ニ語氣厲シキ處ニ與字ヲ用ヒズ語氣ハ

ケシキ時ハ乎字哉字ナドヲ用ユ孰與ノ與ハ上声ナリ

乎夫與ノ別ハ乎ハ呼カケテ語急ク夫ハヨソニ云辞ニテ語緩ク與ハ向

ク投カケテ至キニ夫ハ往ラ主トス乎ハ來ラ主トス與ハ往ヨリ來ヘユク

此之謂與此ノ謂テ此之謂乎謂テ有此之謂夫謂テハ此之

謂矣謂ニ定ツ此之謂也謂テスチ此之謂也夫謂テスチテ

論語 君子人與君子人也自問自答ナリ 韓詩外傳曰廉矣如仁歟則

吾未之見也

複韓詩用外傳是非類與乎

論語 道之將行也與命也道之將廢也與命也

揭僖其人能靖者與有幾有幾與ノ意ナリ舊說ニ

調其與能幾何能幾何與 仝何辞之與有ハ

檀師與有無名乎有無名與乎

○止只軼咫 里思忌且

止者注意於其所底至之辞語尾之止

止八行ノ反ニテ意ヲ其地位ニ留メテイフナリ



齊風 日月陽止 女心傷止

只ガリト誤 只者見此有而彼無之辞語尾之只

只只相近レ止ハ 体ハ只ハ用ナリ

周樂只君子福履綏之襄二 十七 諸侯歸晉之德只

軼同音ニテ 通ル 軼只並與只同

莊子而奚來為軼コフ 尺字 韋注ニ尺 尺間ト スルハ 非ヤリ 只ト同ク 語助ニ

里ゾト誤 里者質其所處之辞

里居ラヤト訓スル一相似テ 里ハ靜カリ 居ハ動ナリ

大雅 瞻仰皇天云如何里

思コニニ 平声 思者質其用心於茲之辞

思思ハ其所ニ思ヒテ 運シテ見ヨト云意ナリ

大雅 神之格思不可度思 矧可射思

忌キ 忌者躬尋思之而不已之辞

忌忌ハ深ク其ヲ想ヒヤリテ 躬ニツケテ見ル心ナリ

鄭叔善射 忌又良御 忌

且子魚切 平声 且者姑此處之之辞次且且ト 同義ナリ



且ハチヨツトスワリニスル意ナリ 且コレカツニセナド訓スルキハ七也切ニテ上声々下ニ詳ナリ

唐椒聊且遠條且 用鄭狂童之狂也且

王左執簧右招我由房其樂只且 只且カクハカリト訓ス具ハカクナリ只ハガカリナリ

○而其猗兮 些員斯胥

而 サレト訣ス 而者擬有越以承之之辞 語尾之而

而ハダ其跡ニ言フノ心ニテ詞ヲ殘シテ餘意ヲモタセタルノ

四宜若敖氏之鬼不其餒而 言ライヒ終ラスレテヤメタルナリ

用復齊俟我於著乎而充耳以素乎而 乎而サフシテアト訣ス而ハサレテハ乎ハマア

累論已而已而今之從政者殆而 楊雄太玄魁而顔而玉帛班而

其 其者注意於彼以指示之之辞 語尾之其

其ハソレノ方ト指テ用ニレ言フナリ 居ト相近シ其ハ用ニ属シ居ハ体ニ属ス

魏子曰何其 微書若之何其

猗 アレト訣ス 猗者示軟然若不自勝之辞

猗ハホソクトヨハクシク出ル声ナリ アト訓スル法下卷ニ出

魏河水清且直猗 誓斷斷猗無他技

兮 兮者令語函餘響以遠及之辞



兮之為聲馨也  
香之遠聞曰馨

兮ハ語意ヲ引ノハシテ心ニ味テ持テ

居テ餘韻ヲ含マセタル辞ナリ

老禍兮福之所倚

兮ハ辞賦ニ多クアル字  
九ニ例ヲ舉ルニ及ハズ

此去声  
蘇箇切

此者且之轉也

此ハ且ト同意ナリ

鄭風ナドノ且字楚音ハ清高  
ナレ故ニ轉メ此トナリタルナリ

去君之恒幹何為兮四方此

員

員亦云也

云字見  
于後

員ハ云ト同義ニテ言フガアルト云意ナリ

云ハ体  
員ハ用

鄭編衣綦巾聊樂我員

樂我員ト解スルトキハ助字  
ニ非ス姑ク旧注ニ因テ之ニ録ス

斯

斯者舉其有條紀者之辞語尾  
之斯

斯ハ其路合ヒラ持テイフ辞ナリ

コレト訓スル  
例下ニ出

藻二爵而言言斯注斯猶  
言耳也

小雅  
弁菀彼柳斯

胥平声

胥者相洎以處之之辞語尾  
之胥

胥ハスワリニスル地位ニイタリタルライフ辞ナリ

且ハ体  
胥ハ用

小雅  
桑扈君子樂胥受天之祜

右矣ヨリ胥ニ至ルマデ皆語末ニ用ル字ナリ

句ノ中間ニテ  
ルトキモト



語尾ヲモトスル字ナルニハ  
ソノ字ニテ語意切ルト知レ

ニモ散文ニモ通レテ用ル辞ナリ止ヨリ胥ニ至ルニテハ韻文

ニ限リテ用ル辞ナリ只而今ナドノ字散文ニタラシクアレハ皆  
諷誦ノ意ヲ帶ルトコロニ非レハ用ヒナリ

○蓋夫彼渠 伊侯維惟

蓋カイ ケダシ オホム子 蓋者占其梗槩以蔽之之辞

蓋ハ大畧ヲオサエテアテガフテ言フ意ナリ吾心ニテトカマ

ヘ構ヘテ云フキミナリ蓋ヲ疑辞謙辞ナド注スルハ大ニ非  
ナリ疑意モ謙意モアルコトナレモト

蓋織ノ蓋ヨリ出タル字ナリ孝經孔傳ニ蓋者稱辜較  
之辞ト云注的當ニ辜較ハ

酤權ニテ上ヨリ定數ヲ  
立テ其利ヲ占ムルナリ

蓋夫 蓋嘗 蓋聞コノ類スベテ發端ニテハ蓋ノ字  
意其下一段ノ全文ニ蒙ルナリ

其人蓋眇矣句腹ニアルハ其下ノ眇矣ノ一語ニシテ係ルツ子イ  
多クアル字故例ヲ奉ケテ下例ヲアゲサルモ此ニ倣ヘ

夫カソ カソ 夫者認彼以屬此之辞語頭  
之夫

夫ハ其事ヲ客ニシ言フ時夫字ヲ冠ラシムルナリ語尾  
ノ夫ハ

我ヨリ彼ノ明界ヨリ幽界ヘユキテ言ナリ語頭  
ノ夫ハ彼ヨリ我ナリ幽ヨリ明ヘトリ來ルナリ

成子楚人謂夫旌子重之麾也 哀夫非而讎乎

複荀子夫是之謂天君

カハ語客象



又發端ニ夫ノ字ヲ置クハ先ツ外ノイヲ援キ來テ論ヲ設  
ケオキ後ニ當面ノイヲ書出スヘオキニスルナリ

夫以トク 蓋夫 原夫 若夫 以夫 彼夫 夫彼

句頭ノ複用ハ夫以ハ夫字ヲ一段ノ全文ヘ係ケ以字ヲ最初ノ一語ニツケルハ  
蓋夫ハ蓋字ヲ一段ノ全文ニ係ケ夫字ヲ最初ノ一語ニツケルハ餘ハコレニ倣ヘ

累用 夫州吁阻兵而安忍阻兵無衆安忍無親衆叛親

離難以濟矣夫兵猶火也弗戢將自焚也夫州吁弑

其君而虐用其民三夫字ヲ累用ス魯ニテ衛ノイヲ云ユニ  
外ニレテイフ立息ニテ夫ヲ加ヘタリ

彼ヒ カレ カレ 對此以舉其敵曰彼

彼ハ此之反ナリ我ニ對シテ体ニレ言ナリ 夫ハ對テラス唯  
用ニレ言フノナリ

風王 彼黍離離彼稷之苗カレコニアリト  
三意ナリ

渠ヤ カレ 上声 臨彼以斥其所程分曰渠

渠ハ我ニ對スル意ナクシテ唯カレコノバシヨヲ指スナリ

子列以為偶然未詎怪也渠ハ向フヲ輕シ  
三云外ニ用ユ

伊イ カレ カレ 伊者狀止其為物以指之之辭

伊ハコノラノ様子ノモノト輕ク設ケテ云ナリ 彼渠ハ体  
伊ハ用

秦所謂伊人在水一方

力吾家良 卷之三 三



侯コレ 又作侯

侯者處於其所標的之辭

侯ハムカフテ其目アニアタリタル処ヲ云ナリ

射侯ノ字ヨリ  
轉用シタルナリ

周頌  
載 侯主侯伯侯亞侯旅

維コレ

維者實其物繫住之之辭

維ハ其物其事ヲ此地位ニツナギトメテ言フナリ

南維鵠有巢維鳩居之

惟コレ

惟與維同

禹厥草惟繇厥木惟條

維ハ物ヲツナギトメテ置クナリ  
惟ハ心ヲソコニツナギトメテ置クニ

○粵曰聿絜 言猷爰時

粵エツ  
コニ  
オヒテ 又作越

越者有踰邁以來及茲之辭

越ハ段ウチ踰テ其處ニ來リ及ヒタル云

越ハ字義ハ高キ上ノ踰テ  
又能ギ処ヘ下リタル意ナリ

詔惟二月既望越六日乙未王朝步自周

曰コニ  
コニ

曰與粵同

秦我送舅氏曰至渭陽

聿コニ  
コニ 適同

聿者度其所之以位之之辭

聿ハ其ヲサキノ地位ヲ計リテ云意ナリ

ツイニト訓スルモ同  
義ナリ例下ニ出



漢食コニ聿為改歲詩經ニ曰為改歲トアリ曰聿音近キ故ニ通シタルナリ

繫エイ糸コレニ 繫者思之而テ諸心之辭アハト訓スルモ同義アリ例下ニ出

繫糸ハ心ニテコノ処ニトバシヨ立テ言フナリ

億民不易物惟德繫物ハ

言ゲン コニ 言者從其所出以位之之辭テタナリ下ニ繫

言ハズツト其マノハレヨニト云處ニ用ユ

周南言告師氏言告言歸

猷コニ 猶同 猷者擬度以位其所道之辭

猷ハ心ニ謀リテ其スチヲ云ヒ出スナリアハト訓スルモ同義ナリ

大猷大誥爾多邦越爾御事

爰コニ 爰者得所以位之之辭コノト訓ス

爰ハコゾトシテ其所ヲ得タリトスル意ナリ

山海經 豐沮玉門百藥爰在爰字發端ニアリ

時シ 時者示當其宜然之辭

時ハサフナルベキバシヨニ當リタルヲ云

湯誓 時日曷喪 則少事長賤事貴共師時ニ



右蓋ヨリ時マデ十六字ハ語頭ニ用ル字ナリ 彼渠時ナドハ句尾ニ用ルアリ

中間ニアルトキモ皆下ノ語意ヲ引起ス勢ナリマダ侯曰

聿繁言猷時ノ七字ハ韻文ニ用ルナリ 散文ニテモ語命ノ体ニ擬スルカ又

ハ古人ノ成語ヲ切コシ  
各処ニハ用ルアリ

○云噬烝逝 此是斯茲

云イフ カネニト歎言有所蘊曰云

云ハカフ言フコガアルニト云意ナリ 云ハ往ニ属ス言ハ見入ラニ属ス

邶道之云速曷云能來 速キト云コガアルニヨク來ルトイフコガアルニイ

又云字ヲ句尾ニ置ク云云ノ意ニテマダ言フコガアル意ナリ

伯夷傳 蓋有許由冢云 天苑臨大澤無崖蓋乃北海云

噬 コニ 噬者有所豫占以發之辞

噬ハコノ處ハト心ニカミシメテ發スル声ナリ アト訓スルモ義同シ

唐彼君子兮噬肯適我

烝 ジツ 登進而有以結鬱曰烝

烝ハ氣滿テ鬱結シテ出ル声ナリ アト訓スルモ義同シ

烝在桑野 ニスニテ桑野ニ在リトヨム時ハ助字ニ非ス姑ク旧説ニ從ツテ録ス



逝 コ、ニ 往而不反曰逝

逝ハユキ去ツラカヘラ又處ヲ云ナリ

邶 乃如之人逝不古處 ユキテ古處セズトヨムトキハ助字 非ス姑ク旧説ニ從ツテ録ス

右云嗟ハ韻文ニ用ル字ナリ 承逝ハ 詩經ニアルノミテ後世ノ文ニハ見ヘズ

此 コ、レ 對彼以舉其敵曰此

此ハ彼之反ナリ体ニ屬シテ其一ニアルヲ斥ス辞ナリ

荀 有物於此 又爰有大物 爰字コトニアルナリ此字ハ上ヲ 承ル字ニ發端ニ用ルコトナシ

孟 於此有人焉入則孝出則悌 於此ハ上文ヲウケテ置キ有人 孟字己カコトヲ云テ見當コト

ナルコトニ体ニシテ下ニ置リ 又有人於此毀瓦畫墁 コレハ無キ人ヲ假リ設ケル 是ハ來ラ主トス

莊 非此其身也在其子孫 此ハ人ノ其 身ナリ 此事

是 コ、レ 對非以舉其實曰是

是ハ非之反ニ用ニ屬シテソノウチノ様子ヲイフ 此ハ往ラ主トス 是ハ來ラ主トス

此是斯之別ハ此ハ上ノ文ヲ主トシテ上ノ語ヲ引括リテ承テ持テコトノ 事ハ云フ意ナリ 是ハ下ノ文ヲ主トシテ下ノ語ヲ引括リテ承テ持テ云意持ハ

下ヲ喚起ス此ハ事ノ上ニテ彼ニ對シテニ是ハ吾心ニテ是非ヲ分ク云 斯ハ上下ニ主各々ス上下ハ平ラカニ係ルナリ之ハツ指シモアリ

夔 傳 此之謂瓦解是之謂土崩 瓦解ハ体ヲ云土崩ハ用ヲ云 故ニ此ト是ト別チタルナリ

山海 潛為之國是此毛氏 是字潛為之國ヲ解ラ指シ此字其 一ハノ文ハ係リテ今見ル処ノ毛氏ノ国ヲ



体ニシ云ナリ此是毛氏トアレバ此字替為之國ハ、テノ文ヲ引括リ  
テ持テ是字ハ毛氏ト云モノヲ外ノモノトナイコト毛氏チヤト云コトナレ

是維 是茲 斯是 維是 ニナ複用ス

此人也 上ニ云タル人ガ 是人也 コノカフ云コノアル人ガ 斯人也 カフ云ノスチ合ヒノ人ガ

之人也 サフアル人ガ 如此 上ニ云タルトアリ 如是 コノモチマ、ノイナリ 如斯 コノスチ合ヒ

乃ト 如之 ソノト 如茲 コノハシヨ 此日 コノコトヲスル日 是日 コノ

一ノ有タン日ニ 爾日 コノコトノアリタル日 即日 カフアツタコトカソノ日イウチニ 登日

ソノコトヲソノ 其目 ソノ同日ト外ヨリイフ 由此由是此謂是謂 ト下以旨准知スヘシ

於是 コノ時ニオイテ 於是乎 コノコトカ 於是與 コノコトカ

穀梁傳 於是而後授之諸侯也 コレ重語ニ似テ重語ニアス於是ハ其バシヨナリ而後ハ一段段ヲ越スナリ

斯 コノコトニ 舉其有條紀者曰斯

斯ハ詩ニ斧以斯之トアルハ新ヲ割ルニ木ノ理ノ通り

ニサケテ行コナリコレハコレハコト、其スチ合ヲ持テ云字

意ニテ此是ナドヨリハ甚重ク心ヲ用ヒテ言フナリ

襄使臣斯司馬 檀咏斯猶斯舞

茲 コノコトニ コトハシト訣ス 指之以樹於我地位曰茲

茲ハ蓐席ノ稱ナリ語辭ニ轉用スル時モ今コトニカフ



アルト確ニソチエヲ立テ、言フナリノ

三年于茲三年ノ月日ノ多クシ 于茲三年コノバシヨヲ歴シ

今茲ヨトシ 來茲來年

<sup>成</sup>人所以立信知勇也信不欺君知不害民勇不作乱

失茲三者其誰與我コノ茲字モ此字ナレハ三者ノ体云シ

是字トハ三者ノ用ヲ云ナリ斯字トハ

コ、ニト訓スル類複用 爰在 繫有 於繫 粵者

已上發端ニ中間ニモ 茲者 于寔已上中間ニアリ

于爰 於焉已上ハ中間ニテリテ句頭ニモ 于斯 於斯

于是 於是 於此 于此 于茲已上ハ中間ニモ結

句腰句尾共ニ用煩

○於于乎都 寔寔且之

於コトハ 於コトハ 於コトハ 於者舉之處諸此之辞

於ハ体用ヲカ子テ下ト上トハ係ルナリ此地位ニテカアル

ト云フ意ナリ於ハ上下ノ字

于コトハ 于者安其所處之辞



于ハ体バカリニ付テマノ字ノバシヨラスヘタルノニナリ彼地位

ニハテカフアリタルト云意ナリ于ハ下ノ字 彼ニ属ス

乎<sup>コ</sup>ニテハ 乎義見于前

乎句腹ハ用バカリニテ上ノ字ノ様子ヲ語ルニナリ此ノガ

彼方ニテ斯ク允ゾヤト云意ナリ乎ハ上ノ字 彼ニ属ス

志於道道ニ志ス全体ノ用ラスベテ云ク 志于道道カ藝カ何物カトノ辨

別ラスエテ云ク彼道ト云モノニ此志ヲ立ルナリ 志乎道志サス所ノヤスヲ云クコト

論語 南宮适問於孔子 孟或問乎曾西論語ハ問於孔子ト云フヲ文ノ正

ニ立テク主トシタル故ニ於字ナリ孟子ハ孟子公孫丑ヘハ答ノ中ニ曾西ノコトヲ引タルニテカフ云フ或問シテモ有タルゾヤト

云タル故ニ乎字ナリ莊子ナド持論中ニハ於字ナレベキ所ヲ多ク乎字ニシテアルハ皆此例ニテ幽界ノ心思ヲ深クモタセタルナリ

二 閔殺之于夷夷ト云ハシヨニ 荀青出之於藍藍ト云体ニ出スト云フ用ヲカケタリ

周勃傳 匡國家復之乎正コレラカエニシタツ

廿 武王竟至周而卒於周ヒト通り死シタル処ヲ記スナレハ于字ナリ 秦ニ死スベキモノガ周マデ來テ

死シタルソノワザヲ述ル 意ニテ於字ヲ用ナリ 成穆姜出于房出タルハシヨヲ記ス

出タル様子ノワザヲカケバ於字ナリ往クサキハシヨニ對シテ出タル処ヲ舉ルトキハ自字ナリ

裏 十六 涉於樂氏門于師之梁縣門發獲九人焉涉于汜而

幼吾者 卷之止 三十八



身言...

歸 於樂氏ハ本路ニ非ル処ヲワザニ通りタルニハ  
於字ナリ于ハ本路ナルニハ分ツミナリ

九 聖室於怒市於色 ノコニコニニ 假設ノ語ニテ上ニ如若ナドノ字アルベキ所  
ヲコレハ僅六言ニテソノ意ヲコメテ盡シタルモノ

故ニ室市字ヲ活動シテ上ニ置タルナリ實事ヲ  
記シテカク時ハヤハリ怒於室色於市トカクナリ

昭 不脩政德亡於不暇 昭 唯蔡於感 此ニタ臆度言ナ  
故將不暇於亡

必感於蔡ナド、カクキ処ヲ上ノ字ヲ  
畧シテ亡字蔡字ヲ活動シタルナリ

小 雅心乎愛矣遐不謂矣 コ、乎字上ノ於 洛無於水監當

於人監 主トテ活用サセタル故ニカク如ク錯綜セリ

項 本紀 今盡王故王於醜地而王其群臣諸將善地 群臣諸

主ニシテ云タル故當面ニシテ助字ナシ  
故王ノハ客ニナリ於字ヲ入レタリ

梁孝王 茅蘭說王使乘布車從兩騎入園於長公主園 コレハ今カクレ

ハ敬ハタルワザラ云故 全公孫詭羊勝匿王後宮 タル明界ニハ

助字 秋於越入吳 コヲ於ハ発声ナリ後世人名

焉於 語尾ニ用ルナリ語頭 奚於 語尾ニモ語

論 友于兄弟施於有政 コレニテ于於ノ別ヲ見ズルナリ

周 之子于歸 天雅 上帝既命侯于周服侯服于

周 天命靡常 于周服ハ周ニオイトスルコトニイヘル  
ナリ服于周ハ服シタルアトニイナリ

力吾嘗矣

卷之止



身言者象

申伯還南謝于誠歸誠歸于謝トアルヘキニ似タレドモ于字上ノ南ト云地位ヲウケタナリ

風期我乎桑中要我乎上宮明界ノ叙事ナレハ于字上ヘキ

庸莫見乎隱莫顯乎微今コニテハ假設ノ形容ナクニハ于字ナリ

ルヲ云ニ非ス隱レテアレドモ却テ外ノアラハレテアルモノヨリハアキヲカ

如傳司馬相聲稱決乎于茲熟連シタル

累大雅于周于京子孟號泣于旻天于父母

都者相翕以處之之辭

都都ハソレコソ此バシヨニト云處ニ用ユ例並ニ下卷ニ出

司馬相如大人賦終都攸卒注ニ都於也

此賦ノミニテ他書ニ用タルヲオシ粗率ニ効スヘカラス

向キツオイテ詳于後其方其方ヘ向フテノ意ナリ

在ガオイテ詳于後アリト訓スルト同意

案案者貼案者貼此其所奠地位之辭

案ハ其バシヨニヲチツキテ言フナリ

苟是案曰是非案曰非全敵國案曰屈矣

鄧鄧今置質為臣其主安重策秦禍安移于梁矣

寔寔コニニトツリト寔所是之迹曰寔

寔ハ是ノ字ヲオモクシテ其跡ヲイフナリ是ノ入声ニナリ

め吾家象

卷之上

四



仲趙簡賢附勢寔繁有徒

且コレ上声七夜切

將有所移姑此處之曰且

且ハ子ヨツトユトリヲ付テミル意ナリカ少一サ下訓スルモ義同例中卷ニ出ス

周頌匪且有且

之コレ

之者注心於其所識別之辭

之ハユクト訓スル時ハ此ヨリ彼へ移ルスチヲ云フ字ニテ明

界ノ文字ナドモ助字ノ時ハ記者ノ心識ヲ其方ヘ方

シテ其理ヲ指シ言フ辞ニ明幽兩界ニ涉ルル凡テ之

字ハ神用ノ字ニテ其人ノ心ヲ其物ニ注ケテ想ヒヤリテ云

処ニ置ク

當面ノ主タルモノヲ立オキテ其中ヨリ引ワケテ云トキ之字ヲ付ル又其主タルモノニ對シテ外モラ客ニシ云時ニ之字ヲ用ユ

周南葛之覃兮

彼葛ト云モノカソレ覃ヲタナラバト云フノ眼前葛ノ覃ヘルヲ見テ作ルナレバ之字ハイラ又ナリ

陳平子之居楚何官

已前楚ニ居タリ既往ノヲ問ユヘニ之字アリ今楚ニ居ル人ナレハ之字ハイラメナリ

平畏讒之就固請得宿衛中

今讒者アルヲ畏ルハ非ス將來ニ讒ノ就テヲ畏ルナリ

應侯之用於秦也孰與文信侯專

文信侯ノ方主ナルユヘニ之字ナレ應侯ノヲ

容ニシタルユヘ之字アリ

子之所戰處

子ト他ノ者トノ辨別ナリ

子所戰之處

戰フト戰ハガルトノ辨別ナリ

子所戰處

何心ナレニ戰ノ處ヲ云タルノニナリ

力吾...

...

...



凡テ讀クモニ之ノ声ヲ用テ元外ニ之字ナキハ皆明界ノ  
現前ニ有ルコトニハイツテモ之字ヲ除ルコト當然ナリ

之ヲコレト訓スルトキモ同義ニテ之ハ上ノ文段ノ中ノ物カ  
事カラ指テソレヲソレニナド云處ニ用ユ

之上焉トノ別ハ之ハ体ニテ其ノ物一事ヲ指レ馬ハ用ニテハ只其ハヨヲ指ス  
焉字ハ上ノ語ノ外ヘモドル之字ハ上ノ語ノ物カ事カラ下ヘ引來ル來往ノ別アリ

莫之斯鑿 カシガニルコト此 是之不鑿 コノ道理ガアルニカレ

此之不鑿 コノコトハカシガニ 不此之鑿 コノコトヲカシガニ

久之 ソノコトヲ其ガ 久焉 其ガサフ有タ

桓 秦師侵芮敗焉 焉字ヒロク秦師侵三字ノ用ヲ 侵芮敗

之 之字芮一字ノ体ヲ指スユヘ芮カ敗ルナリ

傳 夫史舉下蔡之監門也大不為事君小不為家室以苟

賤不廉聞於世其茂事之順焉 之ハ史舉ノ人ヲ指ス焉

君子非無賄之難立而無令名之患 非難無賄患立而

ドモソコヲ彼ニシ言タル

論 古者民有三疾今也或是之亡也古之狂也肆今之

狂也蕩古之矜也廉今之矜也忿戾古之愚也直今

之愚也詐而已矣 是字肆廉直ヲ指ス之字狂矜愚ヲサス其



元隱愛其母施及莊公詩曰孝子不匱永錫爾類其是之

謂乎 是字詩ノ語ヲサス之字穎考叔ノヲサス此之謂也斯之謂矣ナトモ此ニテ推スベシ

之謂 ソレヲ名ツケテ 謂之 ナラト云フ 庸天命之謂性

天ニテ命ト云モノガ人ニウケ持テ性ト云モノニナル 自誠明謂之性 自誠明ナルモノヲ名ツケテ性ト云

猶君子之謂吉 君子ニスルガヤガテ吉ト云モノニナル 反聽之謂聰 反聽ガコレ聰ト云

二非ス反聽ニスルノカ聰ト云モノニナルク善聽謂之聰ト云トキハ善聽ヲ名ツケテ聰ト云ト云 未見之 見字主テリテコレ見タ

ナリ凡テニ字連續スレバ上ノ字ヲ活動サセテ見ルベシ未之有 未有之莫之知 莫知之ナドモ此例ニテ知ヘシ

之字人名ノ語助ニ用ルコトアリコレハ声ノツマリタル処ニ少シ

心ニ猶豫ヲ持テ之ノ声ヲ挾コレハ万葉集ニ和歌中ノ文字ヲヤク詞トスルト同

子孟庾公之斯 尹公之他 莊石之紛如

○厥其戎者 以用式庸

厥者體彼以指斥之之辞

厥ハソノ物ソノ事ヲ体ニレ言フナリ

堯厥民折鳥獸孽尾 離 浞又貪夫厥家 厥字詩書ニ多ケレ氏後世ハ

韻文ノ外ハアリ用ヒズ左傳ニハ占筮ノ辞ニシテ厥字アリ



其ソソ

其義見于前 語尾之其  
ノ下ニ出

其ハソソノ方一指テ用ニシ云フナリ

其ト夫トノ別ハ其ハ一物一事ヲ指ス  
夫ハヒロク彼ヲ包容シテイフナリ

有其德 其字德  
物ヲサス 其有德 其字ソソ  
人ヲサス

以其道 其字ソソ  
道ヲサス

其以道 其字ソソ  
人ヲサス 其非義 非其義  
オトシナコノ例ナリ

其非有 其字物  
ヲサス

非其有 其字人  
ヲサス 其無人 其字ソソ  
国ヲサス

無其人 其字德  
ヲサス

察其病 其字病  
者ヲサス 其察病 其字醫  
ヲサス

有其其有 其於於其  
其所其本此例ヲ推シ

秦不其然 セマニ究ツデアリ  
サナルヲソソレニハ

檀 ソレハサアル  
ニハセラレマシ  
引其不然乎

衛其兩其羽 コレハ兩フル用ニナリテアルト呼カケタルナリマタ  
其字ソソレト呼カケテ語勢ニテ反語ニナルモアルハ

用復唐彼其之子碩大無朋 司馬  
法 不加喪不因凶所以愛

夫其民也 其諸 其與

戎者斥彼之所内之辞 ナソソ  
ナニデ

戎ハ彼ノ内ニ持タル所ヲサレ言フナリ 戎乃ハ事ノウヘニテ云フ  
爾而ハ人ノウヘニテ云フ

乃 下スチナク下ニ詳ナリ  
イニシト訓スルト同意ニ彼今ニテノアリサヲサタ

盤設中于乃心 ナソソ  
ナニデ

爾 義見于前  
彼カアルト云ルヲサス 子孟其至爾力也其中非爾力也

力吾嘗象



而 ナソフ 義見于前

以固而閉

汝ヨリ雨ハカロク 爾ヨリ而ハ輕シ

若 ナンヂ 見干下

汝 ナンヂ

對余之稱 汝ハ助字ニ非シトモツイテニ録ス

者 テイレバ

者者即物標之之辞

凡事物ヲ指レ言フテ其下ニ者字ヲ置クハ其事ハカリヲ主

ニ立テ外ナキモノニレテ言フナリ

古者 今ハツコトシ

今者 古ハソノ事ナシ

今也 古ハカヤフ今ハタト分ツナリ 今則

古ヲ主トシ今ヲ客トシ言フナリ

今 トハカリアレバ古ノコトニ拘ハラズ當面ノ処ナリ

仁者 知者

コノ類者字ノ上ノ字活レ見ルヘシ但コノ類ハ助字ニ非ス

樂者德之華也金石絲

竹樂之器也

樂ヲ主ニシテ金石絲竹ハ其ウケヨリ出タル物ニ者字ナシ

樂也者 樂ト云モノ

スヂ合ヒヲワケテイハ

乃者

抑者

意者

顧者

何者

不者

然者

其者

或者

或者曰

ミナ其事ヲ主トスルコトニ者字ニオクナリ

以 モツテ

以

秉之而揮霍之曰以

以我ガソレヲ自由ニ持アツカフ意ナリ

是以 是字上ノ語ヲウケ

以是 是字ソノ一事ヲサス

何以 以何ナドモ此ニテ准知スヘシ

禮以四時為柄以日星為紀月以為景鬼神以為徒星

以上ハ我ヨリ天地ヲ法則トシ解ヲ言フニ以字上ニ置キ月以下ハ旁ヲソレニ及ブ意ニテ以字下ニ置タルナリ



孟徒法不能以自行以字徒秦以不能保我子孫以字下

雅以莫不增以字下語ニカ孟有司莫以告以字上語ニカ

論羔裘玄冠不以弔羔裘玄冠ハ弔羔裘玄冠以不弔セトカ

不可以已ヤメラレヌ可以不ヤメラレヌ

已ヤメサル余以所見ハ見以余所見ハ見

以花喻美人此花ヲ以彼ノ美人一喻

以美人喻花此美人ヲ以カシコノ花ト云モニ喻ルナリ美人ガ主トナル

トキハ較花及美人而品之ナド書クキナリ

昭四紂作淫虐文王惠和殷是以隕周是以殷

庸以用以コナ複用ス

以為ハ心ニサシヤ謂ハ心ニサシヤ惟イテ途ニ

意ヲモフニ億同想ヲモフニ顧ヲモフニ

用イコフ顯然動而為之曰用

用ハ彼ニテソノ用ニナリタル所ヲ云以ハ我カラソク

君子屢盟乱是用長是以ナレハ盟カラコトガラテ乱ガ長シ

敢用用字上



式シヨク モツテ シテ 受 シテ 其軌而有以作曰式

式ハ上ノ語ヲ承テ其通りニシテテ行クト云処ニ用ユ以ハ用式ハ体

鹿鳴之什 嘉賓式燕以樂

庸イヨク モツテ ニ 受彼以有所造曰庸

庸容ト通スイレユスノ義ナリ 庸ヲ語頭ニオケハ反語トナリイッテト訓ス例下卷ニ出

昭シヨウ 使其除徒執用以立而無庸毀

將シヤウ モツテ 見于後 ソレニシタカフテ行フ意ナリ

○足可宜當 合須應容

足シヨク タス 纔充其量曰足

足ハアト云字ニ其物ニシホトノハ付テアル意ニシテシヨクニ

ナリテアルコト 足見 可見 足ハ彼ガツホトニテツテアルナリ可ハ我ヨリ判断ニシテ云ナリ

可カ ベシ セラルト 可者許之之辞

可ハサフセラルコトヨト我ヨリ判断ニシマフテヤルナリ

不可與アタタニハ 不可與アタタニハ 深可歎歎スヘキ

可深歎歎スヘキ 不可一日無一日トイヘドモ無クテハカナワヌ 一日不

可無一日ニナツタ日ヲサスマテナリ

力吾者良 卷之七 四二



九信可無會也信スルナキニ可無會矣會スルナキニセラ可無會信スルナキニセラ

焉焉字ニテハ反焉語トナルナリ焉焉字ニテハ反焉語トナルナリ焉焉字ニテハ反焉語トナルナリ

可無可不下助字可無可不下助字ニキ時ハ句頭ニアリテ可無可不下助字可無可不下助字ニキ時ハ句頭ニアリテ

漆葉青黏散華佗授弟子可服之年百餘歲コレヲ服漆葉青黏散華佗授弟子可服之年百餘歲コレヲ服

餘歲ニナラルト藥ノ全体ヲ云ナリ服之可年百餘歲トカクドキハコレヲ服セヨ服セハ百餘歳テレゾト今命スルコトハニナルナリ

宜儀同宜儀同宜儀同宜儀同宜儀同

宜儀同宜儀同宜儀同宜儀同宜儀同

宜儀同宜儀同宜儀同宜儀同宜儀同

宜儀同宜儀同宜儀同宜儀同宜儀同

子孟不見諸侯宜若小然レカト云ハスニ辞子孟不見諸侯宜若小然レカト云ハスニ辞

用東方朔傳堯舜之隆宜可與比治矣レカト云ハスニ辞用東方朔傳堯舜之隆宜可與比治矣レカト云ハスニ辞

當去声當去声當去声當去声當去声

當去声當去声當去声當去声當去声

斷スルニ非ス以前ヨリコノハツシヤト云意持ナリ當ハコトハ確斷スルニ非ス以前ヨリコノハツシヤト云意持ナリ當ハコトハ確

武安君傳非大王立當誰哉淮南子武安君傳非大王立當誰哉淮南子

助語審象 卷之十一



合カフベシ マサニ 以此推彼之宜然曰合

合ハ其恰好ガカフナリソノ子知ジヤト云フナリ 當ハ其ノ理ツメテ云合ハ見ハカリニテ云

家語 桑穀野木而不合後漢杜林傳生朝 不合翻移

須スベシ スベシ 通作胥 セヨト誤 須者命事之辞

須ハカフスルガヨレト命スルコトハナリ

策須以决事倉公傳胥與公往見之須胥同音テ通シタルナリ

應オウ オウ ナレベレ平声 度彼之將爾曰應

應ハ外ハヨカクアルベシト推量ニテ云辞ナリ判断ノ辞ニ非入 當ハ我應ハ被

家語 匹夫熒侮諸侯者罪應誅

容イホフ 受彼以聽其所造曰容

容ハ我ヘウケ入レテ一段コレユレテオク氣味ナリ

不容オウ 自オウ 不容オウ 自オウ 不容オウ 然トナルナリ

後漢馬援傳 受誅之家容因事生乱 容字ハト訓スレドモ當宜本トハ大ナレ違ヒテ罪不當誅罪不宜誅

不可誅ナトハ皆誅セラレスト云フナリ 罪不容誅ハ誅ヲユルサレスト云フナリ容ハ一段越シテ云字ナルユナリ

後漢李固傳 况受顧遇而容不盡乎 容庸通シテ庸ヲイヅクニゾト訓スルト同ク上ニアレハ反語トナシ

ベト訓スル複用 可應 可宜 可須 應須 應可 當須

カ語審長

四一八



宜當 須可 當宜 當應 應合 應當 宜可

○攸所見被 遭遇受逢

攸 トコロ 畫其地位曰攸

攸ハ我ヨリ其地位ヲ定メテ云 攸ハ來 所ハ往

雅小 萬福攸同 攸字後世ハ韻文ノ外ハ用ヒズ

所 トコロ 算其地位曰所

所ハ彼ニテ定マリテアル地位ヲ云 ヲルト訓スルモ同義ニテ彼ノ サナリタル其物ニリテイフ

所以 句腰接用ノ例ニテ以字ヲ上ノ語 信知人所以立 以ハ信 知ヲ以

ナリ所ハ ナリ所ハ 聖德乎天地歳之所以無水旱也 上文歳ノナリ 說來リテ歳

字主ト ナリ 聖德乎天地所以歳無水旱也 上文聖德ノナリ 說來テ聖德ヲ主

ナリ トセリ 其所不知 非其所知 所其不知トカケ ハ不成語ナリ

爾所 トコロ 處所 處ハシ

見 ケシ 值彼之接我曰見 去声

見ハ向フカラサセラルハナリ

傳 ニ 隨之見伐不量力也 所見 為見 見被 為所

被 ヒ 受其掩冒處之曰被 ラル



被ハサフナリテソウウチニ在ル意ナリ

魯仲連傳以萬乘之國被圍

所見ノ三字ハ体ニ被ナリ  
被ヨリ以下ハ皆用テ我ナリ

遭サウラル

遭ハメグリアフナリ

惠帝紀 遭太后虧損至德

行復相值曰遭匝ト同音ナリ

遇グラル

遇ハ出クハセニサフナリタルナリ

淡巧出乎不意曰遇

受シウラル

受ハソクヲ我ニウケトメタルヲ云

從而有以獲曰受

韓非子見下節而遇卑賤

後漢祖帝紀 李膺等受誣為黨人

逢ホウラル

逢ハ中途ニテタガヒニ出アツラ云

中路相遇曰逢

覲ヒン

遇ト義近シ

蒙ボウ

被ト義近シ

獲クワク

受ト近シ

得トク

同上

後漢書和熹傳 將杜根逢誅

取シユ

同上

為風所吹

風所吹

為風之所吹

為風見吹

風見吹

被風吹

遭風吹

遇ヨリ以下取  
至ルマテコナ

コレト同  
例ナリ

イッレニテモ比自コ例ニテ所見ニ字ハ其物ノ下ニ  
置ク其餘ハミナ其物ノ上ニ置ク彼我ノチカヒナリ



○振道縁因 由縁自從

振ヨリ 收整而有以發起曰振

振ハ其ウチヲトリオサステ云意ナリ 振字ヨリト訓スレモ 振古外ハ用ルヘクナシ

周頌匪今斯今振古如茲 古ヲ振テトヨム時ハ助字 非又姑旧説ニ從テ録ス

道タウ 依此以達其所往曰道

道ハソレヲミチニシテタヨリ來ル意ナリ

韓非有玄鶴二八道南方來 樗里疾已道允闡之矣

縁エ 遵其所限曰縁 エトヨリト訓スル ヨリ轉用フ

縁ハソレニヨリシテ行ク意ニ 舊傳此火異所縁而起也

因イン 係彼而坐此曰因

因ハ幽界ヨリ出テ明界ヲ言フ譬ハ化シテ異物トナルガ如シ

傳田傳 自立為齊假王漢因而立之 續廣卒於陶而因葬焉

由ユ 循此而届彼曰由

由ハ明界ヲ言フテ幽界ニ入ルナリ譬ハヤリ其物ニテ形

色變スルガ如シ 因ハ体ニ属シ來ヲ主トス由ハ用ニテ往

孟子由平陸之齊 平陸ニ居タルニヨツテ 由是觀之 コトヲシテ



由爾言余ノ言ニシテカフ

因爾言余ノ言タニ付

繇ヨツテ

繇音由

繇ハ由字ヲ專クシテ  
体用ヲ多クタル処ニ用

漢文 紀 無繇教訓其民

繇モト徭役ノ字ニテ音搖ナレ  
ドモヨルト訓スルトキハ音由ナリ

自ヨリ

カラト訳ス

對他舉其所出曰自

自ハ其中間ヲ除ケテ向フノサキニ對シ唯其出ル処ヲ舉ゲナリ

東方自出東方ヲ見テ非レハ  
ソレカラ出テタル

出自東方出ルハ東方ヲ云  
入ニ對シテ云

自東方出外カラハ出又東  
カラ出テタル

來自東白東來始自漢  
自漢始

論語 奚自曰自孔氏

定 自南門入出自東門  
ニナニノ例  
ニ推シ

十五 夏氏之乱成公播蕩又我之自人 調子頽之乱又

鄭之由定

昭叔出季處有自來矣

モトカラ叔出季處  
ニナリケヤルナリ

有由來矣

由字ニハヨリヨリシテ  
彼ヲニナリ來ルナリ

十八 還自南河濟

十五 晉侯濟自泮

楚師分涉於彭

コハ本路ニ非ル処ヲ以テ  
通リタルニテ於字ヲ用ナリ

從ヨリ

車声

趁其所

路而就之曰從

從ハ其中間ヲ付テ行ク路スチ云ナリ

タトハ京カラ紅瓦ノ向ニ對  
シテハ自字ナリソノ行クハ

東海道カスミカ中山道ヨリ  
行カトイフハ從字ナリ

四 昭從古以然

自古ハ古ノ始トイフ云從古  
ハ古ヨリ今々テノ問ヲイフ



用復自從ヨリソスナヘ從自ソシカラソク自於ヨリ自于ヨリ

楚ヨリ自從先君以至不穀之身紀秦法之不行ヨリ自於貴戚

班ヨリ獲趙飛燕姊姊亦從自微賤興ル依ヨル

○故肆為雖 俞爾然而

故コト為カス雖ニ 俞爾然而 語舊以待今日故

故ハ其モトノ實ヲ舉テ言キカスナリ

三隱為公故曰君氏為ト故ト重ルニ似タレ氏為ハ彼ニ

昭十我之不共魯故之以故ト以ト重ルニ似タレ氏故ハ其

非韓此所以無辨之故也元閔六月葬莊公乱故是以緩

傳二子玉收其卒而止故不敗二衛侯不去其旗是以甚

敗ハ上ノ語が主トナルヲ是以ハ是故 以故 故因

為是故 夫然故 複用多キニ例ヲ畧ス

法隔元太子少葬故有闕太子少故葬有闕トカクヘギニ似タレ氏モト

置臣故我故不此准知ス故ト故ト疊用

肆者尋往以逮來之辭以ハ往ラキト

肆ハ故今カクアルト云意ナリ宋景濂が文ニ肆字ヲ発端ニ用タル字



スルトキモ古昔ハ皆上ラ  
受テ故今ク意ナリ

無肆中宗之享國七十有五年

肆後世ハ韻文  
ニ用

為去声

就彼而從獎之曰為

為ハカレニツイテ我サフルナリ

故ハ体我ヲ主トス  
為ハ用彼ヲ主トス

論非夫人之為慟而誰為

誰為ハ外ノ者ニハヒスト云フ  
為誰ハソノ人ノ定ラヌ

與

上声 彼トシテ合テスル意ナリ

策或與中期說秦王

雖

イハトモ  
ケレトモト訣

雖者設兩以翻之之辞

雖ハソレハサフナレモ又カフ言フカアルト云意ナリ

檀雖吾子儼然在憂服之中

コレハ外ニ全文ノ主トスル也アリテ吾  
子ノ字雖下ニテリ

容ニシ言タル故ニ吾

吾子雖云云

トアレハ五子ト云モノヲ主ニ立テ云  
ナリ凡テ物名ノ字雖ト上ニアル

其物主

車徒雖衆

車徒上云モノヲ主ニ立テ云ナリ

雖車徒衆

其人ヲ主ニシ云フ其人

雖衆車徒

車徒カ少ナレバ  
ナイ多ヒケレトモ

年雖幼

年ノイラオモニ論

雖年幼

其人ノイラ論ジテウイテニ  
年モ幼ナレトモト云タルナリ

其言人人雖殊ハ其人ヲ主トス 其言雖人人殊ハ其言ヲ主  
トス 雖其言人人殊ハ上ノ全文ヲ主トスコノ類皆コノ例ナリ

雖曰云云

カヤフクニ言

雖云云乎

カラビヤダ

雖云云也

カク云スダ  
ジャケレトモ

雖云云矣

カクニ定ツテ  
アルケレトモ

雖云云哉

キツトカフテ  
アルケレトモ







然ハ即燃字ニテ火ノ物形ヲシテモエテアル処ヲ云字ナリ

上ノ文意ヲ承テサフデアルト云意ナリ 下句ノ頭ニアルトキハ上ノ文意ヲ承テサフアルニ

サフアレトナド、訳ス凡句頭ニアル然字ハ今ニテ云タル語ヲ尤ナリト承テ次ニ異見ヲ云出スナリ

爾然ノ別、爾ハカフデアル其物ノ内ニツキテ云ナリ然ハサフデアルト外ヨリ云ナリ 爾ハ我ナリ然ハ彼ナリ

然而 サツツテアルニツノアトデ 雖然 サツテアルケレドモ 雖爾 サツテアルケレドモ

然則 サツテアルニシテシレバ 若然者 サツテアルヨラレバ

浩然 サツテアルトソノ物ノ外ノ字ヲトリテ 鏗爾 ソツノ字ニテスグニカフデアルト云ナリ

タトヘテイフ浩ハ水ノ字ヲカリ來レ 鏗ハヤハリ 潜焉 ソノハシヨラスエテ云ニハ焉字ヲカフ 洋洋乎 乎ハソノヤフスライヒカケルナリ

勿勿諸 之ヲ於ニ 儼兮 兮ハ意ヲ含ミタル 斑而 而ハコトバヲラレタルナリ

而 シカクシテシカモ 而ハ即髻字ニテ獸ノ毛髮ノ掩ヒ懸リタル貌ヲ云字ナリ

而ハ即髻字ニテ獸ノ毛髮ノ掩ヒ懸リタル貌ヲ云字ナリ

上ヲ持シテ段ヲ一段ニス所ノ語助ナリ既往ト現今ノサカヒ

現今ト將來トノサカヒ皆而字ヲ置ナリ

而後 サフアツタアトデ 然後 サフアルウヘカ 爾後 カフエツテカラ

子孟 權然後知輕重 權ト云モノガアルサフアルテ輕重ガシラル、權ト云モノガ 權而後知輕重 權ト云モノガ

漢而後 漢ヲヘテ 漢以後 漢カラノチナリ漢世ヲモイレテ云ナリ

力五言





而還カタ以還而往以往カタ而來カタ以來ナモ皆ヲ例ニ

可得而聞求メエタアトテ聞可得ツガセラルハナリ

聞聞エラル喟然而歎而字アルハ先喟然ト息ヲツキテ

喟然歎サテツレカラ歎ノ言ヲ發スルナリ

而字ナキハ當面ノ形

凡ステ假名テ讀ミテ而字ナキハ皆其語トツヅキ

隱隠王室而既卑矣コノ王室 字ノ内ニ王室ハ隆ニ有シモノト云

意ヲ函クミテ卑、処ハ段ヲ越サセタルナリ

寬而栗柔而立コノ類ハ違フタルモノヲ對ニシイフテ寬ナレト栗柔ナレト

立ノ意ナリ歎ニシイフ意ナケレハ寬栗柔立トカクナリ

隔隔焚書於倉門之外衆而後定而後衆定ノ意ナレト衆ト云

モノヲ主ニ立テ活シタルナリ

晉侯聞之而後喜可知也而後喜可知ハソノ時事ヲ記シタルニ常法ク喜而後可知ハ後

及楚殺子玉公喜而

後可知也而後喜可知ハソノ時事ヲ記シタルニ常法ク喜而後可知ハ後

子明於持社稷之大義嗚呼而莫之能應而嗚呼ノ意ナリ

如如星隕如雨而字隔承ナリ

○親自居坐 尋行追隨

親親厚之而不外之曰親而字隔承ナリ

親親ハ一サシク我手ニカケテスルヲ云疏ノ反ナリ親ハ用

成齊侯親鼓士陵城躬躬身ニツケテスル

自自義見于前自自身ニツケテスル

自自義見于前自自身ニツケテスル

カ

カ

カ



不自忘 ミツカラ 自不忘 オツカラ 自不耐 オツカラ 不自耐 ミツカラ 無自自無ノ類 皆此ニテ推スヘシ

自如 スリ 外ヨリ シイフ 自若 スリ 其人ニナリ テイフ 身自 カラ 親自 カラ 手自 テカラ

居 キヨ 井ナカラ ムナレク タビ 置之於茲有定曰居

居ハ其地位ニ在テイマダ動カザル處ヲ云

雅居以凶矜 ナカラ 居頃 ル アツテ 居頃之 之字上ノ 居有頃 文ヲ承ク

居無幾 間モ 居無何 モナク 居無幾何

坐 ガ 井ナカラ ヨル 來之於茲有安曰坐

坐ハツカモナクヤスクノスル意ナリ 後世ノ詩語ニ坐ヲツボト訓スルモオル、ニツカモナキ處ヲ云ナリ

蜀諸葛亮傳 使孫策坐大筵并江東

尋 ジン ツイテ 追其跡而熟之曰尋

ヨ尋ハモトアリシ事ノ跡ヲツギテスルナリ

宋書五 尋王恭起兵誅王國寶旋為劉牢之所敗

尋即 尋復

行 カウ ツイニ ユク 平声 累步不止曰行

行ハ止之反ニテヤガテ其処ニ至ル意味ナリ

呂后紀 太尉行至 魏志華 病亦行差



追 ツイテ

ホトナト 詠

認踪期其及之曰追

追ハ其アトハ間ヲスカサス來ル意ナリ

周書宣帝紀 追尉遲氏入宮

隨 ツイテ

ヲヒクト 詠

委彼之所次曰隨

隨ハ向フノミニツキ行ク意ナリ

列隨生隨死

從 ツイテ 見于前

旋 ツイテ 見于後

敢肯猥濫 聊頗向垂

敢 カン

アエテ 詠

敢者冒突不憚之辭

敢ハ遠慮ナクズツトサレ出ル意ナリ

不敢自量

自量ルコト

敢不自量

自ラ量ラザルコト

不敢不勉

コトハ不勉ト云モノラクリ

鄭蝦蟇在東莫之敢指

指ス 莫敢之指

指ス 莫敢指之

指ス 莫敢指之

敢莫指之

反語

敢不 敢弗 敢莫ノ類此ニ准レ皆反語ナリ其上ニ

メニ字ヲ加

側亡君師敢忘其死

止君師ト云ケタル語

列弟子敢有所謁

謁ス

有所敢謁

有敢所謁トカクフハナシ

肯 ケン

アエテ 又作肯肯

肯者領而諾之之辭

力部 卷之十一



肯ハトクレンシテウケカフナリ

不肯イヤ 肯不見トシトマ 不肯見マニユルコラ

一卒 秦伯不肯涉河ラ 邠惠然肯來トテ

猥ニダリニ 狎藝不顧冒瀆曰猥

猥ハアメリナクシクヨリツク意ナリ 猫猥膝トアルハ 膝ニスリツクナリ

書 猥云德化不當用兵ラ

濫ニダリニ 浪孟及過溢曰濫

濫ハメツタニワケモナキコラシカケルヲ云

汎ニダリニ 汎同

叨ニダリニ 叨

妄ニダリニ 妄

聊イサカ 得姑息以自淑曰聊

聊ハヤススルト訓スル字ニテアノヨシトスル意ナリ

一隱 亦聊以固吾圉也

薄イサカ 薄シバクノ意ナリ 詳于後

頗スコフル 敬偏有立曰頗

頗ハ陂ノ形ノ如クカタヒクニ成ルニテ六七分其方殆ハハ 九分ニ

表 奮 戰國之權變亦有可頗采者

向キヤウ 稍已處此日向

嚮コニ 嚮同



向ハ大カタ其バレヨニナリタルヲ云抱朴天下向乎中興

垂ス行將處此日垂ナシトス

垂ハホトリト云字ニテ其バレヨニ近ヅキタルヲ云

後漢劉為傳自在漢川垂三十年且見干後ニサト訓スル同意ナリ

○彌愈益増 加倍况滋

彌イヨク巨於彼盈之曰彌弥ハ滿ト同音ニテ義通ス

彌ハワタル一云字ニテ段クニ滿チテハイニ成タル意ナリ

韓曠日彌久而周澤既渥

愈イヨク超邁以有尚日愈イヤミト訣ス

愈ハ今テデトハ段ヲコエタル一ニ成リタルヲ言フナリ

愈ハ体ニテ今テ其バレヨニテ段ヲコエタル一ニ成リタルナリ一照ノ外ニテ言フ彌ハ用ニテ長クノ間ニ段クニラエタルキニ一朝ノ一非ス是其別ナリ

七昭及壬子駟帶卒國人益懼齊燕平之月壬寅公孫段

卒國人愈懼コレニテ益ト愈ノ差別ヲ見ヘシ

益ユキ比往有羸曰益トス

益ハ今テデニ比スレハ多クナリマシツケル意ナリ

イヨクト云コレバ、イヨヤカクノ畧ニテ物ノ立ルル様子ヲ云詞ニテトニサルトニ拘ハズ言フナリトスハ多クナリタルヲ云相似テ同ジカラス



復南君孝公益愈然而未中旨淮南王傳愈益治器械攻戰具

楚世家王稍益疏外建也項羽本紀諸侯並起滋益多

增一ス累而重之曰增テテ

增ハ一階カサ子タルキニナリ上ニカサ子加フルハ増ナリ

大宛傳大宛鼓抵奇戲歲增變甚盛益興旁邊ヘヒロカルハ滋ナリ

加一ス附而衰之曰加ツケツテト記ス

加ハ今マテノヲアルナリニシテ其上ハ添タルヲ云

成平在陳而囂合而加囂

加之レカシメテ加レ加レ加以レ至若レ至如レ若為レ

倍一ス併其二曰倍ハ

倍ハ二倍ニシナリ一斗ノモノニ二斗加フルハ倍ニ

況一ス又作况シ擬其所有尚者而掩之曰况イハニヤト訓スル

況ハ其ヤフスヲ譬言ヘテ一段カサラカケテ云ナリ例後ニ出

大亂ス雅亂ス況ス斯削ス

滋一ス行而旁覃曰滋ト

滋ハ段クニフエテレケリハニコルヲ云



廣治表樂田  
書林上河真

益ハ体ニテ其一ニシタル迹ヲ外ヨリ見テ云ナリ滋ハ用ニテ其モノ  
ニツキテ一ニシテ外ノ神用ヲ云ナリ 増加ハ体用ヲカ子タリ

酷吏 傳 法令滋章盜賊多有

添テ ス ル 上 ニ ソ アル 意 ナリ

助語審象卷之上

助語審象

助語審象卷之中目次

嘗會懣經了殊附既已業訖契 無死亡罔莫茂靡毋勿

淹同附同 少末微否曼未不弗寺 非匪同匪同難幾殆

危汙孑 乃迺載便還同輒即則士 就登應曾斯而附遲

動宛轉見仄恍佛十五 唯同徒但亶帝同只附止假徑直

十七 第同第地立乍附忽倏 最尤獨特尤 甚太已附同苛絕

孔痛酷苦附苛劇二十 極至殊異附驟數亟屢三十 原同

本主舊雅素職固附故五十 翻還却倒反般覆顧七十 旋

助語審象 卷之中



寢漸徐附微遲稍差較良八 遄趣速疾頓遽暴猝蓋附暫

豫附素逆欲且將三 適同的屬祇多端鼎正同政方三 偏

一壹誕大奄丕駿荒五 必會定計要期斷决附約六

悉備盡單同殫詳具畢屑附既八 皆咸僉舉附該裁才

材同纜僅劣早 代狎間拾交互遞迭附同四 俱偕共

齊附翕併與及之附將兼暨泊同越四 相胥兩耦竝竊附私

附遲比附間早 遙同肆迄同訖了已終竟卒遂附肆七 連頻

仍旋附北荐附清薦附恣累附切急附四九

助語審象卷之中



橘園三宅先生口授

門 釋海定  
三上惇 筆  
人 宮永寅 錄

○嘗曾僭經 既已業訖

嘗シテ コトニ 通作常 ニカトト 嘗者告シ既已有シ歷練之シ之辭

嘗ハナメルコロムルト訓シテ前カタサイフフガアルト云フ

ニテ一回ニ回ニ拘ラズ云フ辞ナリ

力吾審象 卷之中 橘園感友



嘗有所畜狗乃殺之畜ヲキレテアリテシラ 有所嘗畜狗殺シタリカ以前有タ

乃殺之以前ヨリ畜オケル狗 有嘗所畜狗乃殺之外ニキタバ

ヒシ狗アリソシラ 嘗未聞一ハカタダ 未嘗聞一ハカタカラ

張安 上少時所嘗游處後漢五行傳 嘗所怨恨輒任客殺之スシラ

莊子技經肯綮之未嘗

累蓋 自其為吳相時嘗有從史嘗盜愛盜侍兒

曾カツテ 曾者紀其有所經了之辭

曾ハフト一回アリシニ用ユ曾ハ体ニ属ス

未曾有サアルカ 曾不サレヌ 未曾不セザル

未音曾昔カラ 曾不恤衣食衣食ノ一ヲヒトツ

曾衣食之不恤衣食サヘモウレヌ

叔孫通傳孝惠帝曾春出游離宮 嘗曾並三句頭複用

曾カツテ 又作替曾イツカウ下 酷甚不移日ラ

曾ハハカタヨリ其通りチヤト云意ナリ

雅カツテ 懼不畏明懼字韻文ニ用ユ

經カツテ 菟雅素所閱日經イミズ不誤ス



經八段くスギ行シヲ云ナリ

書禪其語不經見平準書大農陳藏錢經耗テ

了カツテ ツイテ訓スルト同意ナリ 志天文天了無質カツテ

殊カツテ コト下訓スルト同意 絶カツテ 今ハダト訓スルト同意ナリ 二字並ニ後ニ出

既カツテ コト下訓スルト同意 既者示其所迄之迹之辞

既八將之反ニテ其事之終リ充迹ヲ見テ云辞ナリ 既ハ体ニ属ス 已ハ用ニ属ス

既不治不淨 不既治乎 反語ナリ反語 非ハ既トカクナリ 未既治カツテ カツテ

十一 儻 奉匱沃盥既而揮之テ 卒既夫人將使公田テ 孟諸而

殺シテ 既而ハヲハリタルアトナリ而字 哀既戰簡子曰吾伏弔

嘔血鼓音不衰今日我上也 既戰ハタカキ 終シアトナリ

已ス モヤト詠ス 已義見于前ノ 同意ナリ

已未 未之反ニテ事ノ今モフサナリシナリ 月已望トイハ十五夜ナリ 既望トイハ十六夜ナリ

已往未來 既往將來 既而コト下訓スルト同意

已而コト下訓スルト同意 既乃 已乃ナド此ニ准ズ

刺客 傳親既以天年下世妾已嫁夫

復刺客 伏屍而哭極哀既已不可奈何 已字哭極哀ニ係ルナリ 既字不可奈何ナルナリ



既已句頭アルトキモ句腰復用ノ例ニテ  
已字上句ニ係リ既字下句ニ係ルト知ヘシ

業 ゲフ ステニ ヲキコトヲ云フ 其所事不容自己曰業

業ハモヤ其事ヲスルニテ跡ヘ引カヌ所ヲ云辞ナリ 既ハ往ニ属シ已ハ見今ニ属シ業ハ來ニ属ス

留蒙 良業爲取履因長跪履之 復異王ニテ用漢傳若狀有反相心獨

悔業已拜 已字心獨悔ニ係ル 業字拜ニ係ル 業猶 復用ノ例上ニ准ス

訖 キツ ステニ カツテ コトクケ 通作迄 ツリト訣ス 窮其所底止曰訖

訖ハ其処ニイタリツメタルヲ云

弄 カツテ 訖無文號 先 ステニ 曩 ハ 意ナリ

○無亡罔莫 茂靡母勿

無 ナシ ナレ 古作无 對有示其不可形曰無

無ハ有ノ反ニツソトコロニ物ノナキヲ語ル辞ナリ

漢許皇 曰我頭岑岑也藥中得無有毒對曰無有 得無云云 乎 得無

云云哉ナドハモチロ反語ナリ今コノ文ハ乎字ナ 庄藥中ノ字上ニ在テ

云カケタル勢ヲ反語トナルナリ得無ト句頭ニアルハ々々反語ナリ能ク前

後ノ語勢ヲ考テ推ヘシ 乃得無恙 字ヲ抑ヘ名 毫無紕漏 毫字主

凡テ上ニテ少シノ 無毫紕漏 コノ事ノ上ニテ紕漏 無一不見 ヒトツク見

又ハナク 無不見 オレチテ見 無不一見 一タヒ見



事無不覈スヘテコトヲ 無事不覈スルナリ 不無覈ハズ

無ハセヌ 無數カズノ限リ 漢志無萬數幾万にカズ

孟子勿助長無若宋人然ヲ類禁止之辭ナレバ無ハ唯有カ無カノ吟味ニテ若シ有ハトリケケヨノ氣味ナリ勿母ト同カス

累尊子宗子雖七十無無主婦蔡琰胡笳無日無夜兮不思我郷土

亡ズシ 又作亾 對存示其絕跡曰亡

亡ハ反テ有タル物ガナクナリ多ク有テモナキ同然キ云ハ用ユ

范雅傳亡其言臣者賤而不可用乎輒行其誅亡但免官

罔ナシ 絶不容復見曰罔

罔ハリトハ見ハヌ上云意ナリ 亡罔相似クハ罔ハ上声ニテ彼アルヲ我コトヲ無トスルテ外ヨリ其象ヲ去リ亡ハ平声其物ナリテ之

幽界ノ象ノ言フ字ヲ故ニ叙事文ニ罔字ヲ用フトシ持論文ニ用ルナリ

莫バ罔ハ晝夜頌頌罔水行舟

莫ナカラヤ モナイト誤 莫者對適探其無之固然之辭

莫ハ適之反ニ有ルカト尋テ見ヨ無イト云意ナリ一段コ入

テ深ク幽界ノ奥ヲ言フ字ナリ 漠膜ナド同音ナリ義ヲ推知ヘシ見ント欲メモ見ヘヌ意ナリ

字義深重ナル故ニ句頭テリテハナカラヤト讀ミテ反語ナラリ

後世ノ詩語俗語ニ莫ヲナカレトヨムハナカラヤノ轉レタルナリナカラヤアルハイモナイト云フテナカレト讀ムニナリタルハ禁止辭ニ非ス



尚下卷俗語ノ部ニ詳ナリ  
古書ニ莫ヲ禁止ニ用テナシ

孟子不祥莫大焉世示不祥ト云カタルコト 穢莫不祥大焉今

不祥ノシカカコシ 昭二無不祥大焉無ハ事ノ上ニテムラ

子莫樂為人君反語 子莫經由礼莫要得師礼ニ由ラテ徑ニテ

秦兵莫弱是矣 莫其焉其ニテスルヲナカラシヤ 莫大ヲクモナキ

無大小ナリ 可莫尚焉反語ナリ尚スル 可無尚矣尚スル

ルナリ可莫尚矣トカクハ 不成語ナリ コレヲニテ無莫ノ別ヲ推知ヘシ

靡ヒナケシ 靡者狀其幾將無之辞

靡ハヒキト訓ニテチラクト無クナリカル用ヲ云フナリ 音ノ細カニモカ

声ト云ニテトカクナキコト思ヒナサルノキミナリ 茂ハ我ヨリキコニスルナリ靡

大靡不有初鮮克有終 舒其盡心靡有所隱舒

茂ヒナケシ 才シ以テ莫ト推有以歸之無曰茂

茂ハナイカシロニスト訓ニテ見コナシテ無理ニ推テ無キモニスル

意ナリ 呂覽ニ茂而靡之トアリ茂ハ推

昭將不得為寡君老其茂以復矣信君納重耳茂不濟矣

毋ナナカレ 才シ以テ莫ト推有以歸之無曰茂



母ハ幽界ニテニ係ル字ナリナシト訓スル時ハ既往ノ無ナリナカレ

ト訓スル時ハ將來ノ無ナリ 無字ハ神用ニテ現前

檀 噫母將來ノ 傳郡中母聲ナキニテリテ 六 找無強賈母ル既往ナリ

或勾奪勾奪ハ段遠キ 外傳曰入乎將母周公曰請

入將母入乎 用累論 母意母必母固母我

勿ナカレ 通作設 母ト設 勿者規而無之之辭

勿ハサフハスルナト沮ル辭ナリナシト訓スル時モ慎ニテ無スル

意味ナリ 勿ハスルナト今命スル辭ナリ母ハ將來ニナキトニセヨト云

子孫欲隱勿見論 語過則勿懼改列女傳終没後言 没勿音近キ云

淹ナレ カシタル意ナリ 促ナレ ナキニ近ク意ナリ

○少末微否 曼末不弗

少セウ ナレク 計其隣無曰少ト

少ハ多ノ反ニテ無ニ近キヲ云

漢律 曆志 與天相應少有關謬

末バツ ナレ 末者却之以處諸無之辭

末ハ本ノ反ニテ其ノハナレニキトシテ後ニシテオク意ナリ







字ヲワザニシテ活シテ見ルベシ 不字語尾アリテイナヤト訓スル時ハ平声芳無切ナリ

否不ノ別ハ否ハ上声ニテ否ニ定テ体ニシ云ナリ  
不ハ平声ニテ一ダワカラヌニシテ用ニシ云ナリ

不仁 仁ヲ行フコトヲサセヌナリ四体不仁ハ仁ニスルコトヲ得セヌナリ 不義 義ヲ知ラ居テモサフセヌ 非義 義トシテ

居テモ義 デナイ 弗義 義トセヌ 未義 マダ義ニ行キトカヌ 無義 義ヲシラズ

毋義 義チキモノニシテオク 亡義 義チキキ同然チヤ 蔑義 義ヲチキモノニシテヒス 靡義 大

義ヲシハ セイ 爲之 カ 不喜 此ヲ喜ス外ノコトヲ喜バヌ 不爲之喜 カ 我不知 我ヲ知ラズ

我不知 彼カ我ヲ知ラズ 不知我 我カ彼ヲ知ラズ 不知我 我カ彼ヲ知ラズ 不知我 我カ彼ヲ知ラズ

論語 知及之仁不能守之 又仁能守之不莊以泣之 仁ハ知ト並ヘ

立テタル故ニ不字ノ上ニテリ莊ハソノ仁知ヲ行フニ不莊ニテ泣ニテハト云意ニテ不字ノ下ニテリナリ

子孟不目逃 逃ニシテ外ヨリ見テ 目不瞬 瞬ソノ久ニナリ 閑之不以法度 法度ヲ立テセタコトヲ

我コレヲフセクニ彼 法度ヲ以テセズ 不閑之以法度 法度ヲ立テセタコトヲ 不食 食レト欲スレバ

不得食 食レト欲スレバ 不可食 食レト欲スレバ 不欲食 食レト欲スレバ

徵子 我家 我生不有命在天乎 不アズト訓スルハ非ナリ在トセザルナリ 君曾見韶舞 後記

不此是韶舞 此是不韶舞乎トカクキニ似タレバ不字 弗者狀彼借而毋作之辞 テキ不誤弗者狀彼借而毋作之辞

弗ハテキ又所ヲ外ヨリ見テイフ辞ナリ不ト無トヲ兼タル



程ノ意持ナリ 古ヨリ弗者不之深也ト注スレバ大ニ其別アリ彼ニシテ体ニシ言ハハ弗ナリ我ニシテソノ用ヲイハハ不ナリ

弗聽 キ、入ルコトガモフナカツタナリ 不聽 キ、入ルコトヲモセヌナリ

一 隱 穎考叔挾輈以走子都拔棘以逐之及大逵弗及

三 隼 使頼人追之不及 弗及ハ外ヨリ見テイフ 不及ハ其人ニナリニイフ 孔子弗乎弗乎 世蒙

○ 非 匪 匪 難 幾 殆 危 沘

非 アラズ 對 是 以 舉 其 失 真 曰 非

非 是 反 其 路 之 名 也 不ハ下ノ字ヲ用ニシテ活ニテ見ルヘシ 非ハ下ノ字ヲ用ニシテ死定ニテ見ルヘシ

子 以 道 蒞 天 下 其 鬼 不 神 非 其 鬼 不 神 上ノ文ヲ主ニシテ 中ニテ云々 其 鬼

非 不 神 其鬼ヲ主ニ立テイフ 莊 駢 於 明 者 乱 五 色 淫 文 章 青 黃 黼

黻 之 煌 煌 非 乎 非字下ハサゲタルハ上ノ事ヲ然リトシテオキテ其ウラヲ云カケタルナリ 非邪 非與ニナ此ニ准ス

累 韓 非 天 缺 弧 逆 刑 星 榮 惑 奎 台 非 數 年 在 東 也

匪 アラズ 狀 其 非 有 曰 匪

匪 八 廿 三 五 十 有 七 六 十 七 云 意 ナリ 非ハ平声ニテ神用ナリ 匪ハ上声ニテ体ノ象ナリ

邴 邴 狐 裘 蒙 戎 匪 車 不 東

匪 カタシ 匪 者 不 可 之 合 也

匪 八 可 ノ ウ ラ ナリ 後漢呂布傳 大 耳 兒 最 匪 信



難 カタシ  
平声

シキト訣 泉元不可行曰難

難ハ易ノ反ニテ事ノデキカヌル処ヲ云

餘難悉名 ツケガタシ 餘悉難名 引スベテ名

幾 ホトド  
去声

ハヅミト訣 我自狀其沮洳之勢曰幾

幾ホトドト訓スル時ハ去声ニテ其ナリカツテ急充勢ヲ云ナリ

肆斯年將有大咎幾亡國 襄不從晉國幾亡

殆 ホトド

ホドクニト訣 量彼像其將殆之情曰殆 殆者速上向言テ

殆ハ八九分マデシニナリテルアズキハシヨリ 幾ハ其モニナリテ急ナリ殆ハ外ヨリ

繫其殆庶幾乎 昭君不顧親能無卑乎殆其失國

危 ホトド

圖其近之之機曰危

危ハサゾアルラント將來ヲ云ナリ 幾危ハ用ニ属ス

趙魏燕傳 危殺之矣

沆 ホトド

畫其所底至之將窮曰沆

沆ハ其処ニイタリツメタル既往ノ迹ヲ云ナリ

易小狐沆濟濡其尾 殆庶 危曾 ミナ句腰複用

○乃迺載便 還輒即則

助語

中

上



乃スナハチ

トテト訣ス

乃者從容以援往繫今之辞

乃ハイマシト訓ス今ニシテ幽界ヨリ明界ニ出ル猶豫ノ間

ノ助辞ナリ上ノ文段ヲ下ノ語ニツチギ附ル安排ナリ

ソナレテト訓スルモ同義ニテ我ヲ援キ  
彼ニ繫テナレト訓スルナリ例前ニ出

繫見乃謂之象形乃謂之器見レテアルソレガ象ト名付ルモノヂヤト云義ナリ見レザルトモアリモモ見ルニ

昭至河乃復傳ニ乃者難辞ト注セシハコノ知ニテハタルニシキ所ヲカク多クハ以カク注セシ

乃スレバト云トキハ乃祖其人ヨリ祖ハ繫テ乃翁乃公ナドモ同シ

乃ナリ此処ニ限ル注ニテ乃字全体ノ義ニアズ總シテ古人ノ注ハ多ク其

乃今乃字下ノ今乃乃字上ノ語乃乃是是乃雖乃乃况

健傳若乃梁者則吾乃梁人也乃字上ノ文段ニ属スルナリ子孟乃若所憂則有之乃若

乃ハ乃字上ノ文段ニ属スルナリ乃乃若ハ乃字下ノ語ニ属スルナリ乃無憂患憂患ナキナリ無乃憂

患無乃ハイツニテ魏志崇使巫史至乃宮殿之内戸牖之

間無不沃盥至乃ハ上下ノ語意ニ連ニナルナリ

隔其弊乃至於此コノ乃至ハ又句腹ニ轉接ニ用タルコト安頭ノ

胡菊有黃華豺乃祭獸乃字上文李季秋ノ

迺スナハチ 迺音乃

力吾天良



乃ト同義ニテ用ニハ乃ヲ用体ニ酒ヲ用

大雅 迺疆迺理迺宜迺畝 外戚 迺昔之月嵐巢于樹

載 公羊 載者狀其方且嚮之之辞

載八段く向ス進ム勢ノ処用ル辞ナリ ハジト訓ニトハシヌ

小雅 汎汎揚舟載汎載浮 載字韵文ニ用ユ

便 スナハチ 示其乍已暨之曰便

便平声神用ノ字ニテトリアズ先へ飛フ意アリ 便利ノ便ハ

班超 傳 若不即降便可執之 或謂超可便殺之 便可ハ便字執

宛轉復其處曰旋 逐便

還 スナハチ 旋同 檀 斂首足形還葬

旋ハ追ヒツケル意ナリ

輒 スナハチ 輒者見其每必有然之辞

輒ハタヤスクト訓ニテイツニテモサラ九時ハ必ツニ付テワル意

ナリ 毎ニ必ノ意持ナリ 輒ト乃トハ辞緩ナリ

輒張負女孫五嫁而夫輒死人莫敢娶 每輒亦輒

即 スナハチ 即者見所就一途不容間之辞



即ツト訓スル時キキニ其物ニテハ明界ヲ言フ字ナリ

助字ノ時ハ記者心ノ幽界ニテ其ヲトリモナラサズキ

ニシテナラセテ言フ故ニ助字ニナルト心得ヘシ因テ即字ハ叙

事ノ文ニ多クアルナリ 句頭アリテモト訓スル時モキキニ 即ハス

シモトナキ執ラ見セル助辞ナリ

即ハキニ其物ニテ外ノ物ニテハ乃ハ其ノ中ヨリ出テ他ヘウツナリ  
便ハ此ノヨリ彼ヘウツルナリ 則ハ上ノ語ヲ下ノ語ニ叙ナリ

徐行即免死疾行則及禍 疾行ノ方ヲ各ニ 非其父

兄即其子弟 ナラハ父兄モアリ子弟モアル意ニテ即字ナリ  
則字ナハ父兄ニ非ルニテモル意ニテナリ

則 スナハチ 子徳切 ニキニヤト 則者模往以畫其來之辞

則ノリト訓スル意ハ子ヲニテ模ニシテ見ルコトナリ カタニセヨト立テ  
ルハ法字ナリ彼

ヨリカタニセヨトイハ子ニ我ヨリ 助字ニ轉用スル時モ幽界ノ心ニソレ

ニシテ見ル時ト云意ナリ故ニ主客ヲ立テ論スル時ハ客方

ハカリ則字ヲ用ニ主ノ方ニ決シテ用ヒズ兩用ヲ立テ論

スル時ハ兩方ニ則字アリ

論用之則行舍之則藏 ニシテ主客立テ故 元欲與大叔臣請

事之若弗與則請除之 事之ヲ主トスルニ則字ナレ除之ハ止ムコト  
ヲ得ズレテ兵ヲ用ルコトナル故客ニタルナリ

力吾嘗也 之之中



孟不奪不廢不奪則不廢上ルキ処上ノ文段ノ奪之テ云テ奪

二閔乃先之至則告守曰不可待也カレ當向ノ所ニ則字ヲ用ル先之

ルキテテリル却テ思ヒノ外ニカク鄭雖則如雲匪我思存則字上ノ

テ見ル則雖則字下ノ文ニキテ上ノ我則上ノ語中ヨリ出テ則上ナリ則我下

承隔隱山有木工則度之山有木則トカキテ上下ノ語別ニハナルモノニ

學人之學也或失則多或失則寡學也則鄒陽素無根

有按劍相眄之跡己ハ何ヲ隔テ承ル法ナリ夷與孤之二

三臣相及於絳雖我小國則蔑以過之矣相及於絳

王之所謂忠賢者皆妾之客歟中國之士歟莊王曰

則沉令尹也二言首則驟莊實熟則剝則辱

○就登遊動宛轉現仄

就スナハチ進而致之於彼曰就

就スナハチ就我ヨリ進テ彼ニツナリ

登スナハチ陟得其至處曰登

登スナハチ登ハシ地位ニテソノト云意

助吾審象 卷之中 十五



應 ウ スナチ 詳見于前  
平声 下サ下訓スル上同意ナリ  
魏志 平 病亦應除 スナチ

曾 スナチ 見于前  
上御下訓ス  
論曾由與求之間

斯 スナチ 詳于前  
下サ下訓ス  
而 スナチ 檀弓 スナチ 訓スレ  
下サ下訓ス

遲 スナチ  
似其及之之漸曰遲

遲ハヤウヤク其地位ニ及フ意ナリ

君傳樹怨於楚遲令韓魏歸帝重於齊 注乃也トアレ

動 ヤ、モスレバ  
動ハ靜ノ反ニテウゴキテ何トカスル其トニテハ意味ナリ

動輒 動便 動即 動必 動而 コレハ皆句頭

スナチト訓スル複用 二 即 輒乃 即便 即輒 便乃

則便 便輒 便別 應便 登即 ミテ句腰複

宛 アタカモ 貌其若乍存曰宛

宛ハヒラリト其ヤニスノ見元フナリ

秦宛在水中央 コニテハ形容ノコトナレ  
後世ハ助字用ルナリ

轉 ウタク 旅行以移曰轉

轉ハウリテウリ行クナリ

助語 卷之十



進傳所察應條轉舉

轉更

見アラハニ 現同

所有歷然可觀曰現

現ハ没之反テ現在アルトコロ云ナリ

申屠申屠餘見無可考禪書載籍之傳維見可觀也

見今俗語ノ如今今ノ對ス抵今今ノ對ス在今今ノ對ス於今今ノ對ス

于今 只今今ノ對ス方今今ノ對ス乃今今ノ對ス而今今ノ對ス即今今ノ對ス

仄ホカニ 側同 尚况未確曰仄

仄ハ其事イマダタレカナラヌ云

賈誼賈誼仄聞屈原兮自湛汨羅傳不側聽不疑莫不驚駭

恍ホカニ 恍ホカニ 佛ホカニ 風ホカニ

○唯徒但亶 嘗只徑直

唯タビ 惟同 守テラ一而不及他曰唯ト

唯一途ツニ其ツバカリニカシヨル意ナリモト唯諾ノ唯ヨリ轉用

シタルナリ 惟ハオモフト訓シテ一途ニシレバカリ

唯不然バカリ 不唯然然ルニシテハナイ

元昭他邑唯命大夫ノ心バカリニテモ 元昭唯大夫圖之コレヲ心ツモリセヨ



徒イタビニ ムダニ 徒ト 有用無器曰徒ト

徒ハ外イナニスルナリ不滿ル九意ナリ徒ハ本カチト訓ジテ

車馬ニ乗ラズカチニテ行フナリ

司馬相如傳 家居徒四壁立子韓非 因載而往徒献之カワリノ邑ヲトス

韓說者不徒知所出而已矣又知其所以為

但タビ 外イラケテ不レ執レ此ヲ而除彼曰但ト

但ハ幾箇モアル中デ外ノモノヲノケオキテ言フナリ

徒ハタビニト訓シテ外ナレシテ云ナリ外イナレシテ云キトナリ但ハタビト訓シテ外ナルモノヲノケテタビト云ナリ今外イヲノケル用アリ

扁鵲傳 起坐更適陰陽但服湯二旬而復故

亶タビ 上声音但 亶與但同

趙充國傳 亶奪其畜産ヲ

帝タビニ 翅同 狀其品程止此者曰帝翅同音ニテ

帝ハソヒツキテアルモノニテマダサキケル意ナリ帝字單用スル

フナシツテモ不帝何帝奚帝豈帝ナド、用ユルナリ

魯奚帝其聞之也

抱朴子 但不知其年壽信能近千年不帝耳不帝マダク



神仙不翅スデニ神仙ナル者ニシテオキテマダクソノ 不翅スデニ 神仙ノ

彼神仙ト云モノニ譬ヘテミテマタ其段テハナイト云意ナリ不翅字上ニアルト下ニアルト意義カクノ如ク差別アリ千年不帝ト書ギ処ニ不帝千年

トハカレヌコナリ文ヲ奇崛ニセシタメニ不帝 不翅トナラズト訓ル類 非翅トナラズト訓ル類

非惟 非徒 不但 不徒 不止 非止 不直

非直 何但 何止 豈徒 豈但 豈直 微獨

奚但 非獨 非特 奚假 奚徒 數多キユヘ 例ヲ畧ス

只バ バガリト訳ス 義見于前 語尾ノ只ノ下ニ出

唯ハ外ニ相手ヲモタズ其コバカリエ途ニ云ナリ 只ハ外ニ對スルコバカリテコノコバカリト云コナリ樂只君子ハ憂ニ對シテ只ト云ナリ 俱ハツキ

テアルモノヲ今ケテ云ナリ 特ハカクベツニスルナリ 止ハ其コノカサナルキコナリ 止ハソレギリト訳ス

只且 外ヨリ形 只計 カクハカリ 只寧 カクハカリ 寧只 カクハカリ 爾所 カクハカリ

止 見于前 止 見于前 止 見于前 止 見于前 止 見于前

假 見于後 假 見于後 假 見于後 假 見于後 假 見于後

徑 又作逕 徑 又作逕 徑 又作逕 徑 又作逕 徑 又作逕

直 又作直 直 又作直 直 又作直 直 又作直 直 又作直

直ハ曲ノ反ニ入リクニナレズト其所段ヌ元意之 直 直アタヒト訓レテ其程ヲイラ立ル意ナリ



孟子直不百步耳是亦走也世家直墮其履圮下田角田間

於楚趙非直手足戚也手足戚也唯直直置直爾

○第地立乍 最尤獨特

第又作第姑就之不論他日第

第ハナニカナニ先ツ其段ニシテ見ヨト云意ナリ

傳君第重射臣能令君勝

地音第

地與第同

西曹地忍之見于後

祗ヤツハリト誤ス

立タチ

ヤニワテ誤ス

夫及有歩日立

立ハスグニ其場ニテ立ナカラノ意ナリ

世家於是呂澤立夜見呂后

乍シハラク

ヒラリト誤ス

一見一没之間曰乍

乍ハヒラクトカワル間ヲイフナリ

訓燈將滅而乍明

忽又作歛

倏チヨイトト誤ス

最モットモ

イツチト誤ス

魁於其類曰最

最ハスベテノ物ノ内ニイチサキニ立タルヲ云

スベテト訓ス  
列下ニ出



貨苑

七十子之徒賜最爲饒益

最爲ハ最字  
子貢ニカハル

爲最饒

トアレハ最  
字饒益ニ

尤饒益

饒益ナルヲガ  
ハナハタシキナリ

最爲大

最字上ノ語ノ主  
名モノニ屬ナリ

爲最大

大ナルモノイタクツモアル中ニテ  
コレガ最チヤト云意ナリ

最先

スベテノ中  
テイチキキ

最後

スベテノ中ニテ後ナル  
其後ト同

尤

イウ  
モツトモ  
ケヤケシ

ケウイト誤ス

瑰瑋可驚怪曰尤

尤其狀ノ常ト拔羣カワリテアルヲ云

尤トガアヤミチト訓スルモ  
常トカワリタルヲ云

美

人ヲ尤物ト云モ同意ナリ

最ハ多ク引スベタル中ニテ体ニシテ尤ハ其一事  
ノ上ニ用フ言ナリ最ハナ語ニ屬尤ハナ語ニ屬ス

傳

天下尤趨謀詐哉

變

傳民爲姦京師尤甚

獨

ヒトリ

ヒトカタト誤ス

孤奇無屬從曰獨

獨ハモト孤獨ノ獨字ニテヒトリトリ殘升レノ意ニ付ツテ若ナキ意モナリ

獨斯書行於世

此書ハ

斯書獨行於世

世間ノ方ニテ  
獨行スルナリ

寒

富人之所欲也何獨弗欲

獨字吾

弗獨欲

獨字欲スルヲ  
ガツレバカリナリ

獨不 不獨 唯獨

此ニ准ス

子孟功不至百姓者獨何與

宣 弃君之命獨誰受之

特

ヒトリ  
コトニ  
タビ

トリワケト誤ス 參而用其一曰特

特ハトリワケテ其一ヲ云意ナリ特ハ本三牲ノ内ヲ下イロ

ニテ祭ルヲ云

特ハ我ヨリ取ハナシテ云  
獨ハ彼ニテ取ナシテ云ナリ

カ  
吾  
昏  
泉

カ  
之  
中

三  
十一



桓特相會往來稱地家其樂非特朝夕之樂也

○甚太奇絕 孔痛酷苦

甚ハタ ヒトフト 深重可厭曰甚

甚ハ其事ノヒトクユキコミタルヲ云

甚可惜外ノ對レテコノ 可甚惜コ惜ハヲテ 莫甚於此ヨリ

彼ニ對シテ 此ト云 莫キ甚ハ乎ナリ 是レ事ナリ 莫レ此ハ為ル甚ト コレヲ甚シムスルヲ オカラシヤ意ナリ

南史南史 茲コリニ 莫キ甚ハ スルヲナカラシヤ 二閔衛侯ニ去リ其ノ旗ヲ是以テ甚ク敗レ

昭二十六一 甚ク口ヲ平子曰ク必ク子ノ疆也 太甚 已甚 愈甚

太ハ泰ト同 富而將溢曰ク太甚

太ハ泰ト同字ニテユタカニアリアニル意ナリ 其ハ用ニレイフ 太ハ体ニレイフ

宋五賦賦 著シ粉ヲ則チ太甚 施キ朱ト則チ太甚 赤ク 粉ヲ付ハ白スキル紅ヲ付ハ アカスキル何モ付ヌクキナリ

韓非子子 人主不レ泰危乎ナリ 而シテ人臣不レ泰安乎ナリ

已ハハタ スニヨリ轉用シタルナリ 孟子子 仲尼不レ為ル已甚者ナリ

奇ハハタ ムツラキト誤ス 詭異不レ常曰奇ト

奇ハ偶ノ反ニテ常ナラヌツラキヲ云 世綿定奇温

絶ハハタ ケカラヌト誤ス 離類特有曰ク絶ト



絶ハ外ニ類ノナキモヲ云ナリ絶世絶域ナトノ絶字ヲ知ヘシ

トニトハナレテ言ヒ様ノナキ程ト云フナリ

甚ハヒトフ成リユク道スダラコメテ云太ハ成リスギタル処ヲ云絶ハトニト切レハナレタル地位ガカリヲイフ

晋傳 伍子 泰女絶美王可自取

絶美ケレカ 殊美ベツダ

特美ワキリ 尤美トケウ 最美チツ 至美クシゴ 極美マダト

孔コウ ハナハダ オホクニ

中約終博曰孔コウ

孔ハ末廣カリナリ

孔アナト訓シテ中ヲクバリテ向フニ又ヒロガリタルアナヲ云

貢九江孔殷

孔字後世ハ韻文ナラデハ用ヒス

痛コウ ハナハダ

テヒトシト誤ス

過淫キヤ 叵堪曰痛

痛ハトウモタマラヌ場所ヲ云

痛飲ヒトフム

酷コウ ハナハダ

アラヒト誤ス

忍居刻深曰酷コウ

酷ハ至テ手ヒトクイフナリ

晋何無忌酷似其舅

苦コ ハナハダ 子コロニ

エグフト誤ス

非人所能其處曰苦コ

苦ハニカシト云字ニテ心ニ艾エキ処ヲ云ナリ

說帝遂召武子苦責之

苛カ ハナハダ トリタテツキ 劇ゲキ ハナハダ 急ハカキ 云

○極至殊異 驟數亟屢



極 キョク  
キワメテ

ニ上モナイト訣ス 居其所標的之最曰極

極ハ向フ頂上ノ地位ヲ立テ、コノ上モナキ処ト其位ヲ評シテ云

高祖本紀 豊吾所生長極不怠耳

至 シ  
イタツテ

オキツテアル訣 既得其地位曰至

至ハ其地位ニ至リキツテアル意ナリ 至ハ用ナリ 性ニ属ス 極ハ体今較量ニテ云

司馬相如傳 卓王孫怒曰女至不材 至若 若至 及至

至於 至如 コノ類安頭ニ用ル至字モヤ、リ轉接ニ用ル至字ト 同義ナレバ類ハ皆句頭複用ノ例ニテ見ベシ

殊 シ  
スベテ ベツダニト訣ス 有別於類曰殊

殊ハワキハノキテアルコトナリトハナレノキテ格別ナルコト 殊ノタハ

ウミテ分レハナレラ以名クルト同シ 殊ハ意上文ニ属シ特字ハ下文ニ属ス

留侯世家 父以足受笑而去良殊大驚

異 イ  
コトニ カワツタト訣ス 各各有所主曰異

異ハ同ノ反ニテカワリテアルコトナリ

韓組已就而效之其組異善 別 バツ コトニ 別ワカチタ子テアルコトナリ

驟 シ  
ニハカニ チヨコト訣ス 頻進有節曰驟

驟ハ少シツ、ヲリクスルナリ ハスルト訓スルトキモ 小足ニヨリハヤメルコト



寧楚師驟勝而驕

數サク入シバク声シバク 時時煩迫之日數ト

數ハタビノセリタテルナリ 驟ハ用 數ハ体

孫霖兩數至可灌而沉 數數ト 疊用ス

亟キヨクスシバクニヤカニ 多方促之日亟ト

亟ハイロクニカワリテセハレナキナリ 棘字一同音ニテ義通ス

隱愛共叔段欲立之亟請於武公

屢ルシバク 婁同 屢ルハ用 屢ルハ用 屢ルハ用

屢ハマタレテモソレニナルナリ 驟至ハ我スルナリ 數屢ハ彼ニナルニ

論語 回也其庶几乎屢空

○原本主舊 雅素職固

原ゲンモト 元同 根ニト誤ス 對流討其出自日原

原ハ源ニテ其濫觴ヲ尋子テイフナリ

志シ食貨 姦邪不可禁原起於錢 原夫ゲン 発端ニ用ユ

本ホンモト コモトハト誤ス 對末舉其根幹日本

本トイハ必末アリ同事物ノ上ニテアトサキヲ分チテ言



ナリ 本ハ体ナリ  
原ハ用ナリ

李陵 衛律者本長水胡人

陳平 王陵者故沛人 本胡人ト云今  
漢元ル有サニ

對テ云ナリ故沛人ハ居  
處ノ新故ヲ記スニナリ

復匈奴  
用傳 降民本故匈奴之人

荆燕 世家 今吕氏雅故本推轂高帝就天下

主 モトシテ

シテヨハ誤ス 本意所在曰主曰恩

主ハ客ノ對ニテ外ノ一ニ對シテイナリ

谷永 傳 主爲趙李報德復怨

舊 キウ モト シテヨハ誤ス 顧徃紀其跡曰舊

舊ハ新ノ反ニテ過シ跡ヲ語ルナリ

舊ハ其物今ハナキナリ  
故ハ其モノ今ニアルナリ

說 命 台小子舊學于甘盤

舊曾 故嘗 本嘗

舊友ハ人ナキ人ヲ云故人ハ今在ル  
友ヲ云 雅素ハ有無ニ拘ラスイフ

雅 モトヨリ  
ツ子ニ

アリキナリト誤ス 遵常未爲流弊汚曰雅

雅ハ俗ノ反ニテ正シクツ子ヲ守リテカワラス言フ

漢元 后傳 舜素謹敕太后雅愛之

素 モトヨリ  
アラカシメ

シタチカテ誤ス 未易本性曰素

絲ノ深サル先ヲ素ト云方今テラ深色ニシテ既徃ノ深サル先



ライフ 本末ノ本ハ既往ノ本ヲ主トス  
素彩ノ素ハ方今ノ彩ヲ主トス

素所蓄積 モト 素所蓄積 シタチニタラ 所素蓄積 シタチカラ今マデ

董仲舒傳 然而未云獲者士素不厲也 シタチ不厲 夫不素養 シテ

士而欲求賢譬猶不琢玉而求文采也 養士ヲシタチカラセヌナリ

職 モトメ 任之不離其局曰職

職ハ其ノが主宰トナル意ナリ

蓋言語漏洩則職女之由 スルハ

固 モトヨリ 守舊不移曰固 モトヨリ

固ハフルキ様ヲカヘヌ云

孟子 固所願也 固字其 固雖 固字キ 雖固 固字上

故 モト 義見于前 魏文 其人存其物如故 帝詩

故ハ今ヲ對シテ以前ヲイフ 固ハ以前ヨリソレナリニ居ルヲ云對ナレ

○翻還却倒 反般覆顧

翻 カヘツテ 又作翻 マタ 揮揚頻閃曰翻

翻ハヒラクカワルヲ云ナリ 魏志 盡忠為國翻成重愆

還 カヘツテ 回步向故曰還 ヒキ及シテト返



還ハ引カヘレ立モトツテ意ク尉繚日暮道遠還テ有挫氣

却カフテ アトモトリト訣挫衄スルヲ後退スルヲ日却ト

却ハ跡ツレサリスル向フニテウレロムキテ引カヘスハ還ハ向フニ行キ得ズニテ

禮書禮志若臨時有故却在明年却去ノ意ニテ自後自後ヲサスナリ

倒カハツテ ヒツリカヒ訣顛而錯之日倒ト

倒ハサカレモゴトニナリ北汝是我姨兒何倒親游氏ラ

反カハツテ 返同 アトモトリト訣對往狀其作暎異日反ト

反ハ真ウラニナルナリ還老ハ還字ハ返童ハ返字ハ此ニ返ト還トノ別ヲ見ルヘシ

書封禪望之如雲及到三神山反居水中

般カハツテ 平声音班 振然就歸日般ト

般カハルト訓スル時ハ班ト通シテアガナカヘス意ナリ

賈誼賈誼般紛紛其離此郵兮

覆カハツテ 入声 打カエテト訣 逆而致其背日覆反ハ体覆ハ用

覆ハ打カヘテウラヤル覆手ハ手ヲ打カヘスナリ翻手ハ手ヲフリ

雅小謀臧不從不臧覆用ト 顧カハツテ 冬モトツテト訣回意視後日顧ト

カハツテ



顧ハアト見カスナリ跡ヘカレテ思安スルト云所ニ用ユ

家<sup>世</sup>噲老不聽政顧<sup>ソテ</sup>為<sup>ル</sup>臣<sup>ト</sup> 復<sup>世</sup>蕭<sup>世</sup>顧<sup>世</sup>反<sup>居</sup>臣<sup>等</sup>上<sup>何</sup>也

○旋寢漸徐 稍差較良

旋<sup>セ</sup> カハツテ 宛轉復其處曰旋<sup>ト</sup>

旋ハグルクトマワツテモトノ所モトツテクルナリ 鞞<sup>鞞</sup>鞞<sup>鞞</sup>同音

戲ハ逆トシブリラシテモトノ如クモトルナリ旋字ヤハ ツイデシキリニナト訓スル時モミナ此義ヲ推知ルヘシ

始<sup>皇</sup>旋<sup>遂</sup>之<sup>瑯</sup>邪<sup>邪</sup> 傳<sup>倉</sup>即竄以藥旋下病已

寢<sup>シ</sup> ハスル 浸<sup>同</sup> イツクモテ誤ス 熠然暗襲曰寢<sup>ト</sup>

寢<sup>ハ</sup>イツマヤラ其所ヘ入りヨシデアルキニナリ 水ノヒタス

傳<sup>傳</sup>久之寢與中人亂 用<sup>複</sup>蕭<sup>望</sup>之寢益任用

漸<sup>セ</sup> ヤウヤク 冉冉相濕曰漸

漸ハ頓ノ反ニダシクニ進ナリ 浸漸ハヒタスト云字ニ浸ハ水ノ入ルコトナリ漸ハウルホテシケノ及ラフ云ナリ

傳<sup>貨</sup>積累贏利漸有所起 漸<sup>次</sup>

徐<sup>ジ</sup> ヤウヤク 優然喜遲曰徐

徐ハ疾ノ反ニイツク心ナキヲ云 定由于徐蘇而從

微<sup>ミ</sup> ヤウヤク 遲<sup>チ</sup> ヤウヤク 並見于前



稍ヤ、ハ、量分僅至曰稍稍ハ体

稍ハ稍食ノ稍字ナリ助字ニ轉用スル時モチク其ヲヲ行意

用傳府帑雖未充略頗稍給

用疊傳稍稍収其士卒至榮陽

差ヤ、以次纔進曰差

差ハ次第少シカヒノ見ユラ云蕭望之傳差居丞相後

較カ、比方之有所衍曰較

較ハタラベテ見ルニト云意ナリ

良リ、繼之要終曰良

良ハ德物ノ字ナリ善ヲ行フテ未遂ルヲ良ト云婦人夫ヲ捺シテ良人ト云未ラ遂

ル義助字ニハイカモ其事ヲキツト持テ居ル意持ナリ

孝武於是病愈遂幸甘泉病良已コレテ良字ノ義ヲミルヘシヤト訓スレバ稍寢ナドノ類ニ非ス

上嘿然良久曰顧誠何如頗見于前

○端趣頓溘 豫欲且將

端センスミヤカニ 流邁不從頌曰端

端ハテニイラスニ飛ヒユク意ナリ 風端臻于衛



趣

ハシヤカニ 促同  
七玉切

セリタテト訣

催之如織曰促

趣ハ追ヒタテル意ナリ

嚮若趣降漢王

速

スミヤカニ  
遅之反

疾徐之反

亟

スミヤカニ  
見于前

頓

ニワカニ

頓ハ漸ノ反テギキニキツキタル意ナリ

立委於其地位曰頓

子列一氣不頓進

遽

アタキキ

暴

ヒク急ナル

猝

ツツカナル

卒同上

驟

見于前

俄

モナクト訣ス

俄而

蛾而同

溘

ニワカニ  
スミヤカニ

依然乍至曰溘

溘ハ思フ、ニズツトユクナリ

離溘吾遊此春官

暫

ニワカニ  
シバシノ間云

傳三婦人暫而免諸國

豫

アスジメ

タチテト訣

函養以待發曰豫

豫ハ其ヲラヘカタニシラクヲ云

傳賈將相和則七豫附

素

アスカシメ  
シタチト訣ス  
見于前

逆

テラカシメ  
將來ヲムカヘル意ナリ

欲

ホツス

意之望於有作曰欲

欲ハ心ニ思ヒタツナリ

欲遽得

トオモフ

遽欲得

トホ

強欲 欲強必欲  
欲必 ナド皆句腰複

助語審象

卷之中

三十一



用ノ例ニシテ見ルベシ  
角抵欲以試其力今角抵ヲサスルハ其力ヲ以テスル也欲角抵以

試其力將對ニ角抵ヲシテ其力ヲ以テ思フテ并ル角抵以欲試其力既往ニ角抵ヲサセタ

ハ其カヲシントセシメテアツタニ句腰ニ用ルハイツテモ欲以テ以字上ノ語意ニ屬ス欲字下ノ語意ニ屬ス以欲ハ句頭ニ用テ上ノ語別ノ句トナ

八親我無成鄙我是欲

且シヤカガニソウウ、七夜切上声  
且義見于前コレト訓スル処ニ出

又ト且トノ差別ハ凡文中段ニ又トアレハ其事ヲ並テ前段ト同シ位ニシテ言フナリ且トアレハ前段ノ事ノ上ニシテ言フナリ添テハ意ナリ

且夫コノ類句頭ノ複用ハミナ且字下二段ノ全文ニ蒙リ夫字如字其下ノ一語ニ係ル且猶

猶且 或且 且或 固且 然且 且必 必且

且欲 且復コノ類轉接ニ用タルハミナ句腰複用ノ例ニテ且猶ハ且字下語ニ係リ猶且且字上語ニ係ル餘ハ此ニ効

二宣鬪且出カツハ斯シ所殺傷匈奴亦萬餘人且引且

戰引ツタカヒ自弓下取一个兼諸附順羽且興執

弦而左還順羽而興トス時ハ順羽畢ツテ興ツナリ順羽且興トス故ニ其興ツ間

且サ下訓スル時モチヨツト其ニシテ見ル意ニ行カリテ猶豫ニキ地位ニ

傳見且斬愛姬大駭傳汝可疾去矣且見禽

將ハサニ趨於有為曰將

力吾香泉  
方ノ平聲  
方ノ平聲  
趨於有為曰將

三十一



將ハ既ノ反ナリヒキ元ト訓ニ引ツレテ持テ行多意ハタト訓スルモ同意ナリ

將且ノ別ハ將ハヤカテシカ、ル所テ緩ナリ且ハ既ニカ、リタル所ニサシタテ急ナリ

將行行ク行ク且行既ニ足ラ欲行行ヒタツ將欲行行ヒト思フ

張儀雖有百秦將無奈齊何世將無同ワカリ兼タルニ

襄將可乎哉殆必不可殆天無以清將恐裂裂ル恐ガ

恐將裂裂カレトナリ覆覆王沿夏將欲入鄢

且將 必將 將必 殆將 尚將 將或 若將

將亦 行將 將向ナシトス 亦將皆句腰複用ノ例ナリ

○適屬祇多 端鼎正方

適アサニ 通作的 韻中響合曰適的同音ニテ

適ハ莫之反ナリ心ノツホニテウト打合タルヲ云マサニタマクナト

訓スルモテウド矢ノ的ニ中リタル様ニ其ノニ來リ合セタルナリ

游使適有天幸窘急常得脫傳

屬コノコト 時值其會曰屬オリカラト訣ス

屬ハオリカラ其時節ニ中リタルヲ云

成下臣不幸屬當戎行



祗知サニ 又作祗マツリト 諷ス 竟マツリ 違其域曰祗

祗ハヤリ 其所ヲ ハナレズシテ 始終ツレニ ナリヲ 意ナリ 祗ハ神祗 祗ハ音岐

ナリ訓適訓但ハ音支ナリ然ルニ孫季昭ハ分ツテ易ノ祗悔ヲ音岐トシ 詩ノ亦祗ヲ音支トス此イマタ深執音ハルナリ祗ハ未始熟也沈約ハ

音竹尸切 梅膺祗 八音章移切トス

易 無祗悔注祗或 小雅 誠不以富亦祗以異注法 茲苦也祗其

所以為樂也歟司馬光鄒陽 注音支傳 祗結死心 而不見德从糸此ヲ始トス韓 文以下多秘字ヲ用

多音支 多與祗同

論語 多見其不知量也叙文多 或作祗

端マサニ 舉其及之之緒曰端

端ハ端緒ノ義ニ其ハシ出テタル処ヲ云ナリ

韓非 豎陽穀之進酒也非以端惡子反也

許皇 奈何妾薄命端遇竟寧前

鼎テイマサニ 有立於其地位曰鼎

鼎ハキツトツレニナリ立テアル意ナリ

正マサニ 通作政マトモニト 諷ス 示其向之非他曰正

無說詩匡鼎來賈誼 傳 天子春秋鼎盛

力吾家書象 卷之四 三十四



正ハ邪ノ反ナリ正面ニテ其事ノカレキハレヨナリ

論正唯弟子不能學也蘇秦秦之行暴正告天下

韓輔依車車亦依輔虞統之勢正是也

方ハモト方位ノ方ニテ向フテアルト云フナリミサカリニ下訓スル

モ水ノ出バナス盛リナル処ニ向フ意持ナリ

正ハ靜ニテ其物ニツキテ言フ体ニ屬ス

書商方興沉酗于酒 檀公輸若方小

用定水潦方降疾瘧方起 班方生方死方死方生方

方復方乃 乃方 行見于前

下訓スレ復用 且將方將 祗當 祗應 正當

方且 方當 行將 端合 コレハ上ニアルトキハ句頭復用句中ニアルトキハ句腰復用ノ例ニ見ル

○偏一誕大 奄不駿荒

偏固守其僻曰偏

偏ハ兩ノ反ニテカタイチツニテリテアルヲ云

六偏持律管當耳 傳儀偏守新城



一 イッヒタスラニモツハラ 壹同

純然無所耦曰壹

一ハ雜ナク其フニナリテアル意ナリ

范曄 范叔一寒如此哉 商君 爲法之敝一至此哉

成十 敗者壹大 大 學壹是以脩身爲本

誕 オホイニ 倍其實張揚之曰誕

誕ハ實事ヨリハ一段カサラカケテ言フナリ

大 オホイニヒタスラニ 誕彌厥月

對小語其所包有之殷富曰大

小トイフ對テ心ニ持テ小ニアラヌ大ナリト云所ニ用ユ

易象 大有慶也 大字ヒロク国ニモ家ニモ身ニモカケテ慶スナリ 周書 周有大賚 賚ノ大ナルトイフノニナリ

甘茂 甘茂曰息壤在此王曰有之因大悉起兵

奄 オホイニタチニイ 一糸蓋之曰奄

奄ハ二百ニ包容シタルヲ云 商 方命厥后奄有九有

丕 オホイニツチナラト訣ス 有倍常之所思量曰丕

不ハ常ニツツテ大ナルヲ云 多 惟天丕建保乂有殷

駿 オホイニ 超邁出凡曰駿

方吾家自良 オホイニ



駿ハスグレサカレナルヲ云

頌駿奔走シテ在廟

荒クワ オホイニ

ズトキテ

遠大出ル於常制之外曰荒

荒ハ限リツカヌヲ云

昭有亡荒ス閱

誕奄丕駿荒五字共韻文ニ用ユ

○必會定計 要期斷決

必カナラズ

キツト決ス

約ス其ス當然曰必

必ハ吾心ニテ將來ヲ占メテイフナリ

必ハ未然ニ檢スル辭ナリ 夥ハ已然ニ檢スル辭ナリ 然レ必字

既性ノ我ヨリ推ハカリテ心ニ占メテ言フアリ 果字モ將來ノ心ニ然リテ用ルアリ 心ノ幽界ニ入りテカタナリ

不シ必然セ カレトモアラ上云意 必不然キツトサラ 可必シ可非シ必非シ 大ト皆コレ准シ知ヘシ

不シ必能ス 彼レカト能 不能ス 我レラタシカ 必不能ス 能スツト

有所必得ニ 必字得 必有所得ニ 必字全体

則必 必則 將必 必將コレラハ句腰 複用ノ例ナリ

昭十 芊姓有乱必季實立子管必則朋乎論 必也使無訟乎

會カタラズ 有期ス彼此相遇曰會

會ハ此事トアノトフト出合シタル意ナリ

北齊杜 鮮卑車馬客會須用中國人







決ハ其方ヘナシテシラフ云

國使禽知虎之即已決不相闘矣

約カラス見テ後ニ

○悉備盡單 詳具畢屑

悉シツコトクク 阙カク之無遺失曰悉

悉ハヒトツツ、数ヘテ殘サヌヲ云 悉ハ彼ニシテ云 悉ハ我テリテ云

傳扁鵲乃悉取其禁方盡與扁鵲

備ビツクサニ 凡百皆有曰備

備ハツロヘテオクナリ 備ハ險阻艱難備嘗之矣

盡ジンコトクク 不遺其有曰盡

盡ハ其物ヲヒキサラヘテオキテ言フ 盡ハ段々ニツクスキニナリ 悉ハ初ヨリテ打出シテ云

不能盡對一カコタヘ 盡不能對全体コタヘ

子孟非盡人之子與複食吏民嘗有事學意方及畢盡得意力不

單タンニトクク 彈同一ハニ九ト訣ス 竭テ之至其極曰殫

殫ハツクル処ニ至リツタタルヲ云 喪ニ單ニ斃ニ其死ニ矣

詳コトクク 能理其細密曰詳

詳ハ略之反ニテ其コトヲ細カニワケルナリ



幕詳延特起之士

具コトク

所陳設無闕曰具

具コトクハ十八ナガラナラヘテ言フナリ

畢ヒツ

周遍無漏曰畢

畢ハ既往ラ云字ナリ

畢ヒツハアミト云字ニテ卷ノ意持ナリソコヲナシニテト云フナリ

太史公自序天下遺文古事靡不畢集

屑セツ

細及其瑣曲曰屑

屑セツハ瑣碎ニクタクシク言フナリ

圖天之命屑有辭

訖キツ詳于前

秦民訖自若

既キ詳于前

及未既濟也請擊之

卒ソツ詳于後

○皆咸僉舉 裁才僅劣

皆カ各種一曰皆

皆カハミナソロヘテト云フナリ

皆ハアナタタコリヨセ合セテ云悉ハ我ヨリアルモノヲコトクナリ

皆不可識

不可皆識

皆不識

ハ主ニナルニハ全体ニカスナリ

莫不皆然 皆莫不然

皆可得







張儀傳雖大男子裁如嬰兒

才ツカ財ツカ繼ツカ

並與裁同

僅ツカ又作勵ツカ微少未足道曰僅

僅ハイサカ九程ノ処ヲ云

射蓋勵有存者

僅ツカ複用

僅僅ツカ叠用

僅チカント訓ス八近ト通ス

晉書趙王倫傳戰所殺害僅十万人

劣ツカ

品等不及儕輩曰劣

劣ハ優ノ反ナリマダ常ナミノ所ニ及バヌヲ云

水經北面有如頽落劣得通歩

約略見于後

○代狎間拾交互遞迭

代ツカ

接武繼之曰代

代ハアトヲツギテカワリニテルヲナリ

天官書五伯代興更爲主命

代ハ体ヲ物ニ稱ス更ハ用ニテ事ニ稱ス

狎ツカ

進退互相依比曰狎

狎ハアチスナリヨチスナリニテヨリソフテユクナリ

元昭諸侯逐進狎主齊盟

カ

カ

カ



間カハル 又作閒

雜之有隔於其中曰間

間ハ其アヒタニ外ノヲ挿ムラ云ニト訓スルモ同義ナリ

禮儀乃間歌魚麗笙由庚歌南有嘉魚笙崇丘

拾カルク 一左一右而成曰拾

拾ハ左右相タガヒニソロヘナリ

禮儀拾發以將乘矢更カルク 詳ニ於後

交カウ 斂耦相結曰交サレニヨムト同意ナリ

交ハタガヒニ結ヒ合フヲ云三隱周鄭交質

互タガヒ 相錯如犬牙曰互犬牙ノ錯ト同音ナリ

互ハタガヒニイリコト食ヒチカゴニナリテアルヲ云

遞テイ 以次承授相釋曰遞ト

遞ハツツギクヘ承テツクヲ云モト驛遞ノ字ヨリ轉用シタルナリ

律遞興遞廢

迭テツ 履轍相踵曰迭ト

迭ハソノ跡ヘハ出又ソノ跡ヘハ出スルナリ

封禪書 軼興軼衰 錯サ 錯タガヒ 錯イレチガヒト誤ス

封禪書 軼興軼衰 遞ハツツギクヘ承テツクナリ迭ハ



○俱偕共併 與及之暨

俱 トモニ イツレテ下訳ス 誘而同之曰俱

俱ハ一シヨニ九ヲ云 偕ハ打ソロフテアルヲ云

定擊之與一人俱斃

偕 トモニ 比肩同行曰偕

俱偕ハ別ハタトハ花ヲ觀ニ行ニ同シクソロフテユクハ偕ナリ或ハサキハナリ或ハアトハナリ從者トナリ色ク品カワリテモ一ヨニ行ク俱ナリ

衛及爾偕老 偕ハ與衛偕命而不與偕復非偕也

共 トモニ 相援以作之曰共

共ハヒトツヲヲヨリ合テトモクニスルニ用ユ 俱偕ハ体ナリ 共與ハ用ナリ

告湯與謁居謀共變告李文

齊 トモニ 相ソロフ意ナリ 翕 トモニ 兩方カラヨリ合フ

併 トモニ 又作拜併 翕異歸同曰併

併ハヒトツニヨヒテオクナリ アワセテ並ヘオクハ併ナリ ヒトツニ子ニセルハ合ナリ

賈誼治 安策 高帝與諸將併起 皆拜在東方

與 トモニ 以彼比附我曰與

與ハソレニクニ合シテ見ルナリ



與彼不同 我ト彼トナラ 不與彼同 我ノ内ニテ只外トチガフト云

昭十 戎狄之與鄰 傳 中國之人弗與也

用 君傳客與俱者下斫擊 昭二 相與偕出 十九

禮 弗與共戴天 樂 相與共講習讀之

累 昭二 季公亥與公思展與公烏之臣申夜姑相其室

與 ヨリハト訓スルモ同義ナリ 孰與 詳于後

元閱猶有令名與其及也 昭三 與其戍周不如城之

及 ハ此ニ彼ヲ對シツケテ云 及ハ上ノ語主トナリ 與ハ下ノ語主トナル 既其上下主客タノナリ

自古及今 古ヲ主トス 自古至今 今ヲ主トス

信傳 及至類當城生子因名曰類當 及上至ト別ハ及ハ合ヤウノ才

元隱公及邾儀父盟于蔑 魯ヲ主ニスル故 公與夫人姜氏遂

如齊 姜氏ヲ譏ル為ニ姜氏 凡師出與謀曰及 與謀ナレ魯ニテ

覆 乃刑白雉及與驢羊

之 之ニ付テアルモノニテ心ヲカサテ云ナリ 之義見于前

タトハ八鼓及鐘トイフトキハ及字ナリ 桴之鼓トイフ 時ハ之字ナリ 桴ハ鼓ニ付テアルモノナレバナリ



孝 皇父之二子死焉

考工作其鱗之而鱗付テス

將 ト 見于前

北二人權將楊惛相埒

兼 ト 見于後

顧稱奉圭兼

暨 ト 見于後 各各竝立曰暨

暨ハ並ヒタル物ニテ品等ノ多ク又処ニ用ユ

定 毋弟辰暨仲佗石彊出奔陳

昭春王正月暨齊平

前年冬齊侯伐北燕文ヲ承テ齊ト燕ト平ク魯ニテ云クニ齊燕ニ主客多ク又ナリ

複列暨及化人之宮

越 オヨビ 見于前

詔王之讐民百君子越友民

逮 オヨビ 追同 迄 オヨビ 見于後

○相胥兩耦 竝竊遲比

相 アヒ 平声 扶而與俱之曰相

相ハアイテトリテニキ合フテスル意ナリ

元 昭為五陣以相離

胥 アヒ 平声 固自為匹曰胥

胥ハモト足ト云字ニテ雙方ヲ持合セテ云ナリ

桓 齊侯衛侯胥命于蒲

力 五 齊 侯 衛 侯 胥 命 于 蒲



兩 リヤウ 多ツナカラ

匹立作對曰兩

兩ハ立ナラビテ物ヲ成スナリ

兩馬兩輪ノ兩字ニテ義ヲ見ルヘシ

兩心交定兩利若一兩為之職

耦 コウ 多ツナカラ

雙偶以同之曰耦

耦ハ多ツヨセテ一ヲスルナリ

九送往事居耦俱無猜貞也

竝 ナラビニ

儕然駢立曰竝

竝ハナラビタツナリ

後漢獻帝紀恭懷敬隱恭愍三皇后並非正嫡

竊 セツ ヒソカニ 又作窃

人ニマニト取ス 畏顯有為於隱曰竊

竊ハ人ノ知ラ又間ニスルナリ

竊惟 竊以

私 ヒソカニ 對公之稱

陰 ヒソカニ 陽之反

暗 ヒソカニ 隱昧没明之稱

密 ヒソカニ 比周無間之稱

潛 ヒソカニ 隱伏埋影之稱

微 ヒソカニ 眇小回見之稱

私以下助字ニ非ス

遲 チ コロホヒ

遲義見于前

外戚傳 遲帝還趙王死

遲明 遲旦 黎明

比 ヒ コノゴロ 去声

料其程限依附之曰比

比ハ其時頃ニツケテミル意ナリ



論語比及三年可使足民也

檀比及五世皆反葬於周

全比御而不入

乃

屬

並見于前

間カシ コゴ 義見于前

書封禪 間者比年登

○適迄了已 終竟卒遂

適ツ井ニ 聿同

レハト誤ス

度其所之以位之日適

適ハ見今ヨリ將來ハカケテ云ナリ

唐蟋蟀在堂歲聿其莫

適字韻文ノ

迄ツ井ニ ヨビテ

訖同 其処ニテリツタム

窮其所底至日迄

傳 康居驕黠訖不肯拜使者

了ツ井ニ カツテ

サハト誤ス

事訖濟而瞭然曰了

了ハアキラカト訓ジテサツハリ事ノスミテアル意ナリ

抱朴子 了不知大藥

回ツ井ニ

ムリト誤ス

回義見于前

超超 超欲因此回平諸國注回猶遂也 不可ノ義ヨリ轉シテ

終ツ井ニ

ニウ処ガ誤

對始訖其所極盡曰終

終ハ始ノ反ニテレウノ所ガカヨウアリト云所ニ用元ナリイツ

カ吾家史

卷之十

四一八



ニテモ始トイフモノヲ相手ニ持テ云ナリ

終今 終古 終有得 終字全体ニカレ得ナリ 一事ヲサス況ク言ナリ 有終得

一事ヲツイニ 終不迷 全体ガ 迷ハヌ 不終迷 今コノ路ガ 得ルナリ 迷ハヌ

桓 六 周人以諱事神名終將諱之 五 其使終饗之亦不可知也

竟 ツ井ニ 域之盡其所畫曰竟

竟ハトク外ノコナラナクタイスキニナリ始中終ヲコメテ云

留侯 世家 遂北至藍田再戰秦兵竟敗

用傳 傳 遂竟案盡没入鄧通家 畢竟ト云ナリ 究竟

卒 ツ井ニ 卽律切 紀其着落之末曰卒

卒ハ始中ヲケテシイノ果ハカリラ云フ辞ナリ

榘 遂敗鄧師於蒲騷卒盟而還

遂 ツ井ニ 閱甲涉乙有成曰遂

遂ハ此事ヨリシテ彼事ヲ成シ遂ケタル意ナリ兩事ヲ合

セテ云所ニ用ユ 終ト竟トハ彼ニ属ニ向フテサフナリタルナリ 卒ト遂トハ我ニ属スコチラニテサフシタルナリ

隱 元 莊公寤生驚姜氏故名曰寤生遂惡之 名ケテ寤生トイフヨリ ツ井ニ惡ムニナリタルニ

成 今叔父克遂有功于齊 襄 自衛將遂伐晉



離乃遂焉而逢殃

肆ツ井ニ見見于前前故故今今意意ナリ

典肆覲東后后

○連頻仍旋 荐薦恣累

連シキリニ疊依若漪日連連

連ハ我ヨリヲヒツケテスルナリ傳因連與漢戰傳

頻シキリニ濱之少間斷日頻頻

頻ハ彼ヨリヲヒツケテスルナリ抱頻為節將見邀用子

仍シキリニ復起不渝其往日仍仍

仍ハ以前ハ違ヒサフナ処ニヤハリ以前ノ通りニ成テ出テスルナリ

調 晉仍無道而鮮胄 大仍執醜虜

旋シキリニ追追ヒツケテ意ナリ 旋義見于前

後漢鄭衆傳 旋為邊害

比シキリニ見見于前前去声 其其コニツケテスルナリ 紀紀又比殺殺二趙王王

荐シキリニ海同 稠重不可大闕日荐荐

荐ハヲシカケククルナリ草細日荐ヨリ轉用用シタルナリ

傳易象 水洊至習坎 全洊雷震 喪喪不虞荐至

助語家象 卷之中 五十一



薦ヒシキリニ

薦與荐同

大饑饉薦臻カサ子テ

薦字韻文ノ

恣シキリニ

恣ハナルニ隨意ニルナリ  
放縱無所制轄曰恣

累シキリニ

屬屬相增曰累

累ハソ上ヘナリクシテユクナリ

切シキリニ

急シキリニ

助語審象卷之中

助語審象卷之下目次

如若似均仍故猶由尚切

幸賴熟倩信允情諒良厚

實寔展亶真洵誠亮手

能耐善克巧好喜矧況

更改起重再

兼還

復亦又且加

始初肇甫造

始初肇甫造

昉哉載

在存著

任耐

勝堪

整強

咋近

抑或果苟卽

長鎮永

每恒常值會脫偶遇

抑或果苟卽

儻倘

審就如若猶誠

縱借藉

假壁

嚮

鄉同

使令遣教俾致一

拜伴

作爲庶幾上尚





冀附四許頃所可附如空虛素徒附姑薄附少凡最

連應附率槩抵歸類約附致較慮諸統合都渾殊附總切粗

麤同略幾豈巨渠寧無附孰疇誰各詎渠同

疾那奈耐奚曷同何如何附胡蓋闔遐庸焉安惡烏

八嗟噫同意嘻同戲噉同噉嗚同呼呖同呖同

慶嘆咨同都吁於荷繫愁惡猷噬同

俗語助字部

馨麼地阿頭邊許渠價恁儘同儘做慣件色上下六

等底怎附爭甚那他這箇個可該是也解附省險然

些八任饒從信放容許附浪漫不休沒莫來去

除只說道得着負取罕斗劃同打赤了却二

恰纔剛的殺同生樣脚向和枉賸同番同回子兒

四靠交消厮哩呢咄唳五



廣後整所  
書林上河真



助語審象



助語審象卷之下

○如若似均 仍故猶尚

如<sup>ゴ</sup>コトシ  
モシクハ

シトオト誤

如者向彼紀此其所比方之辞

如ハユクト訓シテ此方ニテユクサキ(對)此方ノ出タル処ヲ見テイフ  
字ナリゴトシト訓スル時モ向フモノニ對シクテ其体ヲイフ辞ナリ

橘園三宅先生口授

人門

釋海定

三上惇

筆

宮永寅

録

助語審象

卷之下

一 喬菊歲坂



若 ジヤクゴトシ  
モシクハ  
カクゴトキ

シヤクト訳ス 若者循此指其所擬模之辞

若ハシタガフト訓シテ向フノ様子ニツキテ云クナリゴトシト訓スル時

モ向フノモノ、ヨフスニ付テ見テソノ用ヲ云辞ナリ 如ハ物ニツキテイフ  
若ハ心ニツキテイフ

如ハ体ニテ外ニ相手ヲトリタトヘテ我ヨリ比シクスベテソノトオリ  
トスルナリ 若ハ用ニテ其内ニテ彼ノ其ヤウニナツテアルナリ

武帝獨見其星出如瓠 封禪書 封禪祠其夜若有光 瓠ハ外ノ  
瓠ト云モノ

ヲトリ來テタトヘルナリ 若有光ハ即ルアリテ真カ假カ分ラヌ故ニ若ト云  
タルナリ 凡テ如ノ下ハ今ナキ幽界ノ事物ヲヒキ出シテタトフルナリ 若ノ下ハ明

界ノ形見ラ云テ擬スルニ 如此 若此ナドハ記者ノ心ニ幽界明界ヲ分ケテ  
如ト若トヲ書分ルナリ 如此ハ外ノニクラヘルニ 若此ハコソコソノマツルト吾心ニテ云

不如 其トオリニク  
トハセラレヌ 不若 其ヤウチヨフス  
トハセラレヌ 莫如 ソノトオリノ  
トハモスナリ 莫若

不如鳥 鳥ニク  
ヘテイフ 不鳥如 クニベテミルニ  
鳥ニモユカヌ 曾鳥之不如 ニカモ  
ニカモ

不若鳥 ヤウスラ見  
テイフ 不鳥若 ソノヤウスガ鳥  
ニチモナラヌ 殆鳥 ニカモ  
ニカモ

之不如 鳥ノヤウスラ  
ナラヌホトシ 莫若周公 外人ヲ主トシテイフ  
世ニ周公ヲウナ者ハナイ 莫周

公若 周公ヲ主ト  
シテイフ 天欲殺之則如無生 定子西曰  
五年

不能如辭 コレハ如字不如ノ意ニ似タレ凡我ニシテイハハ不如トカクヘキナレ  
凡彼ニシテモシクハ無生ニテモアラカモシクハ辞スルニモアラカト云タルナリ

論 君子哉若人 寡 夫婦所生若而人 カクノゴトキソノ  
人トイフキミナリ

若干 若ハソコラノヨフスノ処ヲ  
サス干ハ俗語ノ箇ト同 傍若無人 外ヨリ見  
テイフ 若傍無人

其人ニナリ ヤムヤウニ  
スレ見元 小若疾 疾カスコキ  
ヤウナ 若小疾

勅語審象 卷之下







モドツテ見レバヤハリ其スヂヤト云意ナリ 猶ハ其トオリ其ヤウナト  
シカト云ニアラ子ド事ハ

違フテアレ見ルト畢竟ソノスヂニトシイト云コナリヒトシキ  
云訓的當ナリ如ヨリ若ハ辞元シ若ヨリ猶ハタク緩ナリ

春秋不郊猶三望 昭十六人同之不猶愈乎

策其實猶之不失秦也 老聃傳今日見老子猶龍邪

用復僖一薰一猶十年尚猶有臭 尚字下ノ語ニ係ル 僖  
猶字上ノ語ニ係ル 五親以寵

偏猶尚害之 猶字下ノ語ニ係ル 尚字上ノ語ニ係ル 猶如 猶若 猶似

尚 ナラ 通作上 マダト訳ス 尚者示所進更有籌餘之辞

尚ハクワルト云字ニテ其上ニマダアルト云意ナリ

尚ハサキへ段く加へテユクナリ体ニ属ス  
猶ハアトへモドリテイフナリ用ニ属ス

家 尚誰予乎 策不歸四國尚焉之 策其民力竭矣安猶

取哉 尚奚 尚何 尚安 寧尚 尚復 子句腰復  
用ノ例ナリ

○幸頼熟情 信允情諒

幸 サイワイニ シラモト訳ス 所敷値可欣喜曰幸

幸ハシアワセノヨキコナリ 元后傳 太子宮幸近可壹往遊觀ス

頼 サイワイニ ヤウニト訳ス 憑恃之以自慰曰頼

頼ハヤウクニソレヲヨシトシテ居ル意 燕頼得先生雁鴦之餘



熟ツラク 既慣之能經鍛鍊日熟

熟ハヨク其一ヲ子リツメタル意ナリ

儻シラク 婉曲久之曰儻

儻ハ心ヲ用テ念ヲ入ルナリ

信マコトニ 言行相徴可驗曰信

信ハ引合セ見テチガヒノナキヲ云儻ノ反ナリ

昭子誓信美矣抑子南夫也

允マコトニ 從外容其可曰允

允ハユルスト云字ニテ衆人ガ見テイカモチガワストスル所ナリ

軍志曰允當則歸

情マコトニ 盡意之所欲未容飾情

情ハ意ニ思フテ井ルマナリ偽ノ反ナリ

情知積粟腐舍而不忍貸人一斗

諒マコトニ 彼我有相徹曰諒

諒ハ我心ヲ人心ニ通知ラシムルニ 諒良相近ケレ尺諒ハ去声ニテ 体ニ屬ス良ハ平声用ニ屬ス

雅及爾如貫諒不我知



良 リョウ マコトニ 見于前

昭吾身泯焉弗良及也

○實寔展亶 真洵誠亮

實 シツ マコトニ 古作寔

充在無耗闕曰實

實ハ内ニ持テアル処ヲ云虚ノ反ナリ

莊陳嬀歸于京師實惠后

寔 シツ マコトニ トクト其処ニテシツク意ナリ

寔義見于前

桓春正月寔來

實字ノカワリニ帝諱ヲ避テ寔字ヲ用タル  
一アレハ實ハ体寔ハ用ニテ同シカラス

展 テン マコトニ 上声

敷意陳之曰展

展ハ我心ヲハシキテイフ立意ナリ

展如之人兮邦之媛也

亶 タン マコトニ 多簡反上声

執此篤之曰亶

亶ハ厚ク丁寧ニイフナリ

冬バト訓スルトキハ徒簡切  
ニテ但ト通スルナリ

小雅鹿鳴是究是圖亶其然乎

展亶トモニ韻文ノ外ハ用ヒス

真 マコトニ

天成不容偽曰真

真ハウブノミナルヲナリ假ノ反也 六經ニ真字ナシ

留侯呂后真而主矣

真誠 真成モ同シ

洵 マコトニ 恂同

續綵綢繆曰洵

幼吾吾長

卷之六

六



洵ハクリカヘシテモソトヲリト云意ナリ  
王洵美且仁

誠セイ マコトニ  
所運用恒久不變曰誠

誠ハドコニテモトヲリテカワラスツクヲ云

論誠不以富亦祗以異スナハラ  
誠詩ニ 作成

亮リヤウ マコトニ  
亮與諒同魏都賦 出ツ

○能善克巧 好喜矧况

能ノウ ヨク  
致得之盡其方曰能

能ハ其手マニテ自由ニデキル所ヲ云

人人不能得タレモカモ得ル 不能人人得タレハハレ人

不人人能人ゴトニ 不可人人能人々ヨクセントシテ

能有所發能字ソノ 有所能發能字ソノ 莫之能行莫之能行

ヨク行ヲラコソフ ニセ又之字活動 莫能行之行 ノ能スルカセヌカノ 能字活動ス 能得

有能 能有 為能 能為 無能 能無 不能 能不ナド此ニ唯知スヘシ

子孟吾未能有行焉全 未有能濟者也 禮レ聖人耐ヲ以天下ヲ為一家ト

耐ノウ ヨク 音能 與能同 運レ聖人耐ヲ以天下ヲ為一家ト

善ゼン ヨク 成得之有以繼曰善



善ハ人ヨリ見テ誰が見テモヨキトイハル程ノ処ヲ云 能ハ体ナリ 善ハ用ナリ

善ハソノ事ニキテイフツツク意 善書 外ヨリ 能書 ソノ人ニ

傳田脩無不善書者莫能圖何哉 志瀆岸善崩

克 ヨク 才ホセルト云 用カ盡其所難曰克

克ハ成レガタキ処ヲレオホセタルナリ 堯克明俊德

復昭ニ 克能修其職 方術 故能克崇其業允協大中

巧 ヨク 對拙指其隈曲及妙曰巧

巧ハ拙ノ反ニテ物事ヲ上手ニスルコトナリ

好 カク 上ヨク 尋思之以為美曰好

好ハ思テミテヨシトスルナリ好ノ反ナリ

好以衆整 全 好以暇 魏 志盛德烈壯好建功勳

喜 ヨク 又作喜 得所嗜不自己曰喜

喜ハ怒ノ反ニテソレラウレシガルナリ

東方 喜為庸人誦說 喜忘 外ヨリ 善忘

矧 イキ 又作矧 矧者架一層乘之之辭

矧ハカフアルウヘニ猶ザラト云意ナリ 矧ハハキトニスルト訓スル字



盤庚知天之斷命矧曰其克從先王之烈

矧且 矧又 矧乃 矧夫 イツレモ語頭ニ用テ句頭複用ノ例ナリ

况 イハキ 又作况 マシヤトク 況者擬其所有尚者而掩之之辞

况ハクトフト訓ニテ其ヨラスヲ思ヒヤル処ヲ云字ナリ 旅況情況本ノ況字ノ意ハ

カフサヘアルニサソヤト云意ナリトヘテ取テ一段カケテ云ナリ

矧ハヒトツバンヨニテ言フナリ況ハ界ヲ越シテトヘテ取テ言フナリ

孟子 況乎以不賢人之招招賢人乎

而况 何况 豈况 何豈ナドノ字ヲ加ルハイヨク深クカサラカケテ云ナリ

更改起兼 還復亦又

更 カウ サラニ タカヒニ アカラサニ 去声 置舊舉新曰更

更ハアラタメ其事ヲ出シテ重子イフ詞ナリ切カエテ一段シキリヲ

立テイフナリ 更無 キリカエテ 曾無 トニ

更不可改 更字其 不可更造 更字其

五傷 在此行也晋不更舉矣 趙臣更不理

改 カク サラニ 棄故易物曰改

改ハサツハリ新ラシクスルナリ フルキラスト、シマフハ改ナリフルキハソノミ、ニシテオキテアタラシク作ルハ更ニ



雜記 反改成踊

起 キ サラニ

奮以趨於用曰起

起ハ卧ノ反ニテ進ニテ用ヲナス意アリ

内則 起敬起孝 鄭注起猶更也

重 チヨウ カサ子テ 平声 アル上カサ子ルナリ

再 サイ フタヒ 二度アルコト

再ハ記者ノ心識ニカル故ニ助字トスレモ再ハ其事實ヲ記ス詞ニハ助字ニ非ス

魚 ケシ ト

攝彼以副於此曰魚

魚ハ主トスルモノアルニ客ナルモノヲ兼ル意ニ

趙又魚無燕秦

還 セン 音旋

旋同 メダリテキテノ意ナリ

還義見于前

スナハチト訓スル処ニ出

管子 還四年伐孤竹

復 フタヒ 去声扶富切

復者襲跡再追之之辞

復ハ重子テアルコトヲ体ニシ言フナリ

復ハ入声ニカエルト訓スルトキモモト出タル所ヘカエルトナリ

子列須臾之忘可復得乎 水火豈復可近哉

可復ハフタヒニス

復可ハセラルコトガ

不可復讀 ヨムコトヲフタヒ

不復可讀 ヨムコトヲフタヒ

不可復讀 ヨムコトヲフタヒ

復不可讀 ヨムコトヲフタヒ

無復所用 復字ツノ

復無所用 復字ツノ

復無所用 復字ツノ

無所復用 復字用ル

無復用處 用ルハレヨ

無復有所用 用ル

無復有所用 用ル

有ルカト尋

難復遇 フタヒ

亦難遇 フタヒ

復欲得 復字其

復欲得 復字其

力吾...

...

...



欲復得復字其

非復 雖復 猶復 復何

例ナリ

亦モ

モ

亦者比其象以匹之之辞

亦ハカ多クノ物ニ比シテコレモ一タト云意ナリ文面ニ比スル者ナクテ

モ幽界ニ物ヲ持テ比シテ亦字ヲ置之一段コト入タル字意ナリ

論不亦說乎

文面ノ外ニ説フ一ヲ立置テ亦ト云タル

似亦無害

害ナキ

亦似無

害似タル

義公登亦登

登ル一ヲ孫文子モ一タセシナリ

禮丘則否能亦又不能

傳其更卒亦輒復盛推外

國所有

昭晉侯將亦弗逆

昭雖亦不許君庸多

矣句腰複用ノ例ニテ亦字上ノ文ヲカハル

亦雖亦字下ノ語ニカハル

亦字一段コト入テ深キ字意ナル故ニ無字不字アルハ反語ニナル

不亦難

難キナリ反語

亦不難

難カラヌナリ

不復難

難カラヌナリ

不亦可乎

可ナルナリ

亦不可乎

不可ナルナリ

孟子不敢以宴亦不足弔乎

此ハトノ語勢ハケレキ故ニ不足弔モノニシテ云カケタルナリコレ奇法之粗率ニ見ルベカラス

魯語無亦置其同類以服東夷而大攘諸夏將天下是主

周語無亦擇其柔嘉選其馨香

有亦

無亦ト同ノ反語ナリ宋詩ニ時未識鳳凰有亦

學不徹トスハ問ノ語ナリ

力吾吾



又 イハ  
上声

又者措其武而更企一步之辞

又外ニタヒトツカフ云トガアルトニツ並テ共ニ主ニレテ言フ時ニ用ユ

又ハ上ノ語ニツキテソレニタカクイフコアルトイフナリサフ有テタカクアルナリ  
亦ハ下ノ語ニツキテ見ヘシ亦悦ハ悦フガモ、タ、亦過矣ハ過テルコガモ、タナリ

三 祭足帥師取温之麥秋又取成周之禾 祭足ガ又スルナリ  
取ノマタハ非ス

五 祝聃射王中肩王亦能軍 能軍ガモ、タナリ  
王ノマタスルハ非ス

昭二 將九子又叱之亦叱之 又ハ其人ガマタセシナリ亦ハ叱スルコトヲ云ナリ  
カラムセシナリ又亦ノ別ニナコト例ナリ故ニ

不亦說乎 トハカケル不又說乎ト  
書クハナレ能深ク味フテ辨別スヘシ 擊及日中又至亦如之 擊及日中又至亦如之  
モトノトコロ

五 焚之而又戰 アリシナリ 丙戌復戰 モトノトコロ

固已疑其言國陰事漢使又來 又漢使來ノ意也亦字  
ナレハ漢使モ、タナリ

且 イハ カ ツ 加 カ マ 翻 イハ マ ナ リ 三 字 並 見 于 前

一タト訓スル複用 亦復 還復 復還 且復 復亦

又復 亦又 又兼 コレラハ上ニアルトキハ句頭複用ナリ  
句ノ中間ナルハ句腰複用ノ例ナリ

○ 始初肇甫 造昉在昔

始 イハ マ テ 對終啓其所基址曰始 ト

始ハ終ノ反ニテ事ヲ仕ハジムル用ヲ云



五初獻六羽始用六佾也初ハ廟ノコトヲサシテ云始ハ用ル人ニナリテイフ

初ハシメテ 指彼之所興端緒曰初

初ハ後ニ對シテ其最初ノコトヲ云始ハ用ニテ我ナリ初ハ体ニテ彼ナリ

宣季文子初聘于齊被齊侯ニ於襄七郊子來朝始朝公也

我魯侯ニ於隱元初鄭武公娶于申今年ノコトヲ申ニ立テハシテ云以前ノコトヲ客ニ引クナリ

傳波鄭始翟公為廷尉コレハ事ノ始終ヲ順ニ記スルコトニ下ニ後復ト云字アルニ應ジテ始字ナリ

肇ハシメテ 又作肇 紀其舛昧之趨於動曰肇

肇ハ也然トシテマダ開ケカル始天后稷肇祀

甫ハシメテ 在其元以待支流曰甫

甫ハ父ト同音ニテ其本トナリテ末ヲ生スル意アリ

周礼ト葬兆甫窀ス

造ハシメテ 闢之以有作曰造

造ハ今ニテナキコトヲ新規ニハシムルヲ云

伊訓造攻自鳴條朕哉自毫 哉ハシメテ 見于前

助ハシメテ 通作方 嚮其符益然曰助

助ハヨシクソレニ向フナリ日出ノ始テ綱ナルヲ助ト云ヨリ轉用シタルナリ

初吾嘗良卷之



子列衆助同疑

載ハシテ見于前載字ヲ体ニシテ是

端ハシメテ

在アリ

ニ

抵其所止地位示之之稱

在ハ其地位ニツキテイフ

在ハ助字ニ非レ

在昔時世ヲ主

所在其物ニツ

在所ツキテイフ

有アリ

對無示其可實曰有

有ハ其物ニツキテイフ

有ハ一不惑者今ハト一有ハ不惑者モシヒト

不可ハ一有ハ闕一字全存

不可ハ有ハ一闕カタタルカ

元隱有文在其手曰為魯夫人

禮晏子可謂知禮也已

恭敬之有焉

論苗而不秀者有矣夫

有字下ニアルハ固有

有苗而不秀者

有字上ニアルハ今有

史內外擊之有何不

濟成何盟之有

我吾有何患

論何有於我哉

父者今有

子墨太上無敗其次敗而有以成

有以字句腰

而上ノ語ニカリ以有成

而以二字複用ニテリテ以字

十有一年

十トカ有終リテ

存アリ

著アリ

逗トウ

トタアルナリ

存アリ

著アリ

逗トウ



○任耐勝堪 怒強咋返

任 平声

膺之務以有守曰任

任八身ニヒツカケテスルナリ

自起病不任行

耐 去声

被之困可久持曰耐

耐ハチツトコタヘテ居ルナリ

複後漢西堪耐寒苦同之禽獸

能 音耐 与耐同

趙充漢馬不能冬

勝 平声

比較之可以有尚曰勝

勝ハオサニテ其上ニユク意ナリ

四昭張句不勝其怒

子孟材木不可勝用也

堪

忍之許其有成曰堪

堪ハコラヘテ其ノヲナシトスル

十一君欲已甚其何以堪之

忍

禁 平声

怒 又作怒

怒者惜之欲僅有爲之辞

怒ハセメテハト惜ム辞ナリ

小雅不怒遺一老

語怒庇州犂

強

勸之要其過分曰強

力吾采

十五



強ハムリニシヒルナリ

成二君弱皆強冠之

咋アカラサニ  
シラ多

ウカト契 言發於偶然曰咋

咋ハ心ニ根ヲシテヒヨツト言ヒ出スナリ

作ト同  
音ナリ

定 桓子咋謂林楚

逅アカラサニ  
タク

事遇於意外曰逅

逅ハ思ヒガケナクヒヨツト出テタルナリ

暫 アカラサニ  
シラ多意

○長每恒常 值會脫偶

長チヨウ  
トコシクニ

相持之久曰長

長ハイツツテモカワラヌ意ナリ

来ニ用ルトキハトコシクニト訓ス  
性ニ用ルトキハヒサレクト訓ス

羸臣長不復見左右

頌長發其祥

永チヨウ  
ナカク

鎮チン  
トコシクニ  
去声  
ドコナチモト訓ス

鎮長 鎮日

每バイ  
ゴトニ

數其所當曰每

每ハソノタビゴトナリ

每各 每輒 每必

恒コウ  
ツ子ニ

不易其守曰恒

恒ハイツツ出テ來テモ同シ様ニナルト云意ナリ

元楚國之舉恒在少者



常ツ子ニ 平生所事事曰常

常ツ子ニ 旦暮兮不レ身ニ附テアルナリ

子下有不常勝之道全 常不勝之道曰強不常ハ多ク多クモアル

居恒ツ子ニ 居常ツ子ニ 終古ツ子ニ 終古ハ昔モ今モ

值ツ子ニ 忽已ツ子ニ 其時曰值

值ツ子ニ 其時節出合タル

會ツ子ニ 兩事出合ナリ 義見于前適ハ二事上ニテ下出合タル

用履 適會履助 閩越王弟餘善殺之以降屬適

脫ツ子ニ 脫者虞其出於格外之辭

脫ツ子ニ 常ニハツレテカフ言フガアラハト云意ナリ

晉張明公脫未之思子 脫其不勝取笑於諸侯

偶ツ子ニ 不料而會之曰偶

偶ツ子ニ 思ヒヨラスフトアリタルナリ

楚偶有金千斤進之左右以供芻秣

遇ツ子ニ 因ツ子ニ 適ツ子ニ 屬ツ子ニ 並見于前

○抑或果苟 卽儻設試



抑

ヨモク

シカト契

抑者沮之而別設異見之辭

抑ハ揚ノ反ナリ上ニ言タレ語ヲ抑ヘオキテサテオシカヘレテ言フ

テ見ルニタカフイフ理ガアルト云意之抑ハ上ノ語ヲ反ス語ナリ

論

與之與抑求之與

抑此皇父

此章首ニ上ノ章ノ語ヲ承テ抑ト云タルナリ

隔

鄧侯曰人將不食吾餘對曰若不從三臣抑社稷

實不血食

抑字上ノ鄧侯ノ語ヲ承テ抑若不從三臣ノ意ナリ

或

アハルハ

有ル

有ル

ハ

ニ定ラヌヲ云

語其有時殆將然曰或

或

莫之或止

之字活

莫或之止

或字活

未或之先 未之或先 未或先之ナド准知スヘシ

四

或者其君實甚

或默或言馬

恐或

或字上語

或恐

或字下語ナリ

雖或或雖猶或

或有

句頭複

果

ハタシテ

决致之其熟曰果

果ハ上ニ言フテアルコトヲ言フトオリテ

果ハタシテト訓ガ凡本ノ子

ヲ實トイフ既ニ熟シテ可食トコロ

果不用

彼ガ用元

不果用

我用元ヲラセヌ

果如此矣必濟

苟如此矣

カキタシモ

誠如此矣

ツツケルナラハ

カ

カ

カ



中庸果能此道矣雖愚必明此道ヲヨクスルヲ果スナラバ

僖二晉侯在外十九年矣而果得晉國既往ヲウケテ今果シテナリ

苟コウイヤレタモ  
モレ  
コトニ  
カリタモト誤ス 草次為之曰苟

苟ハカリタモモカフナシタラバト彼ニ向テ言聞ス辞ナリ

無苟死死スルヲラズ 苟無死先ナカレニ死ナクニオレ 不苟苟不モ  
コトニ准ス

王モ 苟無飢渴 曲臨財毋苟得全 不苟訾モ 苟且カリタニ

即レヨクモレ  
ギキ其ヲテ見ル  
タラバト誤ス 義見于前  
苟ハ彼ニサセテモ即ハ我ヨリ其ヲニナレテモ對  
ナレシ言フ 如若比較シテ其形色ヲ言フニナリ

秦モ 即天下有變王何以市楚也

儻モ 俗作倘 擬什伯中或一有偶然曰儻

儻ハ子ニツモ此一ガアルナラバ一 儻モ 儻所謂天道是邪非邪

設モ 模稜而陳之曰設

設ハ今ハオキヲナレモコレラヘテ言テ見ルニナリ

策モ 設以國為王扞秦而王無之扞也

試モ 使為之以量其能曰試

試ハ子ヨツト其ヲラシテ見ル平原雖然試言公之私



嘗

コロニニ 見干前  
其事ヲマヘカニシテ見ルト云意ク

覆コロニニ子嘗コロニニ試論之

○審就如若

縱借假譬

審

竊察其或然曰審

審ハ其委曲ヲ心ニカニガヘテミレバナリ

傳毛高審有内乱殺人怨對之端

就

オトヒ  
モレ 彼ニシキテ言テミルナリ

就義見于前

後漢胡廣傳就值其人猶非德選

後漢雅  
譚傳就有所疑當求其便安

如

オトヒ  
モレ 才七尺ト云々 義見于前

如有ラハルトオリニ  
ニシテ見タラバ 有如ソノトオリナル  
トガアルナラバ

傳商君公叔病有如不可諱將奈社稷何

若

モレク  
モレク

子オトヒト云々 義見于前

命說若歲大旱用汝為霖雨

若モシクハト訓スルモ同義ナリ

若ト或ドノ別ハ若ハ死ヲニシテオキテ  
云或ハアルカナキカ定ラ子死アルナラバト

云意より 若ハ一処ヨリイタクツニモワケテ言フ  
或ハイタクツニモナリテアルラコヘヨセテ言フ

傳龔勝若子若孫若同產子

猶

モレ  
タチモトツテミテノ意ナリ 義見于前

則内子弟猶歸器衣服裘車馬



則必獻其上而后敢服用其次

誠モシ 義見于前 復瀆如誠得水可令畝千石

モシト訓スル復用 若儻 脱若 若誠 如誠 誠即

第令 假令 向使 向若 假設 設為 設令

藉令 藉使 但令 但使 且誠 且如 譬使

假若 如使 即使 ニナ句頭復用

縱シヨ 去声 通作從 シム 縱者欲シテ而先設其當之辭

縱ハサフナラヌハツナレソレニシタトコロガナリ

二宣 從其有皮丹漆若何 四 縱弗能死其又奚言

借シヤ 去声 藉同 シム 彼之所姑處可詰曰借

借ハコニナキコラ外ヨリ取來リテ云

大雅 借曰未知亦既抱子 賈誼過 藉使子嬰有庸主之材

假カ モシ シム 我姑設之待其訝之曰假

假ハ真ノ反ニ實ハオキコナレカリニ斯云ナラハナリ 假ハ体

借假ハシメバナリ云カナキナラハ月が見ラルト云トキハ借假ナリ

傳是 假令晏子而在余雖為之執鞭所忻慕焉

力吾定其長 心之下 二十一



譬 タトハ

以此比彼之稱

譬ハ外ノヲタクスニ取テ言フナリ

縦借ノ類ニ非ス  
タトハゴトナリ

南越傳成敗之轉譬若糾墨

○嚮匹使令 遣教俾致

嚮 サキニ 通作鄉 鄉向

模其往之或處此曰嚮

嚮ハ既往ニムカフテ云

秦策向者遇桀紂則殺之矣

向者 鄉也 曩者

サキニ 日也 往昔 往者

匹 タトヒ  
タトハ

冀比耦之曰匹

匹ハコレニ並ヘテ見ルナリ

匹如 匹ハタトヘルナリ如ヲ加レハ  
モシモシ意ヲ帶ルナリ

正 タトヒ 見于前 王莽 騶正有它心宜令州郡且慰安之

饒 タトヒ 縦而持之曰饒

任 タトヒ 見于前

タトヒト訓スル複用 縦使 縦令 縦遣 縦饒 就使

就令 借使 假如 假之 籍第 正使 正是

向使 鄉令 向者 借曰 雖使 雖令 郎雖

雖就 雖郎 只使 假而 柳文 用 ミナ句頭複

使 シム 使者運動之之辞



使ハ我ヨリ指揮シテ彼ニカフサセル使介ノ使ヨリ  
轉用シタルナリ

成十吾不獲縛也使主社稷使字ハ群臣ヨリ使主ノ使縛也主  
社稷トアレハ使字夫人我カニ使ルニナル

運聖王所以山者不使居川不使渚者居中原而弗敝

也不使字上ニアルハ彼ニ  
カリ下ニアルハ我ニカル不使使不不使ハ不字我ニカリ使  
字彼ニカル使不ハ使

字我ニカリ不  
字彼ニカル使無無使上ニ同

令平声令者抵致之之辞使ハ体ニ  
令ハ用ニ

令ハ一ウリクテ彼ニカフナラセルナリ号令ノ令ヨリ  
轉用セルナリ

魏其案灌夫頭令謝周令五家為比使之相保

世使吏送令歸家

遣シム遣者任未女之之辞ツカワスト訓シテ  
出ル処ヲ見テイフ

遣ハ指揮ヲナサズヤリ放シテ彼ニサセルツカワスト訓シテ  
出ル処ヲ見テイフ

淮陰  
侯傳乃遣張良生立信為齊王

教カウ  
平声教者指揮之之辞遣ハ体ニイフ  
教ハ用ニイフ

教ハ我ヨリ指揮スルニイフニ陰ニテヒツカニスル意アリ

韓非進則教良民為姦退則令善人有禍

僖十子金教之言曰復劉高教令人言變事用傳

カ吾各各 卷之下 二十三



俾シム ナシテ 俾者引此以及彼之辞俾ハ來ニ屬ス

俾ハ畢竟サナラセリ古ヨリ俾字ナルコシムト云テソレヲツカフテ遠キニ及ハセル意味ナリソノ処ニイタラシムルナリ

引ヨセテシムルキミアリ將來ニナラセルナリ

風フエ 俾也シム 可忘ラ 秦シム 違之テ 俾不通セ

致チ 致シム 來彼於此日致ト

致ハ段ヲコヘテ至ルラ云 複秦用 遂致使御而妻之

シムト訓スル複用 使令 俾令 教令 致令 致使

三十句頭複用ノ例ニテ見ルヘシ

○ 拜ハ 伴ハ 作為 庶幾上冀

拜ハ 拜シム 拜者見使之之神用之辞

拜ハ使字ノ用ヲ云ナリ 小雅 拜云不逮

伴ハ 伴シム 伴者拜之深也

伴ハ拜ト同義シテ小重拜ハ清音伴ハ次清音凡字音清モノハ意淺ク濁ル者ハ意深重ナリト知ルヘシ

洛ハ 子齊百工伴從王于周

伴ハ 伴シム 與以從事日作

伴ハ 其事ヲシオコスナリ体ニ屬ス ナスト訓スルモ同意ナリ







身言者身一

上コヒ子カスルハ尚同トダトクヌ 尚義見于前

魏ウヱ上慎ウヱノ旗ハタ哉ヤ 復後漢明儻コヒ子カスルハ尚可救ト

冀キ コヒ子カスルハ コヒ子カスルハ 用意俟其若是之稱

冀キハコヒ子カスルハコヒ子カスルナリ 武帝冀遇逢萊

沆キツ コヒ子カスルハ見于前 ホトト訓ル上同意ナリ 小沆可小康 関曰ク

許キヨ頃所可 空虚姑薄

許キヨハ其程ノシカト定ラヌヲ云 斥其所位忖度之曰許

百許里彼ノ体 百里許我ノ計

古河漢清且淺相去詎幾許 許多 若干若字ノ

頃ハカリ ホトト訓ル 畫其間計量之曰頃

頃ハハカリバハカリク經タル間ヲ云久ノ反ナリ 食頃食スル

所ハカリ シホトハハカリシヨト云ナリ 義見于前

翼ウツ父去里所復還 傳受讀解驗之可一年所

可ハカリ サレキトセラルト云意ナリ 義見于前

大宛去漢可萬里 所ハ明界ハシヨラ立テイ頃ハホトノ間ヲイフ 可ハ幽界ヲ思ヒヤリテイフ許ハシヨラニイフ

力吾天象 卷之六 二十六



可字入上オク所頃ハ下ニオク  
許ハ上ニモ下ニモオクナリ

如コト バカリ 見于前  
コトト訓スルト同意ナリ

響出如食頃

空クウ ムネク スカ下訳

無所捉搦曰空

空ハトラマヘ処ナキラ云

田廣明傳引軍空還

虚キョ ムネク

枵潤無見存曰虚

虚ハ實ナキラ云 空ハ用  
虚ハ体

漢司馬相如傳虚藉此三人為辞

素ソ ムネク 見于前

徒ト ムネク 見于前  
イダツラテ意ナリ

襄二齊師徒歸

姑コ ムネク

苟且待之曰姑

姑ハニアクキヨツト間ト云意ナリ

僖姑少待我テ 周我姑酌彼金罍

薄ハク ムネク イサカ イタル

前後相逼之間曰薄

薄ハ今シバト云キミナリ 昭薄言還歸

少セウ ムネク 見于前  
スコレノマラ云

僖輔之以晋可以少安

間カン ムネク 見于前  
マラオク

有間少之少焉少選

頃之暫而ハラク 暫ハ目ノ前ノ明  
界ヲイフ字ナリ



○凡最率槩 抵歸類約

凡 オヨソ スベテ オチテ不誤 輯其所統平之日凡

凡ハ一ト通リシ処ヲヨビテイフナリ 凡庸ノ凡ヨリ 轉シタルナリ

鬼谷子 爲人凡謀有道 凡字謀ノ一字ニシカレ 凡爲人謀有道 凡ノ字ヒロク スベテ人ノ爲

ニスルニ 係リ

最 オヨソ スベテ 太カミト誤 義見于前

衛青傳 最大將軍青凡七出擊匈奴 複西域スベテ 用傳 取凡國五十

連 オヨソ 見于前 列連於形物亦然

應 オヨソ 見于前 唐職官志 應宗室賜名

百 オヨソ 百爾 凡百 大凡 大凡

率 オホム子 入声 度其大節均之日率 律上同音 義通ス

率ハ大ツチノトコロナリ

貨殖傳 食租稅歲率戶二百 複舊 大抵率寓言也

槩 オホム子 又作概 量其所出入略之日槩

槩ハマスカケノコト因チ打ナラシタル処ヲ槩去 梗槩 梗ハオホ

抵 氏底同 推其所類當充之日抵



抵ハ大カタコ、ラノコト、推ハカリテ云ク抵ト率ト彼ニツキテイフ

叔孫通傳頗有所増並減損大抵皆襲秦故

歸オホム子 趣向本處曰歸ト

歸ハ其主意ノアル処ヲ云ナリ

王莽傳大歸言莽當代漢有天下ラ

オホヨソト訓スル類 大凡 大要 大略 大較 大計

オホム子ト訓スル類 大率 大槩 大抵 大底 大氏オホヨリト云詞ハニテ

大歸子 大都子 大約子 大梗子 大要子 オホヨリト云詞ハニテ

オホム子ト云詞ハニテ 意旨ニカケテ採ス用ナリ

類オホム子 區別於域中曰類ト

類ハワカレアリテモ外ニナラヌヲ云

酷吏傳大抵吏之治類多成由等矣 類舉 類皆

約オホム子 大クリト訓ク 占其括要曰約

約ハク、リヨセルヲ云 抱朴子鍊金丹清酒中約二百過

致オホム子 較オホム子 並見于前ト

○慮諸統合 總切粗略



慮 リヨ スヘテ

悉 スシ 滙 ケル 之 ノ 我 ガ 所 ノ 億 ニ 念 ス 曰 ク 慮

慮 ハ コ シ ラ ズ 我 ガ 工 ノ 夫 ノ 中 ニ 引 キ 入 レ 見 ル

無慮ハアメリ多クテ工夫ノトビ  
カヌ処ヲ云無字無数無ト同

賈 シ 誼 ス 慮 ス 不 レ 動 カ 於 テ 耳 目

志

天 下 大 抵 無 慮 皆 鑄 金 錢 矣 トモ用

荀 ス 焉 ス 慮 ス 率 テ 用 テ 賞 慶 刑 罰 勢 詐 除 抗 其 下 獲 其 功 用 而 已 矣

諸 シヨ オヨソ  
モロク

イ ロ ク ト 記 ス 連 キ 其 所 各 列 曰 ク 諸

諸 ハ イ ロ ク ア ル ラ 集 メ テ 云

尉 繚 諸 オヨソ 去 テ 大 軍 爲 テ 前 禦 之 備 者

統 トク スヘテ

以 テ 一 管 衆 曰 統

統 ハ ヒ ト ツ ニ レ テ イ フ

通統舊國五新國三凡八大國

合 ガフ スヘテ

此 ニ 彼 ヲ ア ハ セ テ ヒ ト ツ ニ ス ル ナ リ

義 見 于 前

合 ハ イ ク ツ モ ア ル ニ シ テ ソ レ ラ 合 セ ル ナ リ

三 皇 本 紀 凡 ソ 一 百 五 十 世 合 四 萬 五 千 六 百 年

都 ト スヘテ 義 見 于 前 列 都 無 所 愛 惜

スル

渾 コン スヘテ ヒ ト ル メ ニ ト 記 ス

殊 シニ スヘテ 見 于 前

總 ソウ スヘテ

シ メ テ ト 記 ス 輯 テ 而 括 之 曰 總

總 ハ フ サ ト 云 字 ニ テ 其 本 ラ ク リ タ ル 意 ナ リ



切モロク 去声音砌 ニキエテト訣 籠掩衆多曰切

切ハモロクヲコメテ云 李斯傳 請一切逐客

粗ホバ 又作猶麤 サツト訣 率然未及粹密曰粗

粗ハ一事ノ上ニテソサナルヲ云精之反ナリ

司馬相如傳 請為大夫麤陳其略 五十六百平

略リヤク アミト訣 簡乎遺其縷曲曰畧

略ハ數アル中ニテ取シメラ云詳之反ナリ 粗ハ用畧ハ体

張蒼傳 略是紀征和以來 子荀大略 君人者隆礼尊賢

○幾豈巨寧 孰疇誰各

幾キ イッバク アニ 上声 所籌難直斥曰幾

幾イクバクト訓スルトキハ上声ニテ數ノシカト定ラヌ処ヲサヌ

幾何 幾多 幾許 幾詎 詎幾 幾所

北史盧玄傳 樂為此者詎幾人也

幾アニト訓スルトキハ豈ト音近シテ通シタルナリ

子荀幾直夫芻豢之縣糟糠爾哉

豈キ アニ イヤクト訣 豈者檢詰以反覆之之辞



豈ハカフデアルト云テモトフデカフデアアルミイト云意ナリ覬覦

シニ其興ヲ伺ヒ指ス意味ナリ豈ハイツニテモ相手ヲトリ

テ論レ詰ル辞ナリ

豈然然ルト云人ヲ立テ 豈可得乎可得ト云人ヲ立テ

十五 亦唯天所授豈必晋昭 九文之伯也豈能改物昭

已上ハ山豆字ヲ用ル正法ナリ 桓桓夫豈不知楚師之盡行也

成成二 豈無備而能出君乎蔡 豈非士之願與

五 晋吾宗也豈害我哉游俠 豈非人之所謂賢豪間者邪

已上句尾ニアル也乎与哉邪ナドノ字ヲハナシテ文義ヲ見ルベシ其スチワケニ也字ヲ加ヘ人ニ云カケルニテ乎字ヲ加ヘ向フニ和女子テ与字ヲ加ヘツヨク云々メニ哉字ヲ加ヘ疑フテ邪字ヲ加ヘタル

魏魏其 太后豈以為臣有愛不相魏其魏 變古乱常不死

則亡豈錯等謂邪曹 豈少朕與范 孺子豈有客

習於相君者哉已ニハ反語ニアラスコレハ臣有愛不相魏其トヲモヘルカヨモヤサフテハアルミイケレド云意

巨巨 渠者詰彼斥其所程分之辞

渠ハ彼ヲ輕シテコレ程ノ者トコナシテ言フナリ



高祖 公巨能入乎 漢孫渠有其人乎

寧 ムシロ イツクシ 寧者較以就所靖焉之辞 カリニ イツト 款ス

寧ハヤスズト訓シテ先ノクカナリニソレヘ落ツクナリムシロ

ト訓ズルモ先カナリニ其方ヘツク意ナリ人ニ云カケル詞ノ

時ハカナリニ其方ヘセラルヤト云意ナリ

寧ト豈トノ別ハ山豆ハ敵ヲトリテ論シツメタル辞ニテ辞緊シ 寧ハ心ノ上ニテコノ地位ニ落ツカルヤ落ツカレヌヤト一應言ヒタルニテ辞軟ナリ

昭十 子寧以他規我 養ニ 寧僭無濫

已上ハ寧字ノ正法ナリニタ寧ハ反語ニ非レ下ニ 乎邪ナドノ字アレハ語勢ニテ反語トナルナリ

魏其 帝寧能為石人邪 淮南 吾寧能北面臣事豎子乎

コノ類ハソレニ落ツカルヤト云カケタル ニテ落ツカレヌト云意ニモトルナリ

無寧 ムシロ云云スルナカラシヤ 毋寧 不寧 並ニ上ニ准

一 無寧茲許公復奉其社稷 養ニ 賓至如歸無寧菑患

十一 先君而有知也毋寧菑患

元 昭 不寧唯是又使闡蒙其先君

成 寧不亦淫從其欲以怒叔父 コレハ不亦トニ字ツギキタル語 上九ニ寧ハ一字ハナレテ見ルヘシ

無乃 乃云云ナル 毋乃 同上



昭其無乃是也乎 昭無乃戾也

昭無乃允諾 欲封禪母乃不可乎

莊無乃稱 意ナリ旧説ニ餘スル一ナカレト説クハ非ナリ

孰 孰ハドフシタワケノモガト其用ヲ問フ辞ナリ 孰ハ用

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉



與誰タレト其人誰令聽之タレモ其人令誰聽之タレト其人

各自キミ自各韓文各各疊用

大宛傳 令外國客徧觀各倉庫府藏之積

○詎侯那奈 奚曷何胡

詎キヨ通作渠巨邊トククヲト擬斥其所程分日詎

詎ハソ程ヲ指スカレト訓スルトキハ單用スルヲモアレバソト其程ヲ守ルニ

復列子巨奚憂焉 曷何渠不若漢張儀蘇君在儀寧詎

能乎趙世由此觀之何遠不為福乎

李陵別會見何渠央央ハ半也田說渠央

侯コウ義見于前的ニトリテ自ラシテイテ

司馬相如君兮君兮侯不邁哉注侯何也

那ナ義見于前ナト

那ハナデアルゾ彼ヲ所ヲ失フヲ詔フ辞ナリ那ハ外ヨリイフ

宜犀兕尚多弃甲則那ナ

奈イカン通作耐イカン乃帶切ス乃箇切去声トモイカナイ奈者嘆失所而奚嚮之辞



奈ハセシ方ナキヲシテ多辞ナリ 那ハ彼ニシテ云 奈ハ我ニシテ云

奈 一字ニハ我心ニテトモ 奈何 何字ヲ付シハドフモシヨフガナイ

無奈之何 相ダシシヨフモナイ 争奈 ドフシテシ

詔嗚呼曷其奈何弗敬 敬ヨリ外ニ 不可奈何願陛下

自寬 子 奈何哉其相物也 ドフテキハセヌ

奚 ドク画ヲ下契 奚者探其出自之原之辞

奚ハドウ云処カラ出テキテト其根モトラ推テ問スナリ

曾太山之阿奚有於深 深ト云ハキト 何有於我 アハセヌト

韓此道奚出 法術之士 奚道得進 道奚ハ奚字イツクトモ

道ヲトウナリ奚道ハ奚字 奚自 何從 焉從

曷 通作曷 曷者懼其必難然詰之之辞

曷ハカフアルトシテ道理ヲツクイニイツカト待ワル意アリ

昭吾子其曷歸 荀彼固曷足稱乎大君子之門哉

害 子孟時 日害喪 周害濟害否

イツカト訓スル類 曷日 曷時 久如 早晚 幾時

何 ワケガシテ 何者告己未有定見之辞



何ハトカク入クミアリテワケク知レヌ所ヲ問フナリ

謂何何トモ言ヤウガナイ又何謂何トイフク由何何トイフク

何由何トイフク以何何トイフク何以何トイフク何用何トイフク

何所用之用タツバシヨ

語荀息謂何東方歸遺細君亦何仁也

傳將軍而不知人何乃家監何曾曷嘗曷嘗

何也 何乎 何哉 何耶 何歟也乎等ノ別

者何也

イカト訓スル類

如何イカ、イタサフ何如トイフワケツ

若何イカ、ナサル何若イカ、ノオホシメシ

如之何ソレトイフ若之何ソレトイフ

戲場見ニ行ク見ニ行クヨキカヨカラサルカト問フハ何如ナリ

公曰易牙如何易牙ヲ相ニス蕭孝惠曰曹參何如曹參

ノ人カラ相ニヨカラ長起起何如人哉



十三 僖 五子取其麋鹿以問敝邑若何

韓詩外傳 武王曰然何若矣 イカニシヤ 定 八 晉五伐我病何如矣

奚如 ソノ根ハイカニシヤ 奚若 ソノ根ハイカニシヤ 奚何 根カニシヤ 云胡 カフイニ

曷若 トフセ 胡如 ウロシタル 云何 イカニシヤ 耐何 奈何ト

而何 ソノアト 何似 イカニシヤ 豈奈 イカニシヤ 爭如 イカニシヤ 難為 イカニシヤ

莊子以夫子之行為奚如 トガ 檀弓欲暴尪而奚若 トスル

鄭既見君子云胡不夷 魏 吾為子殺之亡之胡如

周云何吁矣 昭 牛謂叔孫見仲而何 注ニ而何如何ヲ同フスルハ粗ナリ

唐書事已爾未耐何 イカニシヤ

胡 ナリ 胡者矧其蒙昧未判之辞

胡ハウロシニテ分カラヌカテシユカヌガラ指スナリ

何ト胡ト別ハ胡ハ來カ往カ所ニ用ユ何ハ方今ノ処ニ用ユ

管子胡謂也 ワケノカヲヌ 何謂也 ワケノカヲヌ

小雅胡不萬年 五 種 父一而已胡可比也

復 小雅胡寧忍子 ナセニ 曷為乎 ナセニ 曷為 ナセニ 何為 ナセニ

奚為 ドライノ処カラ出テセララズ 曷奚 ナセニ



○盍闔遐庸 焉安惡鳥

盍 カ ナン 臣ル  
タ亮カニテ 盍者勸彼之宜爾之辭

盍ハカニルガヨイト其ツリヲ言聞ス辭ナリ闔ノ義ヨリ出

タルナリ何不二字ヲ輕ク軟ニ云タルアバイナリ

盍 カ ナスル  
ガヨイ 何不 ナ セカク  
胡不 ナ セカセ

奚不 ド フイフク  
曷不 ド フシテサフ

僖二十三年 子盍蚤自貳焉

闔 カ ナン セサル  
闔與盍同

復 カ 子闔胡嘗視其良 子闔不起為寡人壽乎

遐 カ ナソ  
遐者詰邈遠難度之辭

遐ハ遠クテ分ラヌ処ヲ詰ルナリ  
遐何音近ケレ在遐ハ外開  
何ハ内開合ニ來待別ナリ

小雅 樂只君子遐不眉壽  
鄙風不瑕有害ノ瑕字旧説  
ニ遐ト通ス非ナリ今不取

庸 カ イツシ  
ニ子元ヤト訣ス 義見于前

庸容ト通シテ上ニ置ク時ハソコヲユサルヤ  
元サハセイト云フニテ反語トナルナリ

家 此天所置庸可殺乎  
可殺ト云ニシテ  
ヤラルヤ

復 昭庸何傷 荀女庸安知吾不得之桑落之下

幼語 昭庸何傷 荀女庸安知吾不得之桑落之下



子庸詎可乎

焉エシ

ハシメテ多ク交焉者提其地位以覆之之辞反辞之焉

焉ハ語尾ニル時ハソレトト巨ト地位ヲスエルナリソレヲ語頭ニ  
オケバ云云ノコニ地位ガスエラルヤト云カケタルニテスワリハセヌ  
ト云立息ヲ持テ反語トナリ

凡ナシト云詞ハ問フ辞ナリイツクシト云詞ハ答フル辞ナリ  
イツクシノハイツクニテモ相手ヲ持テ論ツメル程ノ意味ナリ

十襄ニ父戮子居君焉用之 十襄ニ朝者曰公焉在

安アシ

ドシテト訣ス 安者詰彼其所奠地位之辞

安ハドコヲニカトサガス意ナリコノ地位ニ安ンセラルヤト云カケ

タルニテ安ンセラレハセヌト云義ニ還ルナリ 焉ト惡ハ用ナリ  
安ハ体ナリ

安在哉 トコラニアルゾ 焉在 不在ト思フ 何在 アルトコロ  
ガワカラヌ

辨今吾安居而可一然則寡人安所太仁安不忍人

傳酷吏言变事縱跡安起

惡イツクシクシ 平声 ドシテト訣ス 惡者蔑視以壓之之辞

惡ハドフレテアレガサフナラフゾトコナシテ言フ辞ナリ

焉惡ノ別ハ焉ハ相手ヲ持テ受テ論スル辞ナリ  
惡ハ論スルニ及ハス我ヨリコナシテ言フ辞ナリ



昭爾幼惡識國禮書無天地惡生無先祖惡出

鳥フイッシナトクス鳥者嘆其懸遠邈絕之辞

鳥ハ中ノナトシテ其段テハナイト嘆シテイフ辞ナリ說文鳥呼也

司馬相如傳使者曰鳥謂此邪 全 鳥有先生

○嗟噫嘻戲 唉歎嗚呼

嗟ア コハクト 嗟者感發之聲

嗟ハコハクト感心シテイフ辞ク喜賞ニモ悲嘆ニモ用ユ

嗟夫発語ニ用 嗟乎乎ハ人ニ

周南嗟我懷人疊商 嗟烈祖

噫イ エト 噫者憤激之聲去声時ハ鳥解切ニ噫氣ナリ

噫ハ抑鬱シテ通シガタキ時ノイキレオリノ辞ナリ

論語 噫天喪予梁鴻五 陟彼北芒兮噫

意イ キト 意者毒哉

嘻キ キト 嘻者銘刻之聲

嘻ハ心肝ニ徹シテ腹ノ底ヨリ出ル声ナリ笑嘻々トモ泣嘻々モ

公羊慶父聞之曰嘻 莊謔善哉技蓋至此乎

力吾審下



褒<sup>三</sup>喜<sup>三</sup>喜<sup>三</sup>出<sup>三</sup>出<sup>三</sup>

戲<sup>キ</sup> ア、 噦<sup>同</sup> クダガト記ス 噦者<sup>キ</sup>歛<sup>ク</sup>歛<sup>ク</sup>之<sup>シ</sup>聲<sup>シ</sup>

噦<sup>ハ</sup>敬<sup>ハ</sup>驚<sup>ハ</sup>惋<sup>シ</sup>シテ思<sup>ヒ</sup>ヒカケ<sup>テ</sup>ク出<sup>ル</sup>ク声<sup>ナリ</sup>ナリ悲<sup>喜</sup>共<sup>ニ</sup>用<sup>ユ</sup>

唉<sup>アイ</sup> 平声 チイト記ス 唉者<sup>ア</sup>怨<sup>ハ</sup>恚<sup>ハ</sup>之<sup>シ</sup>聲<sup>シ</sup>

唉<sup>ハ</sup>恨<sup>ハ</sup>言<sup>ル</sup>声<sup>ニ</sup> 王剪牙歛ノ歛ハ當作唉ナリ

莊<sup>子</sup>唉<sup>我</sup>知<sup>之</sup>將<sup>語</sup>若<sup>何</sup> 項羽本紀 唉<sup>豎</sup>子<sup>不</sup>足<sup>與</sup>謀<sup>之</sup>

歛<sup>アイ</sup> 去声 歛者<sup>ア</sup>懊<sup>ハ</sup>懷<sup>ハ</sup>之<sup>シ</sup>聲<sup>シ</sup>

歛<sup>ハ</sup>愁<sup>ハ</sup>歎<sup>ク</sup>声<sup>ニ</sup> 歛平声ノ時ハ唉ト同シ去声ノ時ハ歎声ナリ字彙ノ注ハ混シテ別ナシ用ユヘカラス

楚詞<sup>九</sup>章<sup>歛</sup>秋<sup>冬</sup>之<sup>緒</sup>風

歛審美トモニ韻文ノ外ニハ用カタシ

嗚<sup>フ</sup> 鳥同 嗚者<sup>ア</sup>憂<sup>ハ</sup>歎<sup>ク</sup>之<sup>シ</sup>聲<sup>シ</sup>

嗚<sup>ハ</sup>幽<sup>ハ</sup>界<sup>ニ</sup>テ目<sup>ニ</sup>見<sup>ヘ</sup>又<sup>遥</sup>遠<sup>キ</sup>处<sup>ヘ</sup>心<sup>ヲ</sup>想<sup>ヤ</sup>リテ歎

ク辞<sup>ナリ</sup>憂<sup>ハ</sup>悲<sup>ニ</sup>テ用<sup>ユ</sup>

呼<sup>フ</sup> 又作嘯 通作嘯 呼者<sup>ア</sup>喚<sup>ハ</sup>發<sup>ハ</sup>之<sup>シ</sup>聲<sup>シ</sup>

呼<sup>ハ</sup>ヨヒカケ<sup>ル</sup>ナリ怒<sup>ニ</sup>モ畏<sup>ニ</sup>モ用<sup>ユ</sup> 嗚呼ト複用スルトキハ憂悲ニ用ユ

文<sup>呼</sup>役<sup>夫</sup> 怒テヨナリ 檀<sup>曾</sup>子<sup>聞</sup>之<sup>瞿</sup>然<sup>曰</sup>呼<sup>レ</sup>

叱<sup>啞</sup>寒<sup>羌</sup> 嘆<sup>咨</sup>都<sup>吁</sup>

力<sup>語</sup>聲<sup>義</sup> 卷之十



叱ヒツア、  
叱者呵咤之聲

叱ヒツハ方ル辞ナリ  
趙叱チ嗟サ而母婢也

啞アア、  
啞者暗諤之聲

啞アハ出カヌル声ナリ  
鴉字ト同音ニテカラスノ如ク只アノト云声ナリ

韓カン啞ア是非君人者之言也

蹇ケンア、  
蹇者礙訥之聲

蹇ケンハトモル声ナリ  
蹇蹇ケンケン朝諄チン而夕替キ

羌カウア、  
羌者努強之聲

羌カウハツトメテキハル声ニ  
楚羌チカウ中道而改路

慶カウア、  
慶カウ天悴而喪榮

嘖カンア、  
嘖者咳渴之聲

嘖カンハ老人ノシガレタル声ナリ

咨シア、  
帝下車泣曰嘖大姉何藏之深也

咨シ者託囑之聲

咨シハ我心ヲ向スツケテ問フ意ナリ  
堯咨シ四岳

嗞シア、  
嗞シ嗞シ乎







複嗟乎

傳 嗟乎有故也

噫乎

河渠書 噫乎何以禦水

噫嘻

魯仲連傳 噫嘻亦太甚矣

於戲

周書 於戲前王不忘

嗚呼

檀弓 嗚呼哀哉尼父

烏呼

嗚呼嗚呼嗚呼

於乎

於虜同

陸氏音嗚呼然レ在於嗚ヲ一ニスルハ粗ナリト謂ヘレ於乎ハヤリ於乎ノ字義ヲ見ルヘレ

雅於乎小子

咨乎

秦傳 咨虜群公可不憂哉

猗歟

頌猗與那與

猗嗟

齊風 猗嗟昌兮

于嗟

周南 于嗟麟兮

于嗟乎

南 于嗟乎騶虞

俗語助字

コノ下ニ載ル所ノ助字ハ小説俗語ノ字ニテ雅文ニ入  
ベカラズ勿論皆出処アレハ小説ノナレハ舉引スルニ及  
ハズ只二三ノ熟語ヲ録シ俗譯ヲ附シテ初學ニ示ス

馨麼地阿 頭佞許價

馨

古文ノ兮字ト同意ナリ

兮字ノ下ニ詳ナリ

世正自爾馨

介リト云テ語ニ餘韻ヲ含タル

寧馨兒

コノヨリナ兒ト云フニテコノヨリナヨキ兒ト云意ヲコ

メタルナリ又コノヨリナアシキ兒ト云フニモ用ユ

勅語







縦許 イカバカリ 何許

價 ホド、訳ス

天價哭 天ホドニ 地價哭 地ホドニ 山價海價 山ホドニ 海ホドニ

○恁儘做慣 件色上下

恁 カク、 カヨフト訳ス 恁地 ホリト 恁兒 同上

恁麼 シトフ 恁様人 ナコヨフ 恁地時 トキ

儘 タトヒ 盡同 ナンボフモト訳ス

儘力 チカラ 儘道 盡道 儘着

做 タ ニスルト訳ス

看做 ミナス 做主 サシテ 做家 シニツ 做一家 ニスル

慣 ナラフ ナレコニナルト訳ス 慣看 ミナレル

件 シテト訳ス

两件 ニタ 一件 ヒト 那件那色 ナレテモ カデモ

色 シヨク 其 コノ 状 カタ 云 イハレ 件 ヒト 体 タマシ 本色 モチ 名色 イロシキ

上 ウヘ 其事 コト ラ重 オモシ レシテイフ意ナリ

看上 ミウケ 添上 ソエ 一頂 ヒトタマシ 晚上 ヨル 個頭上 ヒトコノ







那事デシ 那里カシロ 那裏アタタ ゴト

他カノ 平声 他ハ 自ニ 對シ テイフ語之他家カレ 他們カレラ

這キコノ 者ト 通ス 其コノ 主ニ 書コノ 這賊誤我

這為トシ 這遭コノタヒ 這遍コノタヒ 這等ラカ 這頂コノ

箇カ 個コノ 同 箇ツト 誤ス 逐個ヒトリ 則箇カフセヨ

若箇ソコバク 箇裡ウチ 一箇箇ヒトリ 真個ホシ 者箇コノ

○可該是也 解險然此

可カ 前ニ 出 可カ 曾ツ 可カ 憐レ 耐ヤ 可カ

小可シコ 寧可ヨレサラバ 可中コノウチ 就中ト 同 若可カク 若柯モ 同

則可カフセヨ 可カ 下個客店

該カ 古文ノ宜字ノバレヨニ用ユ

該是シ 該當同上 應該同上 合該同上

是コ 前ニ 出 正是ニモカ 終是デドフ 更是ベツ

可是イデハナ 寧是イツクノ 莫是イデハナ

也マタ 一々畢竟ソノ スチニナルト云意ナリ 詩經ノ俾也可 忘ノ也字 揭

上法ナレト訓スヘキ意持アリ  
コト也ラ一タト訓スル根源ナルヘシ  
物語釋義 卷之一 四十九



解カイ ヨク 古文ノ能字ノハレヨニ用ユ

解道ヨクダウ ヲ取テラヨクスル者ハナシト云意ノ解道取涼州ト云ハ非ナリ

省セイ ヨク 古文ノ善字ノハレヨニ用ユ

險ケン ホトド 古文ノ殆字ノハレヨニ用ユ

險不ケンブ ホトド 不字反語ニナリテホトドト云云ナラサヤト云意ニテ二字ニテホトドト訓スルナリ敢不トカキテ敢スルト云意ニナルト同埋ナリ

然ゼン 前ニ出

縱然ジュゼン 險然ケンゼン 猛然マゼン 陡然トゼン 坐然サゼン 居然コゼン

些シ 去声 前ニ出チヨイト、訣、慼些シ、好些シ、

這些コラ 那些コラ 快些ハヤク 早些同上

○任放浪謾 不休没莫

任ニ 平声 マ、ヨト 訣ス 饒ニ 前出 從ニ 縦ト同 信ニ マカス意ナリ

任從ニ 下皆同 任放ニ 任遣ニ 一任ニ 任教ニ

任他ニ 從令ニ 從遣ニ 從他ニ 從教ニ 放教ニ 儘教ニ

放遣ニ 遮莫ニ 遣渠ニ 聽他ニ 從信ニ 饒任ニ 從聽ニ

遮渠ニ 饒渠ニ 從儻ニ 以上皆サモアラハアト訓ジテ大抵同意ナリ

總ソウ 縦ト通ス 總道ソウダウ 任是ニ 任儻ニ 說任ニ 直饒ニ



放シム 古文遣字ハシヨニ用ユ 容シムヨリ轉シテ許ニス意

浪ミダリニ タワイナシト訣ス

孟浪ミダリニ 浪孟同上 孟八郎ニシテ

謾ミダリニ 漫同 ムチヤニト訣ス 忽謾ミダリニ 漫祖

不 不字俗語ニテハ反語ニナルコト多シ

不分ミダリニ 分忿通ス 好不大熱ドフモクアツク

休ミダリニ ヤメヨト云意ナリ 休道ミダリニ 休論ミダリニ

没ミダリニ カシテ見エヌコト現ノ反ナリ 古文ニモ没 勿ト通ス

没巴鼻チカリ 没交渉ヨツテモ 没奈何ヒカク

没主張リヤク 没肚子カキク 没撩没乱ルダ

没多時ホド 没天理キダナ 没道理ナク

莫ミダリニ 莫ハナカラシヤト訓シテナカラシヤ有ルマイモデモイ

ト云義ヨリ轉シテナカレト訓スルナリ 有マイモデモイ用心ヲセヨ ト云ナリ禁止ノ辞ニ非ス

莫道イナナカラシヤ 莫非キル反語トナル

○來去除只 說道得着

來ガカリ コロト訣ス 百來里百里 鳩來ゴロ



聿來 同上 向來 同上 却來 却後モ同 適來 イマ

原來 サス 又來 モヤ 一來 ヒトツ 總來 スベテ

去 キヨ テト訣ス 老去 テオヒ 醉去 テヒ 做去 テヒ

除 ジヨ セヒテト訣ス

除却 除却 除非 非字反語ニナリテタゞ云云ニ非ラヤノ意ニテニ字ニテタゞト訓スルナリ

只 ジ 前ニ出 只管 ヒタ 只顧 同上 只麼 同上

只是 ヒカ 只好 同上 只索 イッソ

說 シヨ ナラト訓ス也 斯ノ畧ナリ

聞說 ケンセツ 見說 ケンセツ 言說 ケンセツ 聞道 見道 言道 モ同シ

道 ダウ 去声 說 ト同シ バシヨニ用ユ イフト訓スルヨリ 轉用セルナリ

那道 シドフ 難道 モ同 知道 シダシ 怪道

得 トク タリト訣ス 搥得 思ヒキツタリ 了得 シミヒラ

看得 ミテ 會得 ユミ 認得 ミサヒ 帝得 アキテメル 帝諦通

着 チヤク シム アテルト訣ス 情着 情カ動 撞着 ユキ

乱着 イソカシラ 托着 カス 為着 タメ 背着 ムケ

朝着 向フ 着急 コト急 推着 キバ 安排着 サシツ



○負取率斗 打赤了却

負 彼ヨリセラル、之為所ノ意ナリ 欺負ル、サ 辜負ラル

取 我ニテセラル、ナリ

判取ツテ 認取トシ 好取トシ 看取ル

率 多ク 少クカト 誤ス 莽ト同シ倉 卒ノ意ナリ 率地

斗 多ク 少ク 陡同 多クト、誤ス 猛 ヒトクユルニナキ

劃 切ツケルホドニ急ナリ 瞥 目ニテアリト見ル間云 霎時

打 丁雅反 デカスト 誤ス 打聽カスデ 打扮カス 打恭カス

打點ガテシ 打張スル 打斲イキ 打頭タツ 打磕掴子云

打疊個包兒 打疊ニケツ、ニ 不敢打市上走

赤 子遺ナキヲ云 斥由、斥ト同音ク 赤貧ホラ、ヒニ 赤憎エラ、ニ

了 了ト 誤ス 古文、爾字

一了百了 百テモ 錯了ナヒ 結果了ツイタ 引了ツ

耽閣了 オク 絆了ツキ 拌了ハス

却 サテト 誤ス

却說サテ 老却オホ、ホ 賽却タ 減却オシテ



○恰纜剛的 殺生樣脚

恰カマモ 其程位ヲ形貌シテ云ナリ 癡ハ用ナリ 恰ハ体ナリ

恰好ホド 恰似 恰纜

纜サシ ヲクニト誤ス 方纜サシ ヲソコテ 適纜イタ

剛カマ シヒテ オシヨクト誤ス 剛方カマ ガイマ 剛道 剛地

的サニ ガト誤ス 成精的ハケモ 粗鹵的ラチモ

老實的ギリチ 有的アリ 臃腫的モクモ 出名的セイン

呬呀款乃的ハツシ 流水的トラク

殺サイ ハナダ又作慈 セツラシクト誤ス

忒殺ツナ 可殺同上 妊殺ヒナ 嫌殺ヒナ 嚇殺ラトシ

生シ 始テ其ニ出合タル意ナリ

生憎アダイヤ 生怕アダコ 作麼生ジドフ

太俗生俗ナク 太清生雅ナク 何似生イカン

樣ヤウ 物ヲカタトリテ云 小樣的ヤサ 什麼樣ナニヨフ

脚ケツ ソク持ヘヲ云 手脚テナミ 元和脚白樂天元積ノ詩ヲ元和脚ト云 元和時代ノ手ナミト云フナリ



○向和枉賸 番回子兒

向キヤウ ヨリ 前ニ出

一向ヒタ 向上以 向裏ウラ 那向アノ ヲ

和ト 古文ノ與字ノバシヨニ用ユ 和着トモニ

枉ワウ ニテ ムカニト誤ス古文ノ徒字ノバシヨニ用ユ

賸ジツ ヘ 實證切又時正切 一タソノウヘニカフアルト云処ニ用ユ古文ノ矧

且ト二字アルバシヨナリ

番バン 去声 般同 一段一齣ノ意ナリ

這般タコノ 恁般同上 今般同上 諸般イロ 盡般クモク

箕箒般箕ノ如クニ 一般兒ヒト

回クハ タビト誤 番ハク用 這回タコノ 次回タビノ 下回同上

子シ ソノ内ニ持タル意テ子字ヲ添ルナリ

耐着心子ニナラヌ 耍子ハカ 寒栗子ヨダツケ

様子モノ 鏡子カバ 筆子フデ 簪子ガカン

兒ニ 物ラ小サヤサキモノニシテ云トキ兒字ヲツケルナリ

方勝兒ムスビ 一字兒ジイチモン 醃菜葉兒ナギキ

カ五番 五十五



彎角兒 リトガ 一塚兒 ヒトカサ 蠢老兒 アホヲ

砲兒 ビヤ 熊兒 クマ 蛇兒 ナガ 被襖兒 フトシ

珠淚兒 ナミダ

○靠交消厮 哩呢咄唳

靠 カウ ヲリ 古文ノ由字ノバシヨニ用ユ

交 カウ シム 教ト同音ニテ通シ用ユ

消 ベレ 音須 須ト叶音ニテ通シタリ

厮 アヒ 入声思必切 古文ノ相字ノバシヨニ用ユ

哩 リ ワイト訳ス カフギワイ カクアルゾト云聞ス辞ナリ

呢 ニ ハト訳ス カフスルハ ドズルハ

咄 ア コレサテト訳ス其コトノ不滿ヲ叱スルコトナリ

咄 ア 咄咄 コレハサテ 咄嗟 コレハサテ

唳 ア 呼笑ノ声ナリ

○古今語辭 槩具于斯

精之覈之 勿錯毫釐

助語審象卷之下



文化十四年丁丑仲冬新鑄

平安書林

三條通堀町西江入下

出雲寺文治郎

二條通衣棚角 風月庄左衛門

御幸町通御池下ル下

菱屋孫兵衛

日本橋通四日市

松本平一助

心齋橋筋安堂寺町南江入

秋田屋太右衛門

名古屋本町七丁目

永樂屋東四郎



明治卅一年二月 江戸  
三日買得愛讀古

0.30 大阪 尾州

○皇都書肆五車樓藏版略書目

御幸町通 御池下ル 菱屋孫兵衛

芥子園畫傳 唐本翻刻 五冊

竹堂画譜 諸名家ノ書画ヲ多クアツム 一帖

山水之部

同 二集 六冊

同 二編 一帖

花鳥之部 并人物樓閣之式

同 三集 八冊

蘭竹梅菊之部

同 画傳考 一冊

明朝紫硯 三冊

明々大家文進玉川其外名家ノ花鳥  
草花ノ画ヲ悉ク彩色ニテ多クアツム

和漢雜画 寒葉齋画 五冊

唐画捷徑 一名画法小識 一冊

此書ハ唐画ノ獨リ替古ノ書ニテ  
山水ノカキカタヨリ花鳥人物蘭  
竹梅菊ニ至ルニテ悉ク画圖片カナ  
ヲ以テ委シク記シ初心 便リトス  
初メヨリ此書ヲヨクニ早ク功  
者ニナルコトウタカヒナレ



漢画指南

此書漢流画學ノ階梯ニシテ蘭竹梅菊及ヒ山水人物ノ画法其外種々唐画ノ筆ツカヒラフラスレテ國字ヲ以テ初心ノ解ニスキヤウニ詳カニ記ス實ニ漢流画學必用ノ書ナリ

同 二編 文鳳山人著

二冊

山水樹木ノ式ヨリ山水画式山水中ニ用ル處ノ小人物ヲ多ク集ム又西湖ノ圖二十景余微細ニ記ス

杜氏徵古画傳 中江松篁著

三冊

竹洞山水画稿

二冊

李用雲竹譜

一冊

和漢象画苑

画本圖編 英一蝶画

三冊

草花画譜 山口素繪画

三冊

倭人物画譜 全画

三冊

同 後編

三冊

笑府 清墨懸齋著

一冊

漢土ノ俗語ニテ種々ヲモシロキヲカシキ話ヲアツム

春癡折甲 池大雅堂著

一冊

俗語ニテ種々ヲモシロキヲカシキ話ヲ多クアツム

虚字解

全

二冊

同 續

全

二冊

實字解

全

三冊

同 二篇

全

三冊

淇園詩話

全

一冊

同 文集

全

三冊

論語釋解

全

十冊

皇都名勝詩集 小本

二冊

春秋左氏傳考 明霞先生著

三冊

宋詩選 小本

一冊

十八史略 新刻

七冊

增補元明史略 新刻

四冊

片歌 中ははら草 綾足太著

二冊

附録花月一夜論辨

此書日本記古事記万葉集等ノ歌ノ中ヨリ上代中世近代ノ片歌アリ并

俳諧發句連歌等ノ片歌アリヲ委

シテアラハル其外言語平話字音假

名ゾカヒ等ノ古例ヲモアゲ和文ノ書

方古例等ニテモ微細ニルルス歌學又

連俳必用ノ書ナリ

列仙圖贊 月仙画

三冊

此書月仙ノ画ニシテ列仙傳ノ人物ヲ悉ク微細ニ画キ贊ハ大典禪師ノ作ナリ

諸仙人ノ画ヲ學フニ必用ノ書ナリ

續文變

一冊

明詩材

一冊



二十一史略

十冊

一二卷ハ開闢ヨリ清朝ヲ帝王歴代ノ治乱纂弒ヲ略紀シ其帝ノ即位本邦某帝ノ何年ニ當ルニハトテ書ス四卷ヨリ十卷ニ至テハイロクテ四十七韻ニ分チ年号ヲ侯人倫官觀雜事怪異ト部ヲワケテ其年ヨリ貞享四年一テハ何年ニナルト云コトヲ委ク記ス歴代ノ事跡ヲタツヌルニ甚タ便利ノ書也

日本歴史略

四冊

天神七代地神五代次一人皇ノ始メ神武天皇コノカタ後陽城天皇慶長十九年ニテノコトヲ國字ヲ以テ委ク記ス實ニ日本歴代ノ事ヲ考ルニ此書ニサルモノナシ

王羲之六十帖

草書 東江先生跋

一冊

葛原詩話

二冊

此書ハ宋風ノ詩ヲ學フ多ク六如上ノ著者ノ所ニテ名家詩中ノ奇字妙語ヲ選集シテ國字ヲ以テ解シ且ツノ出処作例ヲ委ク記ス實ニ詩人日用弄玩シテ有益ノ書ナリ

同 後編

二冊

事物紀原

明胡文煥校正

五冊

大ニテ天地山川小ニテ鳥獸草木微ニテ陰陽顯ニテ礼樂制度古今事物ノ始メヨリ万殊ヲ變ニタルテ諸書ヲ引テモル所ナクアツタル書ナリ

趙子昂紫芝帖

正面摺

一帖

同龍興寺碑

行書中字 正面摺

一帖

寛永行幸記

平賀 画入

三冊

寛永年中御上洛ノコトヲ画圖平カナツ以テ微細ニ委レク記ス

日本詩鈔

小本

一冊

日本各家ノ詩ヲ多クアツム

日本文鈔

三冊

祖祿南郭周南太宰其外日本ニ名アル處ノ諸家ノ文ヲ數多集ム

日本詩故事選

本

二冊

唐咏物詩選

本

一冊

歷朝咏物詩選

本

四冊

謝宗可咏物詩

小本

一冊

唐譯便覽

五冊

唐土ノ談話ヲイロクノ四十七字ニ部ヲ分チ傍ニ片カナヲ以テ華音ヲ附レ下ニ譯ヲ加ヘ且字ゴトニ平上去入四声ヲ点ス華音ヲ學バント欲スルニ多ク益ノ書ナリ

本朝年代考記

二冊

六書正譌 元周伯琦著

四冊

咏物百首 大田玩鷗著

一冊

同雜體百首 全

一冊

尺牘書翰諺解

三冊

南木武經 補正成著

五冊

詞のふれ緒 松坂本居翁著

七冊



增訂習文録甲乙判 二冊

皆川淇園先生著

此書ハ囊三世行ハル、習文録ノ卷末ニ載セタル甲乙判ナル、淇園先生自増訂シテ字義ノ精練、又理ノ微密ニ至ルテ中否ヲ判レ異同ヲ辨レ口訣ヲ洩サズ丁寧詳悉ス此ヲヨムトキハ作文ノ益アルノミナラズ凡テ漢人ノ文ヲ解スルニ國習ノ弊ヲ除ヒテ真意ヲ得ルノ妙訣ヲ會スベシサレハ作文ヲ學ヒ習フ大益アルハ言ニ及ズ此ニ由テ推シテ古具眼ノ基タルコトヲ得テ經史百家ノ書解スル於テ大益アリ實ニ文ヲツクリ書ヲ讀ミ解スルノ階梯多ク必用ノ書ナリ

同本一篇 二冊

詞草小苑 小本 一冊

和歌枕詞ノ書ニテ燭明抄ニ添ハタル詞ヲ大ニ増補ス且其詞ニ々注釈ヲ加ヘアイウヘラノ五音ニ分チ日本紀古事紀万葉集等々古歌ヲ引テ委ク記シ旅中席上等ニテ作例ノ急用ニシテフル初心ノ便リトス世ニ枕詞ノ書多シトイヘトモ此書ニサル重宝ナレ枕詞ノ早引ニテ歌人必用ノ書ナリ

詞のちりぢり 松坂本居翁著 二冊

此書ハ詞ノハタラキヲ委レクアラハシタル書ナリ

万葉波紋鏡 全 一冊

此書ハテニラハノ定リヲ委レク圖ニアラハシタル書ナリ

虛字解 皆川先生著 二冊 詩語國字解 一冊

同 續編 同 二冊 詩礎諺解 一冊

實字解 同 三冊 葛原詩話 二冊

同 二編 同 三冊 同 後編 二冊

助字詳解 同 三冊 詩韻國字解 二冊

日本詩鈔 一冊 詩文製式 一冊

日本文鈔 明霞先生著 三冊 日本詩故事選 二冊

白詩選 小本 一冊 詩韻會英異同辨 再板 四冊

皇都書肆 京御幸町 御池通下 菱屋孫兵衛







